

翻刻『論語義疏』(大槻本)

——学而篇・為政篇——

影山輝國
洲脇武志
齋藤建太

はじめに

『論語義疏』研究会は、『論語義疏』を会読する目的で、大東文化大学と二松学舎大学の大学院生を主体とする有志が集まり、平成十八年四月十四日に誕生した。その後、実践女子大学の大学院生や他大学の教員なども加わって、現在では総勢八名を数えている。

研究会では当初、さまざまな鈔本や刊本を比較しつつ読み進めていたが、そのうち、文明十九年に近江国曹源寺意足庵において二十五歳の周篤が書写した、いわゆる「大槻本」の訓点が一番も詳密であり、室町時代の読み方を知る上で参考になることが判明し、これを訓点通りに翻刻しようとする気運が生じた。既にこの成果は、拙稿「翻刻『論語

義疏』(大槻本)——皇侃自序——(『実践国文学』第七十四号 平成二十年十月)、「翻刻『論語義疏』(大槻本)——何晏集解序疏——」(『実践国文学』第七十五号 平成二十一年三月)となつて結実している。

今回は、これに引き続き、「学而」「為政」両篇の翻刻を発表する。前者は洲脇武志君、後者は齋藤建太君が担当した。二人は研究会創立以来の有力なメンバーである。

凡例

一、本訓読文は慶応義塾大学附属研究所斯道文庫に蔵せられる文明十九年鈔本『論語義疏』(いわゆる「大槻本」)を、原文に附せられた訓点に従つて読み下したものである。

一、原文は每半葉九行、毎行二十字、疏文小字双行である

が、翻刻に際してはこれにこだわらなかつた。

一、使用する漢字は、コンピュータ処理の上で可能な限り旧字体とした。

一、原文の異体字は、原則として正字に改めた。また、繰り返し符号で表記されているものは、相当する漢字に改めた。

一、原文にはカタカナで振仮名や送仮名が附せられているので、それらはみなカタカナを用いて表記した。その際、「メ」「リ」「寸」「云」「子」などは、それぞれ「シテ」「コト」「トキ」「イフ」「ネ」などに改めた。また、繰り返し符号で表記されているものは、相当するカタカナに改めた。

一、振仮名、送仮名には若干の例外を除き濁音符がないので、例外箇所を除き濁音符を附けることはしていない。

一、振仮名と送仮名は、なるべく原書に忠実に従うことに努めたが、両者の判別が困難な場合、原則として活用語は語幹を振仮名と見做して漢字の脇に、活用語尾を送仮名と見做して漢字の下に表記した。その他の語もなるべく読みやすい形で表記した。

一、カタカナが、読み的一部分だけしか示していない場合は、残りの読みを推定し、ひらがなを用いて補った。

その際、原則として古典文法に則り、音便形を用いていない。

一、頻繁に用いられる「日^ノ」、「則^ハ」は、それぞれ「ノたうはク」、「ときハ」とも読めるが、ここでは「ノたまはク」、「ときんハ」と訓じた。

一、全く仮名の附せられていない「欲」、「雖」は、「ほりす」、「いふとも」ではなく、「ほつす」、「いへとも」と訓じた。

一、漢字の左右に二通りの訓がある場合は、右傍訓を優先して表記し、左傍訓は括弧に入れて表記した。間々、漢字の右側に二通りの訓がある事があるが、その場合はより漢字に近い訓を優先して表記し、遠い訓は括弧に入れた。

一、漢字の右側に附せられた振仮名は右側に、左側に附せられた振仮名は左側に附した。推定して補った読みも、右側にあるべきものは右側に、左側にあるべきものは左側に附した。

一、訓読文中では不読字(置き字)はすべて省略した。どの文字を省略したかは、訓読文の前に示した白文(読点付き)から判断願いたい。

一、訓読文中では再読文字はその文字を再度表出して、あたかもその文字が二度使用されているかのごとく表記

してある。その際、一々再読であることを示していないので、どの文字を再読したかについても、訓読文の前に示した白文から判断願いたい。

一、地名・人名・官名・書名などを示す朱引は、すべて省略した。

一、原文では句点と読点の区別がなく、すべて行の中央に朱点が附せられているので、ここでは句点を用いず、すべて読点を用いた。また、明らかに附け落しと思われる箇所には、白抜き/read pointを補った。

一、原文には墨筆の縦線で、漢字の右脇に音読符、左脇に訓読符、漢字間の中央に音合符、左側に訓合符が附せられている。これらはすべて忠実に再現するように努めたが、明らかに誤りのあるものは訂正した。その際、一々注記することはしていない。

一、原文に書き入れられている心覚えのためと思われる文字や記号は省略した。

一、各章末に、武内義雄刊『論語義疏』（大正十三年一月懐徳堂記念会発行。「武内本」と略称する。）との文字の異同を記した。武内本は誤植が少なからずあり、必ずしも拠るべき最善のテキストとは言えないが、多くの方が参考にすると思われるからである。

翻刻掲載にあたっては、慶応義塾大学附属研究所斯道文庫の承諾を得た。特に記して感謝の意を表する。

（影山輝國）

論語義疏卷第一 何晏集解皇侃疏^(三)
學而第一 疏^(四)

(一) 「二」下、武内本有「學而／爲政」四字(小字雙行)。

(二) 「何晏集解皇侃疏」、武内本作「梁國子助教吳郡皇侃撰」。

(三) 「學」上、武内本有「論語」二字。

(四) 「二」下、武内本有「何晏集解」四字、「凡十六章」四字(小字單行)。

(五) 「疏」、武内本別行跳格。

【疏】

論語是此書總名、學而爲第一、第篇別目、中間講說、多分爲科段、侃昔受師業、自學而至堯曰、凡廿篇、首末相次、無別科重、而持學而最先者、言降聖以下、皆須學成、故學記云、玉不琢不成器、人不學不知道、是明人必須學乃成、此書既遍該衆典、以教一切、故以學而爲先也、^(三)第者審諦也、一者數之始也、既諦定篇次、以學而居首、故曰學而第一也、

論語ハ是レ此ノ書ノ總名ナリ、學而第一ト爲、^(三)第八篇ノ

別目ナリ、中間ノ講說、多ク分テ科段ヲ爲ス、侃昔師ノ業ヲ受ルコト、學而自リ堯曰ニ至マデ、凡ソ廿篇、首末相ヒ次ツ、別科ノ重ル無シ、學而ヲ持ツテ最モ先トスルコト者、言ハ降聖ヨリ以下、皆ナ學ヲ須チテ成ル、故ニ學記ニ云ク、玉琢カ不レハ器ト成ラ不、人學ヒ不レハ道ヲ知ラ不ト、是レ人ハ必ス學ヲ須チテ乃シ成ルコトヲ明ス、此ノ書既ニ遍ク衆典ヲ該ネテ、以テ一切ヲ教フ、故ニ學而ヲ以テ先ト爲、第八審諦ナリ、一ハ數ノ始ナリ、既ニ諦カニ篇次ヲ定テ、學而ヲ以テ首ニ居ク、故ニ學而第一ト曰フ、

(一) 「段」下、武内本有「矣」字。

(二) 「也」下、武内本有「而者因仍也」五字。

【經】

子曰

子のたまはく
曰

【疏】

子者、指於孔子也、子是有德之稱、古者稱師爲子也、曰者發語之端也、許氏說文云、開口吐舌、謂之爲曰、此以下、

是孔子開口談說之語、故稱子曰爲首也、然此一書、或是弟子之言、或有時俗之語、雖非悉孔子之語、而當時皆被孔子印可也、必被印可、乃得預錄、故稱此子曰、通冠一書也、

子トハ、孔子ヲ指ス、子ハ是レ有_レ德ノ稱ナリ、古ニハ師ヲ稱シテ子ト爲_ス、曰_ハ（曰）ハ語ヲ發スルノ端ナリ、許氏カ説文ニ云ク、口ヲ開キ舌ヲ吐ク、之ヲ謂テ曰_ト爲_ス、此ヨリ以下ハ、是レ孔子口ヲ開テ談_レ説ノ語ナリ、故ニ子_ト曰_テヲ稱シテ首ト爲_ス、然トモ此ノ一書、或ハ是レ弟子ノ言_ト、或ハ時_ト俗ノ語有_リ、悉_トニ孔子ノ語ニ非ト雖モ、當時皆孔子ノ印_ト可_レヲ被_ルムル、必ス印_ト可_レヲ被_レハ、乃チ預_リ録スルコトヲ得、故ニ此ノ子曰ヲ稱シテ、通シテ一書ニ冠_{ラシム}、

【經】
學而時習之

學テ時ニ習フ

【疏】
此以下、孔子言也、就此一章、分爲三段、自此至不亦悅乎、爲第一、明學者幼少之時也、學從幼起、故以幼爲先

也、又從有朋至不亦樂乎、爲第二、明學業稍成能招朋聚友之日也、既學已經時、故能招友爲次也、故學記云、一年視離經辨志、三年視敬業樂群、五年視博習親師、七年視論學取友、謂之小成、是也、又從人不知、訖不君子乎、爲第三、明學業已成能爲師爲君之法也、先能招友、故後乃學成爲師君也、故學記云、九年知類、通達強立而不反、謂之大成、又云、能博喻、然後能爲師、能爲師然後、能爲長、能爲長然後、能爲君、是也、今此段、明學者少時法也、謂爲學者白虎通云、學覺也、悟也、言用先王之道、導人情性、使自覺悟也、去非取是、積成君子之德也、時者、凡學有三時、一是就人身中爲時、二就年中爲時、三就日中爲時也、一就身中者、凡受學之道、擇時爲先、長則捍格、幼則迷惑、故學記云、發然後禁則、捍格而不勝、時過然後學則、勤苦而難成、是也、既必須時、故內則云、六年教之數與方名、七年男女不同席、八年始教之讓、九年教之數日、十年學書計、十三年學樂誦詩舞勺、十五年成童舞象、竝是就身中爲時也、二就年中爲時者、夫學隨時氣則、受業易入、故王制云、春夏學詩樂、秋冬學書禮、是也、春夏是陽、陽體輕清、詩樂是聲、聲亦輕清、輕清時、學輕清之業則、爲易入也、秋冬是陰、陰體重濁、書禮是事、事亦重濁、重濁時、學重濁之業、亦易入也、三就日中爲時者、前身中二年二時、而所學、竝日日修習、不暫廢也、故學記云、藏焉修

焉息焉游焉、是也、今云學而時習之者、而猶因仍也、時是日中之時也、習是修故之稱也、言人不學則已。既學必因仍而修習、日夜無替也、之之於所學之業也、

此ヨリ以下ハ、孔子ノ言ナリ、此ノ一章ニ就テ、分テ三段ト爲、此レ自リ亦悦ハシカラ不乎トイフニ至テテ、第一ト爲、學者幼少ノ時ヲ明ス、學ハ幼從リシテ起ル、故ニ幼ヲ以テ先ト爲、又朋有リト從リ亦タ樂シカラ不乎トイフニ至テテ、第二ト爲、學業稍ク成テ能ク朋ヲ招キ友ヲ聚ルノ日ヲ明ス、既ニ學テ已ニ(學ヒ已ハツテ)時ヲ經フ、故ニ能ク友ヲ招クヲ次ト爲、故ニ學記ニ云ク、一年ニシテ經ヲ離シ志ヲ辨スルコトヲ視ル、三年ニシテ業ヲ敬ミ群ヲ樂ムヲ視ル、五年ニシテ博ク習テ師ヲ親ムコトヲ視ル、七年ニシテ學ヲ論シ友ヲ取ルコトヲ視ル、之ヲ小成ト謂フ、是レナリ、又夕人知ラ不トイフ從君ト子ニ訖ルマテ、第三ト爲、學業已ニ成テ能ク師ト爲リ君ト爲ルノ法ヲ明ス、先ツ能ク友ヲ招ク、故ニ後二乃チ學成テ、師ト爲ル、故ニ學記ニ云ク、九年ニシテ類ヲ知リ、通達強立シテ反カ不、之ヲ大成ト謂フ、又云ク、能ク博ク諭シテ、然シテ後ニ能ク師ト爲ル、能ク師ト爲テ然シテ後ニ、能ク長ト爲ル、能ク長ト爲テ然シテ後ニ、能ク師ト爲ルトイフ、是ナリ、今此ノ段ハ、學者、

少時ノ法ヲ明ス、謂ル學爲ルコトハ白虎通ニ云ク、學ハ覺ナリ、悟ナリ、言ハ先王ノ道ヲ用ヒテ、人ノ情ノ性ヲ導テ、自ヲ使テ覺悟セ使ム、非ヲ去ケ是ヲ取テ、積テ君子ノ徳ヲ成ス、時トハ、凡ソ學ニ三時有り、一ニハ是人ノ身ノ中ニ就テ時ト爲、二ニハ年ノ中ニ就テ時ト爲、三ニハ日ノ中ニ就テ時ト爲、一ニハ身ノ中ニ就トハ、凡ソ學ヲ受ルノ道、時ヲ擇フヲ先ト爲、長スル則ハ捍格ナリ、幼ナル則ハ迷昏ナリ、故ニ學記ニ云ク、發シテ然シテ後ニ禁スル則ハ、捍格ニシテ勝ヘ不、時過テ然シテ後ニ學フ則ハ、勤苦ニシテ成リ難トイフ、是レナリ、既ニ必ス時ヲ須ツ、故ニ内則ニ云ク、六年ニシテ之レニ數ト方一名與ヲ教フ、七年ニシテ男ノ女席ヲ同フセ不ルヲ教フ、八年ニシテ始テ之レニ讓ヲ教フ、九年ニシテ之レニ日ヲ數ルコトヲ教フ、十年ニシテ書ヲ計ヲ學ヒ、十一年ニシテ樂ヲ學ヒ詩ヲ誦シ勺ヲ舞ス、十五年ニシテ童ト成テ象ヲ舞ス、竝ニ是レ身ノ中ニ就テノ時ト爲、二二年ノ中ニ就テ時ト爲トイフハ、夫レ學ハ時氣ニ隨フ則ハ、業ヲ受ルコト入り易シ、故ニ王制ニ云ク、春夏ニハ詩樂ヲ學ヒ、秋冬ニハ書禮ヲ學フ、是レ也、春夏ハ是レ陽ナリ、陽ノ體ハ輕ク清メリ、詩樂ハ是レ聲ナリ、聲ハ亦タ輕ク清メリ、輕ク清メル時ニ、輕ク清メルノ業ヲ學フ則ハ、入り易シト爲、秋冬ハ是レ陰ナリ、陰ノ體ハ重

ク「濁レリ、書禮ハ是レ事ナリ、事ハ亦重ク「濁レリ、重ク「濁レル時ニ、重ク「濁ルノ業ヲ學フトキハ、亦タ入り易シ、三二日ノ「中ニ就テ時ト爲ス、前ノ身ノ「中年ノ「中ノ二ノ「時ニシテ、學フ所、竝ニ日ニ「修「習シテ、暫クモ「廢セ不ルナリ、故ニ學記ニ云ク、藏シ修シ息シ游ストハ、是ナリ、今學テ時ニ之ヲ習フト云フハ、而ハ因「仍ノ猶シ、時トハ是レ日「中ノ時ナリ、習トハ是レ故キヲ修スルノ（修ムルノ）稱ナリ、言ハ人學ヒ不ル則ハ已ム、既ニ學テ必ス因「仍シテ修「習シテ、日「夜替ルコト無シ、之トハ學フ所ノ業「ニ之クソ、

【經】

不亦悦乎

亦タ「悦ハシカラ不乎

【疏】

亦猶重也、悦者懷抱欣暢之謂也、言知學已爲可欣、又能修習不廢、是日知其所亡、月無忘其所能、彌重爲可悦、故云不亦悦、乎如問之然也、

亦ハ重ノ猶シ、悦ハ懷「抱欣「暢ノ謂ナリ、言ハ學コトヲ知テ已ニ欣フ可シト爲、又タ能ク修「習シテ廢セ不、是レ日

ニ其ノ亡キ所ヲ知り、月ニ其ノ能クスル所ヲ忘ルルコト無キハ、彌「重ネテ悦フ可シト爲、故ニ云ク亦タ「悦シ不ヤ、乎トハ問カ如ニシテ然リ、

【注】

馬融曰、子者男子通稱也、

馬融カ曰ク、子ハ男子ノ通「稱、

【疏】

凡有德者、皆得稱子、故曰通稱也、

凡ソ徳有ル者ヲハ、皆得テ子ト稱ス、故ニ通「稱ト曰フ、

【注】

謂孔子也、

孔子ヲ謂フソ、

【疏】

子乃是男子通稱、今所稱子曰、不關通他、即指謂孔子也、

子ハ乃チ是レ男子ノ通「稱ナリ、今子「曰ト稱スル所ハ、

他二關リアツカ通セ不ス、即チ指シテ孔子ヲ謂フ、

【注】

王肅曰、時者、學者以時誦習也、誦習以時、學無廢業、所
以爲悅懌也、

王肅カ曰ク、時トハ、學者ノ時ヲ以テ誦習スルソ、誦
習スルニ時ヲ以テスルトキハ、學業ヲ廢スルコト無シ、
悦ス懌ト爲ル所以ナリ、

【疏】

背文而讀曰誦也、然王此意、即是日中不忘之時也、舉日中
不忘則、前二事可知也、

文ニ背テ讀ムヲ誦ト曰フ、然シテ王カ此ノ意ハ、即チ是
レ日中ニシテ忘レ不ルノ時ナリ、日中ニシテ忘レ不ルヲ
舉ル則ハ、前ノ二事ハ知ヌ可シ、

【經】

有朋自遠方來、不亦樂乎

朋遠一方自り來ルコト有り、亦夕樂シカラ不乎スヤ

【疏】

此第二段、明取友也、同處師門曰朋、同執一志爲友、朋猶
黨也、共爲黨類在師門也、友有也、共執一志、綢繆寒暑、
契闊飢飽、相知有無也、自猶從也、學記云、獨學而無友
則、孤陋而寡聞、君子出其言、善則千里之外應之、出其
言、不善則、千里之外違之、今由我師德高、故有朋從遠方
而來、與我同門、共相講說、故可爲樂也、所以云遠方者、
明師德洽被雖遠必集也、招朋己自可爲欣、遠至彌後可樂、
故云亦也、然朋疎而友親、朋至既樂、友至故忘言、但來必
先同門、故舉朋耳、悅之與樂、俱是惟欣、在心常等、而貌
跡有殊、悅則心多貌少、樂則心貌俱多、所以然者、向得講
誦習在我自得於懷抱、故心多曰悅、今朋友講說義味相交、
德音往復、形彰在外、故心貌俱多曰樂也、故江熙云、君子
以朋友講習、出其言善則、千里之外、應之、遠人且至、况
其近者乎、道同齊味、歡然適願、所以樂也、

此ノ第二ノ段ハ、友ヲ取ルコトヲ明ス、同ク師門ニ處ル
ヲ朋ト曰フ、同ク一志ヲ執ルヲ友ト爲、朋ハ黨ノ猶シ、
共ニ黨ノ類ヲ爲シテ師門ニ在リ、友ハ有ナリ、共ニ一志
ヲ執テ、寒暑ニ綢繆トシテ、飢飽ニ契闊タリ、有無
ヲ相ヒ知ル、自ハ從ノ猶シ、學記ニ云ク、獨リ學テ友無
キ則ハ、孤陋ニシテ聞キ寡シ、君子其ノ言ヲ出スコト、

善ナル則ハ千里ノ外之ニ應ス、其ノ言ヲ出スコト、善カラ不ル則ハ、千里ノ外之ニ違ス、今我カ師ノ徳高キニ由テ、故ニ朋遠方従リ來テ、我與門ヲ同シテ、共ニ相ヒ講説スルコト有リ、故ニ樂ト爲可シ、遠方ト云フ所以ハ、師ノ徳洽ク被テ遠ト雖モ必ス集コトヲ明ス、朋ヲ招テ己自欣ト爲可、遠ヨリ至ル彌後ニ樂シム可シ、故ニ亦ト云フ、然シテ朋ハ疎ニシテ友ハ親シ、朋至トキハ既ニ樂シ、友至ルカ故ニ言ヲ忘ル、但夕來テ必ス先ツ門ヲ同ス、故ニ朋ヲ舉ル耳、悦ト樂與ハ、俱ニ是レ惟欣ナリ、心ニ在テハ常ニ等シ、而シテ貌跡ハ殊ナルコト有リ、悦フ則ハ心多シテ貌少ナリ、樂ハ則チ心貌俱ニ多シ、然ル所以ハ、向ニ講誦シ習フヲ得テ我ニ在テ懷抱ニ自得ス、故ニ心多シ悦ト曰フ、今朋友講説シテ義味相ヒ交リ、德音往復ス、形彰レテ外ニ在リ、故ニ心貌俱ニ多シ樂ト曰フ、故ニ江熙カ云ク、君子ハ朋友ヲ以テ講習ス、其ノ言ヲ出スコト善ナル則ハ、千里ノ外、之ニ應ス、遠人且至ル、況ヤ其レ近キ者ヲ乎、道同シテ味ヲ齊ス、歡然トシテ願ニ適フ、樂ム所以ナリ、

【注】

苞氏曰、同門曰朋也

苞氏カ曰ク、門同キヲ朋ト曰フ

【疏】

鄭玄注司徒云、同師爲朋、同志爲友、然何集注、皆呼人名、唯苞獨云氏者、苞名咸、何家諱咸、故不言也、

鄭玄カ司徒ヲ注スルニ云ク、師ヲ同スルヲ朋ト爲、志ヲ同スルヲ友ト爲、然ルニ何カ集ノ注ニ、皆人ノ名ヲ呼フ、唯夕苞獨リ氏ト云コトハ、苞カ名ハ咸、何カ家ニ咸ヲ諱ム、故ニ言ハ不、

【經】

人不知、而不愠、不亦君子乎、

人知ラ不、而ルヲ愠ラ不、亦夕君子ナラ不乎、

【疏】

此第三段、明學已成者也、人謂凡人也、愠怒也、君子有道之稱也、此有二釋、一言、古之學者爲己、己學得先王之道、含章内映、而他人不見知、而我不怒、此是君子之德也、有德已爲可貴、又不怒人之不知、故曰亦也、又一通云、君子易事、不求備於一人、故爲教誨之道、若人有鈍根

不能知解者、君子恕之而不愠怒之也、爲君者亦然也、

此ノ第三段ニハ、學テ「已」ニ成ル者ヲ明ス、人トハ凡ソノ人ヲ謂フ、愠ハ怒ナリ、君子トハ有「道」ノ稱ナリ、此ニ「二」ノ釋有リ、一ニハ言ク、古ノ學ハ己カ爲ニス、己先王ノ道ヲ學ヒ得テ、章ヲ含テ内ニ映ス、而トモ他二人ニ知ラ見不、而ルヲ我怒ラ不、此レハ是レ君子ノ徳ナリ、有徳已ニ貴フ可ント爲、又夕人ノ知ラ不ルヲ怒ラ不、故ニ亦ト曰フ、又一通ニ云ク、君子ハ事ヘ易シ、一人ニ備ナランコトヲ求メ不、故ニ教「誨」ノ道ヲ爲スニ、若シ人鈍根ニシテ知「解」スルコト能ハ不ル者有レトモ、君子ハ之ヲ恕テ愠「怒」セ不、君爲ル者亦タ然リ、

【注】

愠怒也、凡人有所不知、君子不愠之也

愠ハ怒ナリ、凡ソ人知ラ不ル所有レトモ、君子ハ愠ラ不

【疏】

就注乃得兩通、而於後釋爲便也、故李充云、愠怒也、君子忠恕、誨人不倦、何怒之有乎、明夫學者始於時習、中於講肆、終於教授者也、

注ニ就クニ乃チ兩「通」ヲ得タリ、後ノ「釋」ニ於テ便ト爲、故ニ李充カ云ク、愠ハ怒ナリ、君子ハ忠「恕」ノミ、人ヲ誨テ倦マ不、何ソ之ヲ怒ルコト有シヤ、夫レ學ハ時「習」ニ始マリ、講「肆」ニ中シ、教「授」ニ終ルコトヲ明ス者ナリ、

- (一) 「也」、武内本無此字。
- (二) 「是」、武内本無此字。
- (三) 「友」下、武内本有「交」字。
- (四) 「有」上、武内本有「者」字。
- (五) 「後」、武内本作「復」。
- (六) 「惟」、武内本作「懂」。
- (七) 「道」、武内本作「德」。
- (八) 「也」下、武内本有「凡注無姓名者皆是何平叔語也」十三字。

【經】

有子曰

有子カ曰ク

【注】

孔安國曰、弟子有若也

孔安國カ曰ク、弟子有若ソ

【經】
其爲人也、孝悌

其レ人ト爲リ、孝悌ニシテ

【疏】
其其孝悌者也、善事父母曰孝、善事兄曰悌也、

其トハ孝悌ノ者ニ其レソ、善ク父一母ニ事ルヲ孝ト曰フ、善ク兄ニ事ルヲ悌ト曰フ、

【經】
而好犯上者、鮮矣、

上ヲ犯サント好ム者ハ、鮮シ、

【疏】
好謂心欲也、犯謂諫爭也、上謂君親也、鮮少也、言孝悌之人、必以無違、爲心、恭從爲性、若有欲犯其君親之顔諫爭者、有此人少也、然孝悌者、實都不欲、必無其人、而云少

者、欲明君親有過、若任而不諫、必陷於不義、不欲存孝子之心、使都不諫、故開其少分令必諫也、故熊埋云、孝悌之人、志在和悅、先意承旨、君親有日月之過、不得無犯顔之諫、然雖屢納忠規、何嘗好之哉、今實都無好、而復云鮮矣者矣、以好見開則、生陵犯之慚、以犯見塞則、抑匡弼之心、必宜微有所許者、實在弊其志分、彌論教體也、

好トハ心ニ欲スルヲ謂フ、犯トハ諫一爭スルヲ謂フ、上トハ君一親ヲ謂フ、鮮ハ少ナリ、言ハ孝悌ノ人ハ、必ス違フ無キヲ以、心ト爲、恭一從スルヲ性ト爲、若シ其ノ君一親ノ顔ヲ犯シテ諫一爭セント欲スルコト有ル者、此ノ人有ルコト少シ、然シテ孝悌ノ者ハ、實ニ都テ欲セ不、必ス其ノ人無ケン、而ヲ少ト云フコトハ、君一親一過有ルトキハ、若シ任セテ諫メ不ンハ、必ス不義ニ一陷ル、孝一子ノ心ヲ存シテ、都テ諫メ不ラ使メンコトヲ欲セ不ルコトヲ明ント欲ス、故ニ其ノ少一分ヲ開シテ（開メ）必ス一諫メ令ム、故ニ熊埋カ云ク、孝悌ノ人ハ、志一和一悅ニ在リ、意ニ先テ旨ヲ承ク、君一親日月ノ過有トキハ、顔ヲ犯シテ諫ムルコト無キコトヲ得不、然シテ屢一忠規ヲ納ルト雖モ、何ソ嘗テ之ヲ好ム哉、今實ニ都テ好ムコト無ケン、復タ鮮ト云フコトハ好ムヲ以テ見ニ一開ク則ハ、陵一犯ノ慚ヲ生

ス、犯スヲ以テ見ニ塞ク則ハ、匡弼(匡シ弼クル)ノ心ヲ抑フ、必ス宜ク微シ許ス所有ル宜キ者ナリ、實ニ其ノ志分ヲ辨メテ、彌教體ヲ論スルニ在リ、

【注】

鮮少也、上謂凡在己上者也、言孝悌之人必有恭順、好欲犯其上者少也

鮮ハ少、上トハ凡ソ己カ上ニ在ル者ヲ謂フ、言ハ孝弟ノ人必ス恭順有リ、好テ其ノ上ヲ犯サント欲スル者ハ少シ

【疏】

故曰、而犯上者鮮矣、

故二曰ク、而シテ上ヲ犯ス者ハ鮮シト、

【經】

不好犯上、而好作亂者、未之有也、

上ヲ犯サント好マ不シテ、亂ヲ作サント好ムヲ者ハ、未タ之レ有ラ未、

【疏】

熊埋曰、孝悌之人、當不義而諍之、尚無意犯上、必不職爲亂階也、侃案熊解意、是言既不好犯上、必不作亂、故云未之有也、然觀熊之解、乃無間然、如爲煩長、既不好犯、理宜不亂、何煩設巧、明今案師說云、夫孝者不好、心自是恭順、而又有不孝者、亦有不好、是願君親之敗、故孝與不孝、同有不好、而不孝者不好、必欲作亂、此孝者不好、無亂理、故曰未之有也、

熊埋カ曰ク、孝悌ノ人ハ、不義ニ當テ之ヲ諍トモ、尚ラ上ヲ犯スニ意無、必ス職トシテ亂ノ階ヲ爲サ不、侃熊カ解ノ意ヲ案スルニ、是レ言ハ既ニ上ヲ犯サント好マ不、必ス亂ヲ作サ不、故ニ未タ之レ有ラ未ト云フ、然トモ熊カ解ヲ觀ルニ、乃チ問然スルコト無シ(無カランヤ)、煩長爲ルカ如シ、既ニ犯スコトヲ好マ不、理宜ク亂セ不ル宜シ、何ソ煩シク巧ナルヲ設ケン、明ケシ今師ノ說ヲ案スルニ云ク、夫レ孝アル者好マ不、心自是レ恭順ナリ、而トモ又タ不孝ノ者有テ、亦タ好マ不ルコト有リ、是レハ君親ノ敗ヲ願フ、故ニ孝ト不孝與、同ク好マ不ルコト有リ、不孝ノ者ノ好マ不ルハ、必ス亂ヲ作サント欲ス、此レ孝アル者ノ好マ不ルハ、亂ノ理無ケン、故ニ未タ之レ有ラ未ト曰フ、

【經】

君子務本

君_レ子ハ本ヲ務ム

【疏】

此亦有子語也、務猶向也、慕也、本謂孝悌也、孝悌者、既不作亂、故君子必向慕之也、

此レハ（此モ）亦有子カ語ナリ、務ハ向_レノ猶シ、慕ナリ、本トハ孝_レ悌ヲ謂ソ、孝_レ悌ノ者ハ、既ニ亂ヲ作サ_レズ、故ニ君_レ子ハ必ス之ニ向ヒ_レ慕フ、

【經】

本立而道生

本_レ立テ道_レ生_ル

【疏】

解所以向慕本義也、若其本成、立則、諸行之道、悉滋生也、

本ニ向_レ慕スル所_レ以_レノ義ヲ解ク、若シ其_レ本成テ、立ツ_レ則ハ、諸_レ行ノ道、悉ニ滋_シ（滋）_レ生ス、

【注】

本基也、基立、而後可大成也、

本_レハ基、基_レ立テ、而シテ後ニ大成ス可シ、

【疏】

以孝爲基、故諸德、悉爲廣大也、

孝ヲ以テ基ト爲_ス、故ニ諸_レ德、悉ニ廣_ク大ヲ爲_ス、

【經】

孝悌也者、其爲仁之本與、

孝悌ハ、其_レ仁ノ本_ト爲_ル與、

【疏】

此更以孝悌解本、以仁釋道也、言孝是仁之本、若以孝爲本則、仁乃生也、仁是五德之初、舉仁則餘從可知也、故孝經云、夫孝德之本也、教之所由生也、

此レハ更ニ孝悌ヲ以テ本ヲ解ク、仁ヲ以テ道ヲ釋ス、言ハ孝ハ是レ仁ノ本ナリ、若シ孝ヲ以本ト爲ル則ハ、仁乃チ生ル、仁ハ是レ五德ノ初ナリ、仁ヲ舉トキハ餘ハ從テ知ヌ可シ、故ニ孝經ニ云、夫レ孝ハ德ノ本ナリ、教ヘノ由テ生ル所ナリ、

【注】

荀氏曰、先能事父兄、然後仁可成也、

荀氏カ曰ク、先ツ能ク父兄ニ事^{つかへマツ}テ、然シテ後ニ仁成ル可シ、

【疏】

王弼曰、自然親愛爲孝、推愛及物爲仁也、

王弼カ曰ク、自然ニ親愛スルヲ孝ト爲、愛推シテ物ニ及スヲ仁ト爲、

(一) 「恭」上、武内本有「以」字。

(二) 「矣」、武内本無此字。

(三) 「有」、武内本無此字。

(四) 「諍」、武内本作「爭」。

(五) 「犯」下、武内本有「上」字。

(六) 「曰」、武内本作「云」。

(七) 「諸」下、武内本有「衆」字。

【經】

子曰、巧言令色、鮮矣有仁、

子曰ク、言ヲ巧ニシ色ヲ令クスルハ、仁有ルコト鮮シ、

【疏】

巧言者、便僻其言語也、令色者、柔善其顔色也、鮮少也、此人、本無善言美色、而虛假爲之、則、少有仁者也、然都應無仁、而云少者、舊云、人自有非假而自然者、此則不妨有仁、但時多巧令、故云少也、又一通云、巧言令色之人、非都無仁、政是性不能全、故云少也、故張憑云、仁者人之性也、性有淳薄、故體足者難耳、巧言令色之人、於仁性爲少、非爲都無其分也、故曰鮮矣仁、王肅曰、巧言無實、令色無質、

巧言ハ、其言その語ヲ便僻スルソ、令色ハ、其ノ顔色ヲ柔善ニスルソ、鮮ハ少ナリ、此ノ人、本善言美色無シ、而シテ虚假ニ之ヲ爲ス、則チ、仁有ルコト少ナキ者ナリ、然ニ都テ仁無カル應シ、而ルヲ少ト云コトハ、舊ニ「云ク、人」自假ワのつからかりニ非シテ自然ナル者有リ、此レ則チ仁有ルニ妨ケ不、但夕時ニ巧令多シ、故ニ少ト云フ、又一通ニ云ク、巧言令色ノ人ハ、都テ仁無ニ非ス、政ニ是レ性全キコト能ハ不、故ニ少ト云フ、故ニ張憑カ云、仁ハ人ノ性ナリ、性ニ淳薄有、故體足レル者ハ難キ耳、巧言令色ノ人ハ、仁性ニ於テ少ナリト爲、都テ其ノ分無シト爲ルニ非、故仁アルコト鮮ト曰フ、王肅カ曰ク、巧言ハ實無ク、令色ハ質無キソ、

【注】

苞氏曰、巧言好其言語、令色善其顔色、皆欲令人悦之、少能有仁也、

苞氏カ曰ク、言ヲ巧ニスルトハ其ノ言語ヲ好クスルソ、色ヲ令スルトハ其ノ顔色ヲ善クスルソ、皆人ヲ令テ悦ハシメマク欲ス、能ク仁有ルコト少シ、

(二) 「矣」下、武内本有「有」字。

【經】
曾子曰

曾子カ曰ク

【注】

馬融曰、弟子曾參也、

馬融カ曰ク、弟子曾參ソ、

【疏】

蓋、姓曾、名參、字子輿

蓋シ、姓ハ曾、名ハ參、字ハ子輿

【經】

吾日三省吾身、

吾日二三タヒ吾カ身ヲ省ル、

(一) 「淳」、武内本作「厚」。

【疏】

省視也、曾子言、我生平戒慎、每一日之中、三過自視察我身、有過失不也、

省ハ視ナリ、曾子カ言ク、我生平戒メ慎テ、毎二一日ノ中ニ、三過自我カ身ヲ視察ス、過失有リヤ不ヤト、

【經】

爲人謀而不忠乎

人ノ爲ニ謀テ忠アラ不乎

【疏】

忠中也、言爲他人、圖謀事計、當盡我忠心也、豈可心而不盡忠乎、所以三省、觀審恐失也、

忠ハ中ナリ、言ハ他人ノ爲ニ、事計ヲ圖カリ謀テ、當ニ我カ心ヲ盡ス當シ、豈ニ心ニシテ忠ヲ盡サ不ル可シ乎、三省スル所以ハ、觀審シテ失ヲ恐ルソ、

【經】

與朋友交言、而不信乎

朋友與交リ言テ、信アラ不乎

【疏】

朋友交合、本主在於信、豈可與人交而不爲信乎、

朋友ノ交リ合フコト、本主トシテ信ニ在リ、豈二人與交テ信ヲ爲不ル可ケンヤ、

【經】

傳不習乎

習ハ不ルヲ傳ン乎

【疏】

凡有所傳述、皆必先習後乃可傳、豈可不經先習、而妄傳之乎、曾子言、我一日之中、每三過自視、況復凡人、可不爲此三事乎、言不可也、又一通云、曾子言、一日之中三過我内視我身有此三行不也、

凡ソ傳ヘシ述ル所有ルハ、皆^{みな}必ス先ツ習テ後ニ^レ乃チ傳フ可シ、豈先ツ^レ習コトヲ經不シテ、妄^{まじ}ニ之ヲ傳フ可ン乎、曾子カ言ク、我^{わが}一^レ日ノ中ニ、毎ニ三^レ過自ラ^レ視ル、況ヤ^レ復タ凡^た一人、此ノ三^レ事ヲ爲不^せル可ン乎、言ハ^レ不可ナリ、又一^レ通ニ云、曾子カ言ク、一^レ日ノ中ニ三^レ過我内ニ我カ^レ身ヲ視ル此ノ三^レ行有リヤ不ヤト、

【注】言凡所傳之事、得無素不講習、而傳之乎

言ハ凡ソ傳ル所ノ事、素ヨリ講ヘ^レ習ハ不シテ、之ヲ傳ルコト無コトヲ得ン乎

【疏】得無猶無得也、素猶本也、言所傳之事、無得本不經講習、而傳之也、故袁氏云、常恐傳先師之言不能習也、古人言以^レ必稱師、

得^レ無ハ無^レ得ノ猶シ、素ハ本猶シ、言ハ傳ル所ノ事、本講ヘ^レ習コトヲ經不シテ、之ヲ傳ルコトヲ得ルコト無ケン、故ニ袁氏カ云ク、常ニ恐ル先師ノ言ノ習コト能ハ不^レルヲ傳ンコトヲ、古人ハ言フトキハ以テ^レ必師ヲ稱ス、

- (一) 「不」、武内本作「否」。
- (二) 「計」、武内本無此字。
- (三) 「忠」、武内本作「中」。
- (四) 「一」上、武内本有「我」字。
- (五) 「我」、武内本無此字。
- (六) 「不」、武内本作「否」。
- (七) 「之」、武内本無此字。
- (八) 「以」、武内本作「故」。
- (九) 「師」下、武内本有「也」字。

【經】子曰導千乘之國

子曰ク千^レ乘ノ國ヲ導クコト(導ムルコト)

【疏】此章明爲諸侯、治大國法也、千乘大國也、天子萬乘、諸侯千乘、千乘尚武則、萬乘可知也、導猶治也、亦謂爲之政教也、其法在下、故此張本也、

此ノ章ハ諸侯ト爲テ、大國ヲ治ムルノ法ヲ明、千^レ乘ハ大國ナリ、天^レ子ハ萬^レ乘、諸^レ侯ハ千^レ乘、千^レ乘モ尚ヲ式

アル則ハ、萬乗ハ知ヌ可シ、導ハ治ノ猶シ、亦ハ之方政一
教ヲ爲スコトヲ謂フ、其ノ法下ニ在リ、故ニ此ハ張一本ナ
リ、

【注】

馬融曰、導者謂爲之政教也、司馬法六尺爲步、

馬融曰、導クトハ之方政一教ヲ爲ルヲ謂フ、司馬法二六一尺
ヲ步ト爲、

【疏】

此明千乘法也、司馬法者、齊景公時、司馬穰苴爲軍法也、
其法中、有此千乘之說也、凡人一舉足曰跬、三尺也、兩舉
足曰步、方六尺也、

此レハ千乗ノ法ヲ明ス、司馬法ハ、齊ノ景公ノ時、司馬
穰苴軍法ヲ爲ス、其ノ法ノ中ニ、此ノ千乗ノ說有リ、
凡ソ一人一ヒ足ヲ舉ルヲ跬ト曰、三尺ナリ、兩ヒ足ヲ舉
ルヲ步ト曰フ、方六尺ナリ、

【注】

步百爲畝

步百ヲ畝ト爲

【疏】

廣一步長百步、謂爲一畝也、畝母也、既長百步可種苗稼、
有母養之功見也、

廣サ一歩長シテ百步ナルヲ、謂テ一畝ト爲、畝ハ母ナ
リ、既ニ長シテ百步苗稼ヲ種ヘツ可シ、母養ノ功有テ
見ル、

【注】

畝百爲夫

畝百ヲ夫ト爲

【疏】

每一畝、則廣六尺、長百步、今云畝百、爲夫則、是方百步
也、謂爲夫者、古者賦田、持百畝地、給一農夫也、夫所養
人、自隨地肥敷、及其家人多少耳、故王制云、上農夫百
畝、百畝之分、上農夫食九人、是也、

一畝毎ニ、則チ廣サ六尺、長シテ百步、今畝百ヲ云

テ、夫ト爲ル則ハ、是レ方百歩ナリ、謂テ夫ト爲ルコトハ、古ニハ田ヲ賦スルニ、百畝ノ地ヲ持テ、一農夫ニ給フ、夫ノ養フ所ノ人、自地ノ肥敷（敷）ニ隨テ、其ノ家一人ノ多ク少ク及フ耳、故ニ王制ニ云ク、上農夫ハ百畝、百畝ノ分ニ、上農夫ハ九人ヲ食フトハ、是ナリ、

【注】

夫三爲屋

夫三ヲ屋ト爲ス

【疏】

每夫方百歩、今云夫三、則是方百歩者は三也、若竝而言之、則廣一里、一里長三百歩也、而猶長百歩也、謂爲屋者、義名之也、夫一家有夫婦子三者、具則屋道乃成、故今三夫目爲屋也、

夫每ニ方百歩、今夫三ト云トキハ、是レ方百歩ナル者はレ三ナリ、若シ竝ヘテ之ヲ言フトキハ、廣サ一里、一里ハ長サ三百歩ナリ、而シテ猶ヲ長サ百歩ナリ、謂ル屋ト爲ルコトハ、義モテ之ニ名ク、夫レ一家ニ夫婦子

ノ三ノ者有テ、具ル則ハ屋道乃シ成ヌ、故ニ今三夫ノ目ヲ屋ト爲ス、

【注】

屋三爲井

屋三ヲ井ト爲ス

【疏】

向屋廣一里長百歩、今三屋竝方之、則方一里也、名爲井者、因夫間有遂、水縱橫相通、成井字也、何者、畝廣六尺、長百歩、用耜耕之、耜廣五寸、方兩耜爲耦、長沮桀溺耦而耕是也、是耦伐廣一尺也、畝廣六尺、以一尺耕伐地、爲溜通水、水流流畝、然因名曰畝也、而夫田首倍之、廣二尺、深二尺、謂之爲遂、九夫爲井、井間廣深四尺、謂之溝、取其遂水相通如井字、故鄭玄曰、似井字、故謂爲井也、遂取其水始遂也、溝取其漸深有溝洫也、釋名云、田間之水曰溝、溝構也、縱橫相交構也、

向ニ屋ノ廣サ一里長サ百歩、今三屋竝ニ之ヲ方フルトキハ、方一里ナリ、名テ井ト爲ルコトハ、夫ノ間ニ遂有リ、水縱橫相イ通シテ、井ノ字ヲ成スニ因ル、何者、

畝ハ廣サ六尺、長シテ百一歩、相ヲ用テ之ヲ耕ス、相ノ廣サ五尺一寸、兩ノ相ヲ方フルヲ耦ト爲、長沮桀溺耦シテ耕
ストハ是ナリ、是レ耦ハツ伐スルコト廣サ一尺ナリ、畝ハ廣
サ六尺、一尺ヲ以テ地ヲ耕ハツ伐シテ、溜ヲ爲シテ水ヲ通
シテ、水畝ミヅニ流ス畝ニ流ル、然シテ因テ名テ畝ト曰フ、夫
ノ田首ハ之ニ倍シテ、廣サ二尺、深サ二尺、之ヲ謂テ
遂(遂)ト爲、九夫ヲ井ト爲、井ノ間廣サ深サ四尺、
之ヲ溝ト謂フ、其レ遂ノ水相あひ通シテ井ノ字ノ如ナルニ
取ル、故ニ鄭玄カ曰ク、井ノ字ニ似タリ、故ニ謂テ井ト
爲、遂ハ其ノ水ノ始テ遂ニ取ル、溝ハ其ノ漸ク深シテ
溝イキ洫(溝洫)有ルニ取ル、釋名ニ云ク、田ノ間ノ水ヲ
溝ト曰フ、溝ハ溝ツツ一溝(溝)ナリ、縱横相ヒ交あひ溝ス、

【注】

井十爲通

井十ヲ通ト爲

【疏】

此十井之地、竝之則廣十里、長一里也、謂爲通者、其地有
三十屋相通、共出甲士一人徒二人也、

此レハ十井ノ地ナリ、之ヲ竝フル則ハ廣サ十里、長サ
一里、謂テ通ト爲ルコトハ、其ノ地三十三屋有テ相通
シテ、共ニ甲士一人徒二人ヲ出ス、

【注】

通十爲城

通十ヲ城ト爲

【疏】

其城地方十里也、謂爲城者、兵賦法、一乘成也、其地有三
百屋、出革車一乘、甲士十人徒卒二十人也、

其レ城地方十里ナリ、謂テ城ト爲ルコトハ、兵賦ノ法、
一乘成ル、其ノ地三百屋有リ、革車一乘、甲士十
人徒卒二十一人ヲ出ス、

【注】

城出革車一乘

城ヨリ革車一乗ヲ出セリ

【疏】

出一乘、是賦一成、故謂成也、

一乘ヲ出ス、是ノ賦一成ス、故二成ト謂フ、

【注】

然則、千乘之賦、其地千城也、

然レハ則チ、千乘ノ賦ハ、其ノ地千城ナリ

【疏】

有地方十里者千、即是千城也、則容千乘也、

地方十里ナル者千有リ、即チ是レ千城ナリ、則チ千乘ヲ容ル、

【注】

居地、方三百一十六里有奇

居地、方三百一十六里有奇アヤリナリ

【疏】

方百里者、有方十里者百、若方三百里、三三爲九、則有方百里者九、二四既合成方十里者九百也、是方三百里、唯有九百乘也、若作千乘、猶少百乘、百乘是、方百里者一也、今取方百里者一、而百六分破之、每分、方廣十六里、長百里、引而接之則、長六百里、其廣十六里也、今半斷、各長三百里、設法持埤前三百里南西二邊、是方三百十六里也、然西南角猶缺方十六里者一、方十六里者一、有方十里者二、又方一里者、五十六里也、是少方一里者二百五十六里也、然則、向割方百里者爲六分、埤方三百兩邊、猶餘方一里者四百、今以方一里者二百五十六、埤西南角、猶餘方一里者一百四十四、又設破而埤三百十六里兩邊、則每邊不復得半里、故云、方三百十六里有奇也、

方百里ニハ、方十里ナル者百有ラン、若シ方三百里ナラハ、三三九ト爲、則チ方百里ナル者九ツ有リ、既ニ合テ方十里ナル者九百ト成ル、是レ方三百里ナラハ、唯タ九百乗有リ、若シ千乗ト作サハ、猶ヲ百乗ヲ少ク、百乘ハ是レ、方百里ナル者一ナリ、今方百里ナル者一ヲ取テ、百ヲ六分ニ之ヲ破ツテ、分毎ニ、方廣サ十一里、長サ百里、引テ之ヲ接スル則ハ、長サ六百里、其ノ廣サ十六里ナリ、今半斷シテ、各ノ長サ三百里、

法ヲ設テ持テ前ノ三百里ノ南一西ノ二邊二埤カサ又、是レ方
三百一十六里ナリ、然シテ西一南ノ角猶ヲ方一十一六里ナ
ル者一ヲ缺ク、方一十一六里ノ者一ニハ、方一十一里ナル者二
ツ、又方一里ナル者、五一十六里有ラン、是レ方一里ノ
者二百五十六里ヲ少ク、然ハ、向二方百里ノ者ヲ割テ
六一分ト爲シテ、方三百ノ兩邊二埤又レハ、猶ヲ方一里
ノ者四一十百ヲ餘ス、今方一里ノ者二百五十一六ヲ以テ、
西一南ノ角二埤又レハ、猶ヲ方一里ノ者一一百四一十四ヲ
餘ス、又設テ破テ三十一六里ノ兩邊二埤レハ、邊毎
ニ復タ半里ヲ得_不、故ニ云ク、方三百一十六里有奇ト、

【注】

唯公侯之封乃能容之

唯公侯ノ封乃シ能ク之ヲ容ル

【疏】

周制上公方五百里、侯方四百里、伯方三百里、子方二百
里、男方百里、今千乘、用地方三百十六里有奇、故伯地不
能容、所以唯公侯封乃能容也、

周制二上公ハ方五百里、侯ハ方四百里、伯ハ方三

百里、子ハ方二百里、男ハ方百里、今ノ千乘ハ、地
方三百一十六里有奇ナルヲ用テス、故ニ伯ノ地ハ容ルル
コト能_不、所以ニ唯_{ゆへ}公侯ノ封乃シ能ク容ルルトイフ、

【注】

雖大國之賦亦不是過焉

大國ノ賦ト雖モ亦タ是ニ過キ_不

【疏】

雖魯方七百里、而其地賦稅、亦不得過出千乘也、故明堂位
云、賜魯革車千乘也、

魯ノ方七百里ト雖モ、而トモ其ノ地ノ賦稅、亦出スニ
千乘ヲ過ルコトヲ得_不、故ニ明堂位ニ云ク、魯ニ革車
千乘ヲ賜フ、

【注】

苞氏曰、導治也。千乘之國者、百里之國也

苞氏カ曰ク、導ハ治、千乘ノ國ハ、百里ノ國ノ

【疏】

此夏殷法也、夏殷、大國百里、次國七十里、小國五十里、故方百里國中、令出千乘也、

【疏】

此則與周異也、周家十井爲通、通十爲城、城出一乘、今此一通使出一乘則、一城出十乘也、

此レハ夏殷ノ法ナリ、夏殷ハ、大國ハ百里、次ノ國ハ七十里、小國ハ五十里、故ニ方百里ノ國中ヨリ、千乗ヲ出サ令、

此レハ則チ周與異ナリ、周家ニハ十井ヲ通ト爲、通十ヲ城ト爲、城ヨリ一乗ヲ出ス、今此ニハ一通ヨリ一乗ヲ出サ使ムル則ハ、一城ハ十乗ヲ出ス、

【注】

古者、井田方里爲井

【注】

百里之國者適千乘也

古ニハ、井田方里ヲ井ト爲ス

百里ノ國ハ千乘ニ適タル

【疏】

此亦與周同也

【疏】

方百里者有方十里者百、方十里者有方一里者百、今制、方一里者十、出一乘則、方十里者、出十乘、方百里者、故出千乘也

此レハ亦夕周與同シ

【注】

井十爲乘(一八)

方百里ノ者ニ方十里ノ者百有リ、方十里ノ者ニ方一里ノ者百有リ、今制ハ、方一里ノ者十ヨリ、一乗ヲ出ス

井十ヲ乗ト爲ス

則ハ、方十里ノ者ハ、十乗ヲ出ス、方百里ノ者ハ、故二千乗ヲ出ス

【注】
馬融依周禮

馬融ハ周禮ニ依リ

【疏】

馬氏所説、是周禮制法也、

馬氏カ説ク所ハ、是レ周禮ノ制一法ナリ、

【注】

荀氏依王制孟子（二九）

荀氏ハ王制孟子ニ依ル

【疏】

孟子及王制之言、皆如荀氏所説也、

孟子及ヒ王制ノ言ハ、皆荀氏カ説ク所ノ如シ、

【注】

義疑、故兩存焉

義疑ハシ、故ニ兩ラ焉ヲ存ス

【疏】

此、何平叔自下意也、言馬及荀兩家之説、竝疑、未知誰是、故我今注、兩録存之也、

此ハ、何平叔自意ヲ下ス、言ハ馬及ヒ荀ノ兩一家ノ説、

竝ニ疑ハシ、未タ誰カ是ナリトイフコトヲ知未、故ニ我カ今ノ注ニ、兩ラ録シテ之ヲ存ス、

【經】

敬事而信

事ヲ敬テ信アリ

【疏】

此以下、皆導千乘之國法也、爲人君者、事無小大、悉須敬、故云敬事也、曲禮云、無不敬、是也、又與民必信、故云信也、

此レヨリ以下ハ、皆千乘ノ國ヲ導ク法ナリ、人君爲ル者ハ、事小大ト無ク、悉ニ敬ヲ須フ、故ニ云ク事ヲ

敬^{つしむ}ト、曲禮ニ云ク、敬^{つしむ}マ不^ストイフコト無シトイフ、是ナリ、又夕民與^ト必^ス信アリ、故ニ信ト云フ、

【注】

荀氏曰、爲國者、舉事必敬慎、與民必誠信也、

荀氏カ曰ク、國ヲ爲^フムル者ハ、事ヲ舉^フスルニ必^ス敬^シ慎^シアリ、民與^ト必^ス誠^シ信^シアリ、

【經】

節用而愛人

用ヲ節^シテ人ヲ愛^ス

【疏】

雖富有一國之財、而不可奢侈、故云節用也、雖貴居民上、不可驕慢、故云愛人也、

富^{トモ}一^{トモ}國^{トモ}ノ財^{トモ}有^{トモ}雖^{トモ}モ、而^{トモ}トモ奢^{トモ}リ^{トモ}侈^{トモ}ル^{トモ}可^{トモ}不^{トモ}、故^{トモ}ニ用^{トモ}ヲ節^{トモ}スト云フ、貴^{トモ}キコト民^{トモ}ノ上^{トモ}ニ居^{トモ}ルト雖^{トモ}モ、驕^{トモ}慢^{トモ}ス可^{トモ}ラ^{トモ}不^{トモ}、故^{トモ}ニ人^{トモ}ヲ愛^{トモ}スト云フ、

【注】

荀氏曰、節用者、不奢侈也、國以民爲本、故愛養^二之^一也、

荀氏カ曰ク、用ヲ節^シスルトハ、奢^{トモ}リ^{トモ}侈^{トモ}ラ^{トモ}不^{トモ}、國^{トモ}ハ民^{トモ}ヲ以^{トモ}本^{トモ}ト爲^{トモ}、故^{トモ}ニ愛^{トモ}養^{トモ}ス、

【經】

使民以時

民ヲ使^フフニ時ヲ以^ス

【疏】

使民、謂治城及道路也、以時、謂歲^二不過三日^一、而不妨奪民農務也、然人是有識之目、愛人、則兼朝廷也、民是閭閻之稱、使之則、唯指黔黎、

民ヲ使^ツトハ、城^{トモ}及^{トモ}ヒ道^{トモ}路^{トモ}ヲ治^ルヲ謂^フ、時ヲ以^モトハ、歲^二ニ三日^一ニ過^ズ不^スシテ、民^{トモ}ノ農^{トモ}務^{トモ}ヲ妨^ケル^{トモ}奪^ハ不^ルヲ謂^フ、然^ルニ人^{トモ}トハ是^レ有^シ識^ノ目^ナリ、人^{トモ}ヲ愛^スストハ、朝廷ヲ兼^タリ、民^{トモ}トハ是^レ閭^ノ閻^ノ稱^ナリ、之^ヲ使^フトハ、唯^タ黔^ノ黎^ヲ指^ス、

【注】

苞氏曰、作使民、必以其時、不妨奪農務也、

苞氏カ曰ク、民ヲ作シ、使フニ、必ス其ノ時ヲ以テシテ、農ノ務ヲ妨ケ奪ハ不、

- (一) 「法」下、武内本有「日」字。
- (二) 「三」上、武内本有「鞋」字。
- (三) 「方」、武内本作「步」。
- (四) 「持」、武内本作「以」。
- (五) 「敷」、武内本作「墩」。
- (六) 「上」、武内本作「制」。
- (七) 「夫」、武内本作「田」。
- (八) 「今」、武内本作「合」。
- (九) 「流」、武内本無此字。
- (一〇) 「之」下、武内本有「爲」字。
- (一一) 「徒」下、武内本有「卒」字。
- (一二) 「成」、武内本作「城」。
- (一三) 「也」、武内本無此字。
- (一四) 「既」、武内本無此字。
- (一五) 「方」、武内本作「得」。
- (一六) 「持」、武内本作「特」。

(一七) 「設」下、武内本有「法」字。

(一八) 「乘」、武内本作「棄」。

(一九) 「王制孟子」、武内本作「孟子王制」。

(二〇) 「無」、武内本作「母」。

(二一) 「苞氏曰節用者不奢侈也國以民爲本故愛養之也」、武内本無此二十字。

(二二) 「歲」、武内本作「出」。

【經】

子曰、弟子、入則孝、出則悌、

子ノ曰ク、弟子、入テハ孝アリ、出テハ悌アリ、

【疏】

弟子、猶子弟也、言爲人子弟者、盡其孝悌之道也、父母闈門之内、故云入也、兄長比之疎外、故云出也、前句已決、子善父母爲孝、善兄爲悌、父親、故云入、兄疎、故云出也、

弟_一子ハ、子_一弟ノ猶シ、言ハ人ノ子_一弟爲ル者ハ、其ノ孝悌ノ道ヲ盡ス、父母ハ闈_一門ノ内ナリ、故ニ入ト云フ、兄_一長ハ之ニ比スレハ疎_一外ナリ、故ニ出ト云フ、前ノ句ニ已

二決ス、子ノ父^ノ母ニ善キヲ孝ト爲^シ、兄ニ善キヲ悌ト爲^ス、父親ナリ（親シ）、故ニ入ト云フ、兄ハ疎ナリ、故ニ出ト云フ、

【經】

謹而信

謹テ信アリ

【疏】

向、明事親、此辨接外也、接外之禮、唯謹與信也、外能如此、在親可知也、

向ニハ、親ニ^{ツカヘマツ}事^{ツカヘマツ}ルコトヲ明シ、此ニハ外ニ接^{マツ}ハルコトヲ辨ス、外ニ接^{マツ}ルノ禮、唯^{マシハ}夕謹ト信與ナリ、外力能ク此クノ如クナラハ、親ニ在ケルコトハ知又可シ、

【經】

汎愛衆

汎^{ヒロ}ク衆ヲ愛シテ

【疏】

汎廣也、君子尊賢容衆、故廣愛一切也、

汎ハ廣ナリ、君^ノ子ハ賢ヲ尊ヒ衆ヲ容ル、故ニ廣ク一切ヲ愛ス、

【經】

而親仁

仁ヲ親ス

【疏】

君子義之與比、故見有仁德者而親之也、若非仁親則不與之親、但廣愛之而已也、

君^ノ子ハ義ト之與^トニ比ス、故ニ仁^ノ德有ル者ヲ見テハ之ヲ親ス、若^シ仁ニ非シテ親スル^ト則ハ之レ與^ト新スル^トニ不^{アラ}ス、但ニ廣ク之ヲ愛スル而已也、

【經】

行有餘力則以學文

行餘力有ル則ハ文ヲ學フ

【疏】

行者、所以行事、已畢之迹也、若行前諸事、畢竟、而猶有餘力則、宜學先王遺文、五經六籍是也、或問曰、此云、行有餘力則、以學文、後云、子以四教、文、行、忠、信、是學文、或先或後、何也、答曰、論語之體、悉是應機適會、教體多方、隨須而與、不可一例責也、

行トハ、事ヲ行フ所^{ゆゑ}以、已ニ畢ルノ迹ナリ、若シ前ノ諸事ヲ行^ヲコト、畢リ^テ竟テ、猶ヲ餘^リ力有ル則ハ、宜ク先王ノ遺^ト文ヲ學フ宜シ、五^ノ經六^ノ籍是ナリ、或ヒト^ク問テ曰ク、此ニハ云ク、行餘^リ力有ル則ハ、以テ文ヲ學フト、後ニハ云ク、子^ヲ四^ノヲ以^テ教フ、文、行、忠、信ト、是レ文ヲ學フトコト、或ハ^シ先^シ或ハ^シ後スルコトハ、何ソヤ、答テ曰ク、論語ノ體、悉ニ是レ機ニ應^ジシテ適^シイ^ハ會^フ、教^ノ體方^ク多シ、須^ニ隨^テ與^フ、一^ノ例ニ責^ム可^クラ不^ス、

【注】

馬融曰、文者、古之遺文也、

馬融カ曰ク、文トハ、古ノ遺^ト文^トソ、

【疏】
即五經六籍也

【經】
即五經六籍ナリ

- (一) 「也」、武内本無此字。
- (二) 「迹」、武内本作「跡」。

【經】

子夏曰、賢賢易色

子夏カ曰ク、賢^{カシク}キヨリ賢^{カシク}カラントナラハ(賢ヲ賢トセントナラハ)色ヲ易ヘヨ

【疏】

姓ト、名商、字子夏、凡人之情、莫不好色、而不好賢、今若有人、能改易好色之心、以好於賢、此人便是賢於賢者、故云、賢賢易色也、然云賢於賢者、亦是獎勵之辭也、又一通云、上賢字、猶尊重也、下賢字、謂賢人也、言若欲尊重此賢人則、當改易其平常之色也、更起莊敬之容也、

姓ハト、名ハ商、字ハ子夏、凡ソ人ノ情、色ヲ好マ不トイ

フコト莫シ、而シテ賢ヲ好マ不^ス、今^{イマ}若シ人有テ、能ク色ヲ好ムノ心ヲ改メ^レ易ヘテ、以テ賢ヲ好マハ、此ノ^一人便^{すなはち}是レ賢^一者ヨリ賢ナラン、故ニ云、賢ヨリ賢トナラハ色易ヘヨト、然トモ賢ヨリ賢キト云、亦タ^一是レ獎メ^ス勸ルノ辭ナリ、又タ^一通ニ云ク、上ノ賢ノ字ハ、尊重ノ猶シ、下ノ賢ノ字ハ、賢人ヲ謂フ、言ハ若シ此ノ賢人ヲ尊^一重セント欲セハ、當ニ其ノ平常ノ色ヲ改メ^レ易テ、更ニ莊^一敬ノ容ヲ起ス當^{カたち}、

【注】

孔安國曰、子夏弟子ト商也、言以好色之心、好賢則善也、

孔安國カ曰ク、子夏ハ弟子ト商ソ、言ハ色ヲ好ムノ心ヲ以、賢ヲ好マハ善ケン、

【疏】

此注如前通也、

此ノ注ハ前ノ^一通ノ如シ、

【經】

事父母、能竭其力、

父^一母ニ事^{ツカヘマツ}ルニハ、能ク其ノ^一力ヲ竭ス、

【疏】

子事父母、左右就養無方、是能竭力也、

子父^一母ニ事^{ツカヘマツリ}テ、左^一右就^{ヤシナフ}キ^一養^{ミチ}コト方無シ、是レ能ク力ヲ竭スナリ、

【經】

事君、能致其身、

君ニ事^{ツカヘマツ}ルニハ、能ク其ノ身ヲ致ス、

【疏】

致極也、士見危致命、是能致極其身也

致ハ極ナリ、士ハ危ヲ見テ命ヲ致ス、是レ能ク其ノ^一身ヲ致シ^一極ルナリ

【注】

孔安國曰、盡忠節、不愛其身也、

孔安國カ曰ク、忠節ヲ盡シテ、其ノ身ヲ愛マ不、

【疏】

然事君、雖就養有方、亦宜竭力於君、親若患難、故宜致身、但親主家門、非患難之所、故云竭力、臣主捍難禦侮、故云致身也、

然ルニ君ニ事ルコト、就養スルニ方有ト雖、亦タ宜ク力ヲ君ニ竭ス宜シ、親若シ患難アラハ、故ニ宜ク身ヲ致ス宜シ、但シ親ハ家門ヲ主トス、患難ノ所ニ非、故ニ力ヲ竭スト云フ、臣ハ難ヲ捍キ侮ヲ禦ク主トス、故ニ身ヲ致スト云フ、

【經】

與朋友、交言而有信、

朋友與、交リ言テ信有ラハ、

【疏】

入則事親、出則事君、而與朋友交接義主不欺、故言必有信也、

入テハ則親ニ事リ、出テハ則君ニ事テ、而シテ朋友與交接スルコト義欺カ不ルヲ主トス、故ニ必ス信有ト言フ、

【經】

雖曰未學、吾必謂之學矣

未タ學ヒ未ト曰ト雖モ、吾ハ必ス之ヲ學ヒタリト謂ハン

【疏】

假令不學、而生知如前則、吾亦謂之學也、此勸人學故也、故王雍云、言能行此四者、雖云未學、而可謂已學、生而知者上、學而知者次、若未學而能知則過於學矣、蓋假言也以勸善行也、

假令學ハ不シテ、生ナカラニ知テ前ノ如ナル則ハ、吾ハ亦之ヲ學ヒタリト謂ハン、此レハ人ヲ學ニ勸ムル故ナリ、故ニ王雍カ云ク、言ハ能ク此ノ四ノ者ヲ行ナハハ、未學ヒ未ト云フト雖モ、而モ己ハ學タリト謂フ可シ、生レナカラニシテ知ル者ハ上ナリ、學テ知ル者ハ次ナリ、若シ未タ學ヒ未シテ能ク知ルハ學フニ過タリ矣、蓋シ假ニ言テ以テ善行ヲ勸ム、

學モ固^{カタ}ラ^{アツ}（固^{アツ}ラ）不^ス

- (一) 「此」上、武内本有「則」字。
- (二) 「也」、武内本無此字。
- (三) 「也」、武内本無此字。
- (四) 「言」、武内本作「云」。
- (五) 「也」、武内本作「之」。

【疏】

言君子不重、非唯無威、而學業亦不能堅固也、故孔後注云、言人不敢重、既無威、學又不能堅固識其義理也、

【經】
子曰、君子不重則不威

子ノ曰ク、君子重カラ不^スル則ハ威アラ不^ス

【疏】

重爲輕根、靜爲躁本、君子之體、不可輕薄也、君子不重則無威、無威則、人不畏之也、

重キハ輕キカ「根」ト爲^ス、靜ハ躁カ「本」ト爲^ス、君子ノ體、輕薄ナル可^ヘラ不^ス、君子重カラ不^スル則ハ威無シ、威無キ則ハ、人之ヲ畏レ不^ス、

【經】

學則不固

【注】

孔安國曰、固蔽也、

孔安國カ曰ク、固ハ蔽、

【疏】

侃案孔謂固爲弊、弊猶當也、言人既不能敢重、縱學亦不能當道理也、猶詩三百、一言以蔽之蔽也、

侃孔カ固ヲ謂テ弊ト爲ルコトヲ案スルニ、弊ハ當ノ猶シ、言ハ人既ニ敢テ重キコト能ハ^スンハ、縱ヒ學テモ「亦道」理

二當ルコト能ハ不^レ、詩三百、一言^{コレヲモツ}以^テ之レニ蔽^アツト
イウ蔽^ノ猶^シ、

【注】

一曰、言人不敢重、既無威、學不能堅固識其義理也、

一二曰ク、言ハ人敢^テ重カラ不^ルトキハ、既^{オレ}威無^シ、學
モ堅ク固ク其ノ義理ヲ識ルコト能ハ不^ス、

【經】

主忠信、

忠^ニ信^ヲ主^トシテ、

【疏】

言、君子既須威重、又忠信爲心、百行之主也、

言ハ、君^ノ子ハ既^ニ威^ト重^ヲ須^フ、又忠^ニ信^ヲ心^ト爲^ルコト
ハ、百^ノ行^ノ主^ナレハナリ、

【經】

無友不如己者、

己^ニ如^カ不^ル者^ヲ友^トスルコト無^レ、

【疏】

又明凡結交友、必令勝己、勝己則、己有日所益之義、不
得友不如己、友不如己則、己日損、故云無友不如己者、或
問曰、若人、皆慕勝己、爲友則、勝己豈友我耶也、或通
云、執^三友、必忠信者爲主、不取忠信不如己者耳、不論餘才
也、或通云、敵則爲友、不取不敵者也、蔡謨云、本言同志
爲友、此章所言、謂慕其志而思與之同、不謂自然同也、夫
上、同乎勝己、所以進也、下同乎不如己、所以退也、閔天
四賢、上慕文王、故四友是、四賢上同於文王、非文王下同
四賢也、然則、求友之道、固當見賢思齊、同志於勝己、所
以進德修業、成天下之臺臺也、今言敵則爲友、此直自論才
同德等而相親友耳、非夫子勸教之本旨也、若如所云則、直
諒多聞之益、便辟善柔之誠、奚所施也、

又凡ソ交ヲ結ヒ友ヲ取ルコト、必^カ己^ニ勝^サラ令^ルコト
ヲ明^ス、己^ニ勝^ル則^ハ、己^ニ日^ニ益^ス所^ノ義^有リ、友^トス
ルコトヲ得^不己^ニ如^カ不^ルヤ、友^己ニ如^カ不^ル則^ハ、己^ニ日^ニ
損^ス、故^ニ己^ニ如^カ不^ル者^ヲ友^トスルコト無^レト云^フ、
或^ヒト問^テ曰^ク、若^シ人、皆^己ニ勝^{レル}ヲ慕^テ、友^ト爲^ス
ル則^ハ、己^ニ勝^{レル}モノ豈^ニ我^ヲ友^トセン耶、或^ル通^ニ

云ク、友ヲ執ルコト、必ス忠信ナル者ヲ主ト爲、忠信ノ
 己ニ如カ不ル者ヲ取ラ不ル耳、餘才ヲ論セ不、或ル通ニ
 云ク、敵スル則ハ友ト爲、不敵ノ者ヲ取ラ不、蔡謨方云
 ク、本志ヲ同スルヲ言テ友ト爲、此ノ章ニ言フ所ハ、其ノ
 志ヲ慕テ之レ與同カラシコトヲ思フヲ謂フ、自然ニ同キ
 ヲ謂フニ不、夫レ上、己ニ勝レルニ同スルトキハ、進ム
 所以ナリ、下己ニ如カ不ルニ同スルトキハ、退ク所以ナ
 リ、閔天ノ四賢ハ、上文王ヲ慕フ、故ニ四友是ナリ、
 四賢ハ上文王ニ同シ、文王下四賢ニ同キニ非、然レハ
 則チ、友ヲ求ルノ道、固ニ當ニ賢ヲ見テハ齊カランコトヲ
 思フ當、志己ニ勝レルニ同スルトキハ、德ニ進ミ業ヲ修
 メ、天一下ノ臺臺タルコトヲ成ス所以ナリ、今言ク敵ス
 ル則ハ友ト爲ト、此レ直ニ自才同ク德等シフシテ相
 イ親友センコトヲ論スル耳、夫子ノ教ヲ勸ムルノ本旨
 ニ非、若シ云フ所ノ如キンハ、直諒多聞ノ益、便辟
 善柔ノ誡、奚ソ施ス所ナラン、

【經】

過則勿憚改、

アヤまち
 過テハ改ムルニ憚ル勿レ、

【疏】

勿猶莫也、憚難也、友主切磋、若有過失者、當更相諫諍、
 莫難改也、一云、若結友、過誤不得善人則、改易之莫難之
 也、故李充云、若友失其人、改之爲貴也、

勿ハ莫ノ猶シ、憚ハ難ナリ、友ハ切ツ磋ヲ主トス、若シ過
 失有ラハ、當ニ更ニ相イ諫諍ス當シ、改ムルニ難ルコト
 莫レ、一ニ云ク、若シ友ヲ結ムコト、過リ誤テ善人ヲ得
 不ル則ハ、之ヲ改メ易フルニ難ルコト莫、故ニ李充力云
 ク、若シ友其人ヲ失スルトキハ、之ヲ改ムルヲ貴シト爲、

【注】

鄭玄曰、主親也、憚難也、

鄭玄カ曰ク、主ハ親、憚ハ難、

【疏】

鄭心則、言當親於忠信之人也、

鄭カ心ハ則チ、言ハ當ニ忠信ノ人ニ親ム當トイフ、

(一) 「己」下、武内本有「有」字。

(一) 「豈」上、武内本有「者」字。

(二) 「執」、武内本作「擇」。

(三) 「必」下、武内本有「以」字。

(四) 「同」下、武内本有「心」字。

【經】

曾子曰、慎終追遠、

曾子カ曰ク、終リヲ慎ミ遠キヲ追フトキハ、

【疏】

明人君德也、慎終、謂喪盡其哀也、喪爲人之終、人子宜窮其哀戚、是慎終也、追遠、謂三年之後、爲之宗廟、祭盡其敬也、三年後、去親轉遠、而祭極敬、是追遠也、一云、靡不有初、鮮克有終、終宜慎也、久遠之事、録而不忘、是追遠也、故熊埋云、欣新忘舊、近情之常累、信近負遠、義士之所弃、是以、慎終如始則、尠有敗事、平生不忘則、久人敬之也、

人君ノ德ヲ明ス、終ヲ慎ムトハ、喪ニ其ノ哀ヲ盡スヲ謂フ、喪ハ人ノ終リヲ爲ス、人ノ子ハ宜ク其ノ哀戚(戚)ヲ窮ム宜シ、是レ終リヲ慎ムナリ、遠キヲ追フトハ、三ノ年ノ

後、之カ宗廟ヲ爲シテ、祭ニ其ノ敬ヲ盡スヲ謂フ、三ノ年ノ後、親ヲ去ルコト轉タ遠シ、而トモ祭ニ敬ヲ極ム、

是レ遠キヲ追フナリ、一ニ云ク、初メ有ラ不トイフコト

靡シ、克ク終リ有ルコト鮮シ、終リ宜ク慎ム宜シ、久遠

ノ事、録シテ而ニ忘レ不、是レ遠キヲ追フナリ、故ニ熊埋

カ云ク、新ヲ欣ヒ舊ヲ忘ルルコトハ、近情ノ常ノ累イ

ナリ、近キヲ信シ遠キニ負クハ、義士ノ弃ツル所ナリ、

是ヲ以テ、終リヲ慎ムコト始メノ如ナル則ハ、敗事有

ルコト尠ナシ、平生忘レ不ル則ハ、久シテ(久ケレト

モ)人之ヲ敬ス、

【經】

民德歸厚矣、

民ノ德厚キニ歸ス、

【疏】

上之化下、如風靡草、君上能、行慎終追遠之事則、民下之德、日歸於厚也、一云、君能行此二事、是厚德之君也、能既厚則、民咸歸依之也、

上ノ下ヲ化スルコト、風ノ草ヲ靡スカ如、君上能ク、

終リヲ慎ミ遠キヲ追フノ事ヲ行フ則ハ、民_下ノ徳、日ニ厚キニ歸ス、一ニ云ク、君能ク此ノ二事ヲ行フトキハ、是レ厚_一徳ノ君ナリ、能ク既ニ厚キ則ハ、民_咸クニ之レニ歸_一依ス、

【注】

孔安國曰、慎終者、喪盡其哀也、追遠者、祭盡其敬也、人君能行此二者、民化其徳、而皆歸於厚也、

孔安國カ曰ク、終リヲ慎トハ、喪ニ其ノ哀ヲ盡スソ、遠キヲ追トハ、祭ニ其ノ敬ヲ盡スソ、人君能ク此ノ二ノ者ヲ行フトキハ、民其ノ徳ニ化シテ、皆厚キニ歸ス、

【疏】

此是、前通也

此レハ是レ、前通ナリ

(一) 「能」、武内本作「君徳」。

【經】

子禽問於子貢曰、夫子至於是邦也、必聞其政、

子禽子貢ニ問テ曰ク、夫_一子是ノ_一邦ニ至ルトキニ、必_{かならず}其ノ_一政ヲ聞ク、

【疏】

是此也、此邦、謂每邦、非一國也、禽問子貢、怪孔子每所至之國、必早逆聞其國之風政也、故問、

是ハ此ナリ、此ノ邦トハ、邦_毎ヲ謂フ、一國_非、禽子貢ニ問フ、孔子至ル所ノ國_毎ニ、必ス早ク其ノ國ノ風_一政ヲ_逆リ_一聞クコトヲ怪ム、故ニ問、

【經】

求之與

求メタル與_カ

【疏】

與語不定之辭也、問言、孔子每所至國、必先逆聞其風政、爲是就其國主、求而得之不乎、

與語_ノ定マラ_不ル_ノ辭ナリ、問テ_一言ク、孔子至ル所ノ國_毎ニ、必ス先ツ其ノ風_一政ヲ_逆リ_一聞ク、是レ其ノ國_一主ニ

就テ、求メテ之ヲ得ルト爲ンヤ不ヤ、

【經】

抑與之與、

抑モ與ヘタルカ

【疏】

抑語助也、充又問言、爲是孔子不就國主求、而國主自呼與孔子、爲治而聞之不平、

抑ハ語ノ助ナリ、充又問テ言ク、是レ孔子國主ニ就テ求メ不レトモ、國主自孔子ニ呼ヒ與ヘテ、治ヲ爲シテ之ヲ聞カシムト爲ンヤ不ヤ、

【注】

鄭玄曰、子禽弟子陳亢也、字子禽也、子貢弟子、姓端木、名賜、字子貢也、亢怪、孔子所至之邦、必與聞其國政、

鄭玄カ曰ク、子禽ハ弟子陳亢ソ、字ハ子禽、子貢ハ弟子、姓ハ端木、名ハ賜、字ハ子貢、亢怪ラク、孔子至ル所ノ邦ニ、必ス其ノ國ノ政ヲ與リ聞ク、

【疏】
與逆也

與ハ逆ナリ

【注】

求而得之耶、抑人君自願與、爲治耶、

求メテ得タルカ、抑モ人君自願イ與ヘテ、治ヲ爲ル耶、

【經】

子貢曰、夫子温、良、恭、儉、讓、以得之、

子貢カ曰ク、夫子ハ温、良、恭、儉、讓、以テ之ヲ得タリ、

【疏】

子貢答禽說孔子所以得逆聞之由也、夫子即孔子也、禮身經爲大夫者、則得稱爲夫子、孔子爲魯大夫、故弟子呼之爲夫子也、敦美潤澤、謂之温、行不犯物、謂之良、和從不逆謂之恭、去奢從約、謂之儉、推人後己、謂之讓、言夫子、自

有此五德之美、推己以測人、故凡所至之邦、必逆聞之也、故顧歡云、此明非求非與、直以自得之耳、其故何也、夫五德内充則、是非自鏡也、又一通云、孔子入人境、觀其民之五德則、知其君所行之政也、故梁冀云、夫子所至之國、入其境、觀察風俗、以知其政教、其民温良則、其君政教之温良也、其民恭、儉、讓、則、政教恭儉讓也、孔子但見其民、則知其君政教之得失也、

子貢禽ニ答テ孔子「逆リ」聞コトヲ得ル所以ノ由ヲ説ク、夫「子トハ即チ孔子ナリ、禮ニ身」經テ大夫爲ル者ヲ、則チ得テ稱シテ夫「子ト爲」、孔子魯ノ大夫爲リ、故ニ弟「子」之ヲ呼テ夫「子ト爲」、敦「美潤」澤ナル、之レヲ温ト謂ヒ、行物ヲ犯サ不、之ヲ良ト謂ヒ、和「從」ニシテ逆ハ不之ヲ恭ト謂ヒ、奢リヲ去ケテ約ニ從フ、之レヲ儉ト謂ヒ、人ヲ推シテ己ヲ後ニス、之レヲ讓ト謂フ、言ハ夫「子」、自「此」ノ五「德」ノ美有テ、己ヲ推シテ以テ人ヲ測ル、故ニ凡ソ至ル所ノ邦ニ、必「之」ヲ逆リ「聞ク」、故ニ顧歡カ云ク、此レ明ケシ求ムルニ「非」與ルニ「非」、直ニ以テ「自」之ヲ得ルラク耳、其ノ故ハ何ントナレハ、夫レ五「德」内ニ充ル則ハ、是非「自」鏡ル（鏡ム）、又一「通」ニ云ク、孔子人ノ境ニ入テ、其ノ「民」ノ五「德」ヲ觀ル則ハ、其ノ君ノ行フ所ノ政ヲ知ル、故ニ梁冀カ云ク、夫「子」至ル所ノ國ニ、其ノ境ニ入テ、風「

俗ヲ觀「察」シテ、以テ其ノ政「教」ヲ知ル、其ノ民温「良」ナル則ハ、其ノ君ノ政「教」温良ナリ、其ノ民恭、儉、讓ナル、則ハ、政「教」恭「儉」讓ナリ、孔子但ニ其ノ民ヲ見テ、則チ其ノ君ノ政「教」ノ得「失」ヲ知ル、

【經】

夫子之求之也、其諸異乎人之求之與^(三)

夫「子」ノ求メハ、其レ諸人ノ求メニ異ナル與^カ

【疏】

此明夫子之求、與人之求異也、人則行就彼君求之、而孔子至境、推五德以測求之、故云、其諸異乎人之求之也、諸猶之也、與語助也、故顧歡云、夫子求知乎己、而諸人訪之於聞、故曰異也、梁冀又云、凡人求聞見、乃知耳、夫子觀化、以知之、與凡人異也、

此レハ夫「子」ノ求メハ、人ノ求メ與「異」ナルコトヲ明ス、人ハ則チ行イテ彼ノ君ニ就テ之ヲ求ム、而ルヲ孔子ハ境ニ至テ、五「德」ヲ推シテ以テ測テ之ヲ求ム、故ニ云ク、其レ諸人ノ求ニ異ナリト、諸ハ之ノ猶シ、與ハ語ノ助ケナリ、故ニ顧歡カ云ク、夫「子」ハ知レルコトヲ「己」ニ求ム、而ルヲ

諸一人ハ之ヲ聞ニ訪ム(訪フ)、故ニ異ナリト曰フ、梁冀又
タ云ク、凡ソノ一人ハ聞見ニ求メテ、乃チ知ル耳、夫一人
ハ化ヲ觀テ、以テ之ヲ知ル、凡一人與異ナリ、

【注】

鄭玄曰、言夫子行此五德、而得之、與人求之異、

鄭玄カ曰ク、言ハ夫一人此ノ五德ヲ行テ、之レヲ得タリ、
人ノ求メ與異ナリ、

【疏】

亦會兩通也、明不就人求、故云異也、

亦兩通ニ會ヘリ、明ケシ人ニ就テ求メ不ルコトヲ、故ニ
異ト云フ、

【注】

明、人君自求與、爲治之也、

明ケシ、人君ノ自求メ與ヘテ、治ヲ爲ルコトヲ、

【疏】

此云、人君自與之、非謂自呼與之也、政是人君所行、見於

民下、不可隱藏、故夫子知之、是人君所行、自與之也、

此ニ云ク、人君自之レニ與フトハ、自呼ヒ與ルヲ
謂フニ非ス、政ニ是レ人君ノ行フ所、民下ニ見ル、
隱藏ス可ラ不、故ニ夫子之ヲ知ル、是レ人君ノ行フ
所、自之ヲ與フルナリ、

(一) 「耶」下、武内本有「也」字。

(二) 「自」、武内本作「身」。

(三) 「與」下、武内本有「也」字。

(四) 「德」、武内本作「得」。

(五) 「之」、武内本無此字。

(六) 「自」下、武内本有「願」字。

【經】

子曰、父在觀其志、父没觀其行、

子ノ曰ク、父在ストキハ其ノ志ヲ觀ル、父没ストキ
ハ其ノ行ヲ觀ル、

【疏】

此明人子之行也、其指人子也、志謂在心未行也、故詩序

云、在心爲志、是也、言人子、父在則、己不得專行、應有善惡、但志之在心、在心而外必有趣向意氣、故可觀志也、父若己沒則、子得專行無憚、故父沒則、觀此子所行之行也、

此レハ人ノ子ノ行ヲ明ス、其トハ人ノ「子ヲ指ス、志トハ心ニ在テ^{いま}未ルコトヲ謂フ、故ニ詩ノ序ニ云ク、心ニ在ルヲ志ト爲^ストイヘル、是ナリ、言ハ人ノ子ハ、父「在ス則ハ、己專ラ^{おのレ}行コトヲ得テ、善「惡有ル應ラ不、但タ志^{こころ}ニ在リ、心ニ在テ外ニ必ス趣^へ向ノ意氣有リ、故ニ志ヲ觀ル可シ、父「若シ己ニ沒^ハスル則ハ、子專ラ^{おこなふ}行コトヲ得テ憚^ハルコト無シ、故ニ父「沒スル則ハ、此レ子ノ行フ所ノ行ヲ觀ル、

【注】

孔安國曰、父在子、不得自專、故觀其志而已也、

孔安國カ曰ク、父「在^{いま}ストキハ、子「自^{みづか}專ラスルコトヲ得^ず不、故ニ其ノ「志ヲ觀ル而已、

【疏】

志若好善、聞善事便喜、志若好惡、聞善則不喜也、

志^{こころ}若善ヲ好^{このむ}トキハ、善事ヲ聞テ便チ^{すなは}喜フ、志若シ惡ヲ好^{このむ}トキハ、善ヲ聞テハ則チ喜ハ不、

【注】

父沒、乃觀其行也

父「沒スルトキハ、乃チ其ノ「行ヲ觀ル

【疏】

得專行也

專ラ^{おこなふ}行コトヲ得

【經】

三年無改於父之道、可謂孝矣、

三年父ノ道ヲ改ムルコト無キヲ、孝ト謂ツ可シ、

【疏】

謂所觀之事也、子若在父喪、三年之内、不改父風政、此即是孝也、所以是孝者、其義有二也、一則哀毀之深、豈復識^二改之是非、故君薨、世子聽冢宰三年也、二則三年之内、哀

慕心、事亡如存則、所不忍改也、

觀ル所ノ事ヲ謂フ、子_レ若シ父ノ喪ニ在テ、三_ノ年ノ内ニ、父ノ風_レ政ヲ改メ不_レンハ、此レ_レ即チ是レ_レ孝ナリ、是レ孝ナル所_レ以ハ、其ノ義ニツ有リ、一ニハ則チ哀_レ毀(毀)スルコト深シ、豈ニ復タ之カ是_レ非ヲ改ムルコトヲ識ンヤ、故ニ君_レ薨トキハ、世_レ子_レ冢宰ニ聽クコト(聽)三_ノ年、二ニハ則チ三_ノ年ノ内ニ、哀_レ慕ノ心アツテ、亡_ニ事_ルルコト存_レノ如クスル則ハ、改ムルニ忍ヒ不_レル所ナリ、

【注】

孔安國曰、孝子在喪、哀慕猶若父在、無所改於父之道也、

孔安國カ曰ク、孝_レ子_レ喪ニ在ルトキハ、哀_レ慕スルコト猶ヲ父ノ存_レスカ若シ、父ノ道ヲ改ムルニ所無シ、

【疏】

此如後通也、或問曰、若父政善則、不改爲可、若父政惡、惡教傷民、寧可不改乎、答曰、本不論父政之善惡、自論孝子之心耳、若人君風政之惡則、冢宰自行政、若卿大夫之政惡則、其家相邑宰自行事、無關於孝子也、

此レハ後ノ通ノ如シ、或ヒト問テ曰ク、若シ父ノ政_レ善ナル_レ則ハ、改メ不_レルハ可_レナリト爲、若シ父ノ政_レ惡キトキハ、惡キ_レ教ハ民ヲ傷ル、寧口改メ不_レル可ケンヤ、答テ曰ク、本父ノ政ノ善_レ惡ヲ論セ不、自_レ孝_レ子ノ心ヲ論スル耳、若シ人_レ君風_レ政ノ惡シキ則ハ、冢宰自_レ政ヲ行フ、若シ卿大夫ノ政_レ惡キ則ハ、其ノ家_レ相邑宰自_レ事ヲ行フ、孝_レ子ニ關カルコト無シ、

(一) 「指」、武内本作「於」。

(二) 「改」、武内本作「政」。

(三) 「政」、武内本無此字。

【經】

有子曰、禮之用和爲貴、

有子カ曰ク、禮ノ用ハ和ヲ貴シト爲、

【疏】

此以下、明人君行化、必禮樂相須、用樂和民心、以禮檢民跡、跡檢心和、故風化乃美、故云、禮之用和爲貴、和即樂也、變樂言和、見樂功也、樂既言和、則禮宜云敬、但樂用在内爲隱、故言其功也

此ヨリ以下ハ、人君化ヲ行フコト、必ス禮樂相須フルコトヲ明ス、樂ヲ用ヒテハ民ノ心ヲ和シ、禮ヲ以テハ民ノ跡ヲ檢ム、跡ヲ檢マリ心ヲ和ス、故ニ風化乃チ美ナリ、故ニ云ク、禮ノ用ハ和ヲ貴シト爲ト、和ハ即チ樂ナリ、樂ヲ變シテ和ト言フコト、樂ノ功ヲ見ス、樂ニ既ニ和ト言フトキハ、禮ニ直ク敬ト云フ宜シ、但夕樂ノ用ハ内ニ在テ隱ナリト爲、故ニ其ノ功ヲ言フ

【經】

先王之道、斯爲美、

先王ノ道モ、斯レヲ美ト爲、

【疏】

先王、謂聖人爲天子者也、斯此也、言聖天子之化行禮、亦以此用和爲美也、

先王トハ、聖人ノ天子爲ル者ヲ謂フ、斯ハ此ナリ、言ハ聖天子ノ化禮ヲ行コト、亦夕此ノ和ヲ用ルヲ以テ美ト爲、

【經】

小大由之、有所不行、

小大ニモ之レヲ由フルニ、行ハレ不ル所有リ、

【疏】

由用也、若小大之事、皆用禮、而不用和則於事有所不行也、

由ハ用ナリ、若シ小大ノ事、皆禮ヲ用レトモ、而トモ和ヲ用イ不ルトキハ事ニ於テ行ハレ不ル所有リ、

【經】

知和而和、不以禮節之、亦不可行也、

和ヲ知テ和スレトモ、禮ヲ以テ節セ不ルトキハ、亦夕行ハレ可ラ不、

【疏】

上明行禮須樂、此明行樂須禮也、人若知禮用和、而每事從和、不復用禮爲節者、則於事、亦不得行也、所以言亦者、沈居士云、上能用禮不行、今皆用和、亦不可行也、

上ニハ禮ヲ行フコトハ樂ヲ須フルコトヲ明シ、此ニハ樂ヲ行フコトハ禮ヲ須フルコトヲ明ス、人若シ禮ノ和ヲ用ルコトヲ知テ、事毎ニ從_{コト}和シテ、復禮ヲ用テ節スルコトヲ爲サ不ルトキハ、則チ事ニ於テ、亦行ハルコトヲ得_ナ不、亦ト言フ所_レ以ハ、沈居士カ云ク、上ニハ能ク禮ヲ用テ行ハ_レ不、今ハ皆和ヲ用テ、亦行ハル可_カラ_ナ不、

【注】

馬融曰、人知禮貴和、而每事從和、不以禮爲節、亦不可行也、

馬融カ曰ク、人禮ノ和ヲ貴フコトヲ知テ、事毎ニ和ニ從ヘトモ、禮ヲ以テ節スルコトヲ爲不ルトキハ、亦夕行ハル_ヘ可_カラ_ナ不、

【疏】

此解知和而和、不以禮爲節義也、

此ニハ和ヲ知テ和スレトモ、禮ヲ以節スルコトヲ爲不ルノ義ヲ解ク、

(一) 「也」、武内本無此字。

(二) 「能」、武内本作「純」。

【經】

有子曰、信近於義、言可復也、

有子カ曰ク、信ヲハ義ニ近フセヨ、言復ス可シ、

【疏】

信不欺也、義合宜也、復猶驗也、夫信不必合宜、合宜不必信、若爲信近於合宜、此信之言乃可復驗也、若爲信不合宜、此雖是不欺、而其言不足復驗也、或問曰、不合宜之信云何、答曰、昔在尾生、與女子期於梁下、每期每會、後一日、急暴水漲、尾生先至、而女子不來、而尾生守信不去、遂守期溺死、此是信不合宜、不足可復驗也、

信ハ欺カ不ルナリ、義ハ宜_カニ合フ、復ハ驗ノ猶シ、夫レ信ハ必ス宜ニ合ハ不、宜ニ合フトキハ必ス信ニ不、若シ信ヲ爲ルコト宜ニ合フニ近ケレハ、此レ信ノ言乃シ復驗ス_ヘ可キナリ、若シ信ヲ爲ルコト宜ニ合ハ不ルトキハ、此レ是レ欺カ不ト雖モ、而トモ其ノ言復驗スルヲ足ラ不、或ヒト問テ曰ク、宜ニ合ハ不ルノ信ト云フハ何、答テ曰ク、昔_{ムカシ}在尾生、女_メ子與梁下二期ス、期スル毎ニ每_{ツね}會ス、

後一^{の子}日二、急二暴^{ホウ}一水漲ス^{ニツカ}（漲ル）、尾生先ツ^{ニツカ}至ル、
而シテ女子來ラ不^ス、而トモ尾生信ヲ守テ去ラ不^ス、遂二期ヲ
守テ溺^{デキ}（溺）死ス、此レハ是レ信宜ニ合ハ不^ス、復^テ驗ス可^キ
キニ足ラ不^ス、

【注】

復猶覆也、義不必信、信不必義也、以其言可反覆故、曰近
於義也、

復覆ス猶シ、義ハ必^{かならずし}モ信アラ不^ス、信ハ必^{かならず}シモ義アラ
不^ス、其ノ言ノ反^{コト}覆ス可キヲ以テノ故ニ、義ニ近フセヨト
曰フ、

【疏】

若如注意、則不得爲向者通也、言信不必合宜、雖不合宜、
而其交是不欺、不欺則、猶近於合宜、故其言可覆驗也、

若シ注ノ意ノ如キンハ、向^{サキ}ノ通ヲ爲スコトヲ得不^ス、^{いふこころは}言
信ハ必ス宜ニ合ハ不^ス、宜ニ合ハ不ト雖、其ノ交^{いへども}リ是レ
欺力不^ス、欺力不^スル則ハ、猶ヲ宜ニ合ニ近シ、故ニ其ノ言^レ
覆^テ驗ス可シ、

【經】

恭近於禮、遠恥辱也、

恭ヲハ禮ニ近フセヨ、恥^{はず}辱^{はず}ニ遠ル、

【疏】

恭是孫^三從、禮是體別、若孫從不當於體、則爲恥辱、若孫從
近禮、則遠於恥辱、孫從不合禮者何、猶如孫在床下、及不
應拜而拜之^五之屬也、

恭ハ是レ孫^三從、禮ハ是レ體ノ別、若孫^三從體ニ當ラ不トキ
ハ、恥^ハ辱^ト爲^ス、若シ孫^三從スルコト禮ニ近キトキハ、恥^ハ
辱^ニ遠ル、孫^三從禮ニ合ハ不ルトハ、何、猶シ孫^三從^{コト}床^下
下ニ在テ、及ヒ應拜ス應^ハ不^スシテ之ヲ拜スルノ屬ノ如シ、

【注】

恭不合禮、非禮也、以其能遠恥辱故、曰近於禮也、

恭禮ニ合ハ不レハ、禮ニ非^{あらず}、其ノ能ク恥^ハ辱^ニ遠ルヲ以テ
ノ故ニ、禮ニ近フセヨト曰フ、

【疏】

此注、亦不依向通也、故言、恭不合禮、乃非是禮、而交得遠於恥辱、故曰近禮也、即是危行言遜、得免遠恥辱也

此ノ注モ、亦タ向ノ通ニ依ラ不、故ニ言ク、恭禮ニ合ハ不ルトキハ、乃チ是レ禮ニ非ス、交リ恥辱ニ遠ルコトヲ得、故ニ禮ニ近フセヨト曰フ、即是レ行ヲ危シフシ言テ、恥辱ニ免レ、遠コトヲ得

【經】

因不失其親、亦可宗敬可也、

因シンスルコト其ノ親ヲ失セ不ハ、亦タ宗敬ス可シ、

【疏】

因猶親也、人能所親、得其親者、則此德可宗敬也、親不失其親、若近而言之則、指於九族、宜相和睦也、若廣而言之則、是汎愛衆而親仁、乃義之與比、是親不失其親也、然云亦可宗者、亦猶重也、能親所親則、是重爲可宗也、

因ハ親ノ猶シ、人能ク親スル所、其ノ親ヲ得ルトキハ、此ノ德宗敬ス可シ、親スルコト其ノ親ヲ失セ不トハ、若

シ近フシテ之ヲ言フ則ハ、九族ヲ指ス、宜ク相ヒ和レ睦ス

宜、若シ廣フシテ之ヲ言フ則ハ、是レ汎ク衆ヲ愛シテ仁ヲ親ス、乃チ義ト與ニ比ス、是レ親スルコト其ノ親ヲ失セ不ルナリ、然シテ亦宗フ可シト云フナリ、亦ハ重ノ猶シ、能ク親スル所ヲ親スル則ハ、是レ重テ宗フ可シト爲、

【注】

孔安國曰、因親也、言所親不失其親、亦可宗敬也、

孔安國カ曰ク、因ハ親、言ハ親スル所其ノ親ヲ失セ不ハ、亦タ宗敬ス可シ、

【疏】

亦會二通、然喪服傳云、繼母與因母同、是言、繼母與親母同、故孔亦謂此因爲親也、

亦タ二通ニ會フ、然シテ喪服傳ニ云ク、繼母ト因母ト同シトイヘリ、是レ言ハ、繼母ト親母ト與同シ、故ニ孔亦タ此ノ因ヲ謂テ親ト爲、

- (一) 「在」、武内本作「有」。
- (二) 「與」下、武内本有「一」字。

(三) 「孫」、武内本作「遜」。

(四) 「床」、武内本作「牀」。

(五) 「之」、武内本無此字。

(六) 「非是」、武内本作「是非」。

(七) 「親」下、武内本有「是」字。

【經】

子曰、君子、食無求飽、居無求安、

子ノ曰ク、君_一子ハ、食_レ飽カント求ムルコト無ク、居_レ安カラント求ムルコト無シ、

【疏】

此勸人學也、既所慕、在形骸之内、故無暇復在形骸之外、所以不求安飽也、一簞一瓢、是無求飽也、曲肱陋巷、是無求安也、

此レハ人ヲ學ニ勸ムルソ、既ニ慕フ所、形骸ノ内ニ在リ、故ニ暇_レアキ復タ形骸ノ外ニ在_レ無シ、安_レ飽ヲ求メ不_レル所以ナリ、一_レ簞一_レ瓢ノミ、是レ飽ヲ求ルコト無シ、肱ヲ陋_レ巷ニ曲ク、是レ安_レシコトヲ(安_レヲ)求ルコト無キナリ、

【注】

鄭玄曰、學者之志、有所不暇也、

鄭玄カ曰ク、學者ノ志、暇_レアキアラ不_レル所有リ、

【經】

敏於事、

事ニ敏シテ、

【疏】

此以下三句、是不飽不安、所爲之事也、敏疾也、事所學之行也、疾學於所學之行也、

此ヨリ以下ノ三句ハ、是レ飽カ不_レ安カラ不_レルカ、爲_レル所ノ事ナリ、敏ハ疾ナリ、事トハ學フ所ノ行ナリ、疾ク學フ所ノ行ヲ學フナリ、

【經】

而慎於言、

言ヲ慎ム、

【疏】言所學之言也、所學之言、當慎傳說之也、

言トハ學フ所ノ言ナリ、學フ所ノ言、當ニ慎ミ傳ヘテ之ヲ説ク當、

【經】就有道而正焉、

有_レ道ニ就テ正ス、

【疏】

有道、道德者也、若學前言之行、心有疑味、則往就有道德之人、決正之也、

有_レ道トハ、道_レ德アル者_ト、若シ前ニ言_レフノ行ヲ學テ、心ニ疑_レ味有_ラハ、往テ道_レ德有_ルノ人ニ就テ、之ヲ決_レ正スヘシ、

【經】可謂好學也矣已、

學好ムト謂フ可ラク也矣、

【疏】

合結食無求飽、以下之事、竝是可謂好學者也、

合セテ食飽シト求ルコト無シトイフヨリ、以下ノ事ヲ結ス、竝ニ是レ學好ムト謂フ可キ者ナリ、

【注】

孔安國曰、敏疾也、有道德者、謂有道德者也、正謂問事是非也、

孔安國カ曰ク、敏ハ疾、有_レ道トハ、道_レ德有_ル者ヲ謂フ、正_トストハ事_ト是非ヲ問フヲ謂フソ、

(一) 「道」上、武内本有「有」字。

【經】

子貢問曰、貧而無諂、

子貢問テ曰、貧シテ諂フコト無ク、

【疏】

乏財曰貧、非分橫求曰諂也、乏財者、好以非分橫求也、子貢問言、若有貧者能不橫求、何如、故云、貧而無諂也、范寧云、不以正道求人爲諂也、

財ニ乏シキヲ貧ト曰フ、分ニ非シテ横ニ求ムルヲ諂(諂) (諂) ト曰フ、財ニ乏キ者ハ、好テ分ニ非ヲ以テ横ニ求ム、子貢問テ言ク、若貧ナル(貧シキ)者有テ能ク横ニ求メ不ンハ、何如、故ニ云ク、貧シテ而諂コト無シト、范寧カ云ク、正道ヲ以テ人ニ求メ不ルヲ諂ヘリト爲ス、

【經】

富而無驕、

富テ驕ルコト無クンハ、

【疏】

積蓄財帛曰富、凌上慢下曰驕也、富積者、既得人所求、好生凌慢、故云、富而無驕也、

財帛ヲ積ミ蓄フルヲ富ト曰フ、上ヲ凌キ下ヲ慢ルヲ驕

ト曰フ、富積メル者ハ、既二人ノ求ムル所ヲ得、好テ凌慢ヲ生ス、故ニ云ク、富テ驕ルコト無シト、

【經】

何如、

何如、

【疏】

陳二事既畢、故問云、何如也、

二ノ事ヲ陳ルコトハ既ニ畢ル、故ニ問テ云ク、何如、

【經】

子曰、可也、

子曰ク、可ナリ、

【疏】

答子貢也、言貧富如此、乃是可耳、未足爲多也、

子貢ニ答フ、言ハ貧富此ノ如キンハ、乃チ是レ可ナル

耳、未タ多シト爲ルニ足ラ未、

【注】

孔安國曰、未足多也、

孔安國カ曰ク、未タ多トスルニ足ラ未、

【疏】

范寧云、孔子以爲、不驕不諂、於道雖可、未及臧也、

范寧カ云、孔子以爲ラク(以爲へり)、驕ラ不諂ハ不
ンハ、道ニ於テ可ナリト雖、未タ臧スルニ及ハ未、

【經】

未若、貧而樂道、

未いまた若シカ未、貧シテ道ヲ樂ミ、

【疏】

孔子更説貧行有勝於無諂者也、貧而無諂乃爲可、然而不及
於自樂也、故孫綽云、顔氏之子、一簞一瓢、人不堪憂、回
也不改樂也、

孔子更ニ貧一行ノ諂コト無キ者ニ勝レルコト有ルコトヲ説
ク、貧シテ諂コト無キハ乃チ可ナリト爲、然トモ、自
ムニ及ハ不、故ニ孫綽カ云ク、顔氏ノ子、一簞一瓢ノ
ミ、人ハ憂ヘニ堪ヘ不、回ハ樂ミヲ改メ不、

【經】

富而好禮者也、

富テ禮ヲ好マン者ニハ、

【疏】

又舉富行勝於不驕者也、富能不驕、乃是可嘉、而未如恭敬
好禮者也、然不云富而樂道、貧而好禮者、亦各指事也、貧
者多憂、好不樂、故以樂爲勝、又貧無財以行禮、故不云禮
也、富既饒足、本自有樂、又有財可行禮、故言禮也、

又富一行ノ驕ラ不ルニ勝コトヲ舉ル者ナリ、富テ能ク驕ラ
不ンハ、乃チ是レ嘉ス可シ、而トモ未タ恭敬ニシテ禮ヲ
好ム者ニハ如カ未、然シテ富テ道ヲ樂ミ、貧シテ而禮ヲ
好ムト云ハ不ルコトハ、亦タ各事ヲ指ス、貧キ者ハ憂
ヘ多シ、好テ樂マ不、故ニ樂ムヲ以テ勝レリト爲、又貧
シキモノハ財ノ以テ禮ヲ行フ無シ、故ニ禮ヲ云ハ不、富ハ

既二饒^{ユタカ}ニ足レリ、本自^{もと}樂^ヲミ有リ、又財^{また}ノ禮^ヲ行フ可^ヘキ有リ、故ニ禮^ヲ言フ、

【注】

鄭玄曰、樂謂志於道、不以貧賤、爲憂苦之也、

鄭玄カ曰ク、樂ムコトハ道ニ志シテ、貧賤^トヲ以^テ、憂^ト苦^ト爲^セズル^ヲ謂フ、

【疏】

顏原是也、

顏原是ナリ、

【經】

子貢曰、詩曰、如切、如磋、如琢、如磨、其斯之謂與也、

子貢カ曰ク、詩ニ曰ラク、切スルカ如ク、磋スルカ如ク、琢スルカ如ク、磨スルカ如シトハ、其レ斯レヲ謂フ與^カ（斯ノ謂與^{イイカ}）、

【疏】

子貢聞孔子言、貧樂富禮、竝是宜自切磋之義、故引詩以證之也、爾雅云、治骨曰切、治象曰磋、治玉曰琢、治石曰磨、言、骨、象、玉、石、四物、須切磋乃得成器、如孔子所說貧樂富禮、是自切磋成器之義、其此之謂不平、以證孔子也、

子貢孔子ノ言ヲ聞^キキテ、貧シテ樂ミ富^クノ禮、竝ニ是レ宜ク自^ミ切^{カラ}磋^スノ義トス宜シ、故ニ詩ヲ引^テ以^テ之ヲ證ス（證ス）、爾雅ニ云ク、骨ヲ治ムルヲ切ト曰ヒ、象ヲ治ルヲ磋ト曰ヒ、玉ヲ治ルヲ琢ト曰ヒ、石ヲ治ムルヲ磨ト曰フ、言ハ、骨、象、玉、石ノ、四^ノ物ハ、切^テ磋^ヲ須^メテ乃チ（乃シ）器ト成^ルコトヲ得、孔子ノ説ク所ノ如キンハ貧ノ樂ミ富ノ禮、是レ自^ミ切^{カラ}磋^スシテ器ト成ルノ義ナリ、其レ此ヲ謂フヤ^ト不^ラヤトハ、以テ孔子ニ證^トフソ、

【注】

孔安國曰、能貧而樂道、富而好禮者、能自切磋琢磨者也、

孔安國カ曰ク、能ク貧シテ道ヲ樂ミ、富テ禮ヲ好ム者ハ、能ク自^ミ切^{カラ}磋^ス琢^ル磨^ススル者ナリ、

【經】

子曰、賜也、始可與言詩已矣、

子ノ曰ク、賜、始メテ與ニ詩言フ可ラク已、

【疏】

子貢既知引詩、結成孔子之義、故孔子美之云、始可與言詩也、言始可者、明知之始於此也、

子貢既ニ詩ヲ引コトヲ知テ、孔子ノ義ヲ結成ス、故ニ孔子之ヲ美メテ云ク、始メテ與ニ詩言フ可ラクノミ、始テ可カラクト言フコトハ、明ケシ之レヲ知ルコトノ此ヨリ始マルコトヲ、

【經】

告諸往、而知來者也、

諸往ヲ告ルニ、而モ來ヲ知レル者ナリ、

【疏】

解所以可言詩義也、諸之也、言我往告之、以貧樂富禮、而子貢來答、知引切磋之詩、以起予也、江熙云、古者賦詩見

志、子貢意見、故曰可與言詩、夫所貴悟言者、既得其言、又得其旨也、告往事、而知將來、謂聞夷齊之賢、可以知不爲衛君、不欲指言其語、故舉其類耳、

詩言フ可キ所以ノ義ヲ解ク、諸ハ之ナリ、言ハ我往告スルニ、貧ノ樂ミ富ノ禮ヲ以テスレハ、而シテ子貢來答スルニ、切磋ノ詩ヲ引コトヲ知テ、以テ予ヲ起ス、江熙カ云ク、古ニハ詩ヲ賦シテ志ヲ見ス（見ス）、子貢カ意ヲ見ル、故ニ曰ク與ニ詩言フ可ラクノミト、夫レ言ヲ悟ルコトヲ貴フ所ハ、既ニ其ノ言ヲ得テ、又其ノ旨ヲ得タリ、往事ヲ告ルニ、而モ將來ヲ知ル、謂ル夷齊カ賢ナリト聞テ、以テ衛ノ君ヲ爲ケ不ルコトヲ知ル可シ、指シテ其ノ語ヲ言ハンコトヲ欲セ不、故ニ其ノ類ヲ舉クル耳、

【注】

孔安國曰、諸之也、子貢知引詩、以成孔子義、善取類也、故然之、往告之、以貧而樂道、來答、以切磋琢磨者也、

孔安國カ曰ク、諸ハ之、子貢詩ヲ引クコトヲ知テ、以テ孔子ノ義ヲ成ス、善ク類ヲ取ル、故ニ之ヲ然ンス、往告スルニ、貧シテ道ヲ樂ムヲ以テスレハ、來答スルニ、切磋琢磨ヲ以テスル者ナリ、

【疏】

范寧云、子貢欲躬行二者、故請問也、切磋琢磨所以成器、訓誘學徒、義同乎茲、子貢富而猶吝、仲尼欲戒以禮中、子貢知心厲己、故引詩以爲喻也、

范寧カ云ク、子貢躬ラ二ノ者ヲ行ハント欲、故二請イ、問フ、切磋琢磨ハ器ヲ成ス所以ナリ、學徒ヲ訓誘スルコト、義茲ニ同シ、子貢富テ猶ヲ吝カナルカ猶、仲尼戒ルニ禮ノ中ヲ以テセマク欲ス、子貢心ニ己ヲ厲スコトヲ知ル、故二詩ヲ引テ以テ喻ヲ爲ス、

- (一) 「凌上」、武内本作「陵上」。
- (二) 「凌慢」、武内本作「陵慢」。
- (三) 「寧」、武内本作「甯」。
- (四) 「乃」下、武内本有「是」字。
- (五) 「改」下、武内本有「其」字。
- (六) 「好」、武内本作「而」。
- (七) 「義」、武内本無此字。
- (八) 「詩」下、武内本有「矣」字。
- (九) 「之」、武内本無此字。

【經】

子曰、不患人之不己知也、患己不知人也、

子ノ曰ク、人ノ己ヲ知ラ不ルコトヲ患ヘ不レ、己カ人ヲ知ラ不ルコトヲ患ヘヨ、

【疏】

世人、多言己有才、而不爲人所知、故孔子解抑之也、言不患人不知己、但患己不知人耳、故李充云、凡人之情、多輕易於知人、而怨人不知己、故抑引之教、興乎此矣、

世一人、多ク言フ己才有レトモ、人ノ爲ニ知ラ所不ト、故ニ孔子解テ之ヲ抑フ、言ハ人己ヲ知不ルコトヲ患ヘ不レ、但ニ己カ人ヲ知ラ不ルコトヲ患シ耳、故ニ李充カ云ク、凡ソ人ノ情、多ク人ヲ知ルコトヲ輕易ス、而シテ人ノ己ヲ知ラ不ルコトヲ怨ム、故ニ抑引ノ教、此ニ興ルカ、

(一) 武内本、此後有注文「王肅曰徒患己無能知也」十字。

(学而篇担当 洲脇武志)

爲政第二(1)(2)

疏

【疏】

爲政者、明人君爲風俗政之法也、謂之爲政者、後卷云、政者正也、子卒(三)而正、孰敢不正、又鄭注周禮司馬云、政正也、政所以正不正也、所以次前者、學記云、君子如欲化民成俗、其必由學乎、是明先學、後乃可爲政化民、故以爲政、次於學而也、

爲政ハ、人君風俗ノ政ヲ爲スノ法ヲ明ス、之ヲ爲政ト謂コトハ、後ノ卷ニ云ク、政ハ正ナリ、子卒ヒキイテ正サハ、孰カ敢テ正シカラ不ラン、又鄭カ周禮ノ司馬ヲ注スルニ云ク、政ハ正ナリ、政ハ不正ヲ正ス所以ナリ、前二次ツル所以ハ、學記ニ云ク、君子如シ民ヲ化シ俗ヲ成サント欲セハ、其レ必ス學ニ由ランカ(學ヲ由インカ)、是レ先ツ學テ、後ニ乃チ政ヲ爲シ民ヲ化ス可キヲ明ス、故ニ爲政ヲ以テ、學而二次ツ、

- (一) 「爲政第二、武内本作「論語爲政第二」。
- (二) 「二」下、武内本有「何晏集解」四字、「凡廿四章」四字(小字單行)。

(三) 「卒」、武内本作「率」。

【經】

子曰爲政以德、

子ノ曰ク政ヲ爲ルニ德ヲ以テス(以テスレハ)、

【疏】

此明人君爲政教之法也、德者得也、言人君爲政、當得萬物之性、故云以德也、故郭象云、萬物皆得性、謂之德、夫爲政者、奚事哉、得萬物之性、故云德而已也、

此ハ人君ノ政ヲ教ヲ爲ルノ法ヲ明ス、德ハ得ナリ、言ハ人君政ヲ爲ルコト、當ニ萬物ノ性ヲ得當シ、故ニ德ヲ以テスト云フ、故ニ郭象カ云ク、萬物皆性ヲ得、之レヲ德ト謂フ、夫レ政ヲ爲ルトハ、奚事ナニコトソヤ、萬物ノ性ヲ得、故ニ德ト云而已、

【經】

譬、如北辰居其所、而衆星共之、

譬ヘハ、北辰ノ其ノ所ニ居テ、衆星ノ之レニ共クカ如

シ、

【疏】

此爲爲政以德之君、爲譬也、北辰者、北極紫微星也、所猶地也、衆星、謂五星、及廿八宿以下之星也、北辰鎮居一地、而不移動、故衆星共宗之、以爲主也、譬人君若無爲、而御民以德則、民共尊奉之、而不違背、猶如衆星之共尊北辰也、故郭象云、得其性則歸之、失其性則違之、

此レハ政ヲ爲ルニ德ヲ以スルノ君ノ爲ニ、譬ヲ爲ス、北辰トハ、北極ノ紫微星ナリ、所ハ地猶シ、衆星トハ、五星、及ヒ廿八宿ヨリ以下ノ星ヲ謂フ、北辰ハ一地位ニ鎮居シテ、移リ動カ不、故ニ衆星共シテ之ヲ宗テ、以テ主ト爲、譬ヘハ人君無爲ニ若ツテ、民ヲ御ムルニ德ヲ以テスル則ハ、民共ニ之ヲ尊奉シテ、違背セズ、猶シ衆星ノ共シテ北辰ヲ尊カ如シ、故ニ郭象カ云ク、其ノ性ヲ得ル則ハ之ニ歸ス、其ノ性ヲ失スル則ハ之ニ違ス、

【注】

鄭玄曰、德者無爲、譬猶北辰之不移、而衆星共之也、

鄭玄カ曰ク、德ハ無爲、譬ヘハ猶ヲ北辰ノ移ラ不シテ、衆星ノ之ニ共スルカ猶、

(一) 「云」、武内本作「曰」。

(二) 「共」、武内本作「拱」。

(三) 「廿」、武内本作「二十」。

(四) 「云」、武内本作「曰」。

(五) 「共」、武内本作「拱」。

【經】

子曰、詩三百、

子ノ曰ク、詩三百、

【疏】

此章、舉詩證爲政以德之事也、詩即今之毛詩也、三百者、詩篇大數也、詩有三百五篇、此舉其全數也、

此ノ章ニハ、詩ヲ舉テ政ヲ爲ルニ德ヲ以スルノ事ヲ證ス、詩ハ即チ今ノ毛詩ナリ、三百トハ、詩ノ篇ノ大數ナリ、詩ハ三百五篇有リ、此ニハ其ノ全數ヲ舉ク、

【注】
孔安國曰、篇大數也、

孔安國カ曰ク、篇ノ大數ソ、

【經】
一言、以蔽之、

一言、^{コレも}以テ之ニ蔽^アツ、

【疏】

一言、謂思無邪也、蔽當也、詩雖三百篇之多六義之廣、而唯用思無邪之一言、以當三百篇之理也、猶如爲政其事多、而終歸於以德不動也、

一言トハ、思^レ無^レ邪ヲ謂フ、蔽ハ當ナリ、詩ハ三百篇ノ多キ六^レ義ノ廣キト雖モ、而トモ唯^タタ思^レ無^レ邪ノ一言ヲ用テ、以テ三百^レ篇ノ理ニ當ツ、猶^ハシ政ヲ爲ルノ其^ノ事多シ、而レトモ終^ツニ德ヲ以動セ^ズ不^レ歸スルカ如シ、

【注】

荀氏曰、弊猶當也、

荀氏カ曰ク、弊ハ當ノ猶シ、

【經】
曰、思無邪、

曰^ハク、邪^ヲ無^{ラン}コトヲ思ヘト、

【疏】

此即、詩中之一言也、言爲政之道、唯思於無邪、無邪則、歸於正也、衛瓘云、不曰思正、而曰思無邪、明正無所思邪、邪去則合於正也、

此レ即チ、詩ノ中ノ一言ナリ、言ハ政ヲ爲ルノ道、唯^タタ邪^ヲ無^{ラン}コトヲ思フ、邪^ヲ無^キ則^ハ、正ニ歸ス、衛瓘^云カ云ク、正シカランコトヲ思ヘト曰ハ不^スシテ、邪^ヲ無^{ラン}コトヲ思ヘト曰フコトハ、正シキトキハ邪^ヲ思フ所無^キコトヲ明^ス、邪^ヲ去^ル則^ハ正ニ合^フ、

【注】

荀氏曰、歸於正也、

荀氏カ曰ク、正ニ歸スルソ、

(一) 「篇」下、武内本有「之」字。

(二) 「事」下、武内本有「乃」字。

(三) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

子曰、導之以政、

子ノ曰ク、之レヲ導クニ政ヲ以テシ、

【疏】

此章、證爲政以德所以勝也、將言其勝、故先舉其劣者也、導謂誘引也、政謂法制也、謂誘引民用法制也、故郭象云、政者立常制、以正民者也、

此ノ章ニハ、政ヲ爲ルニハ徳ヲ以スルノ勝レル所_ト以テ證ス、將ニ其ノ勝レルヲ言ハント將、故ニ先ツ其ノ劣ナル者ヲ舉ク、導トハ誘引スルヲ謂フ、政トハ法_ト制ヲ謂フ、民ヲ誘引スルニ法_ト制ヲ用ルヲ謂フ、故ニ郭象カ云ク、政トハ常ノ制ヲ立テテ、以テ民ヲ正シフスル者ナリ、

【注】

孔安國曰、政謂法教也、

孔安國カ曰ク、政トハ法_ト教ヲ謂フ、

【疏】

法教、即是法制也、

法_ト教ハ、即是レ法制ナリ、

【經】

齊之以刑、

之ヲ齊フルニ刑ヲ以テスルトキハ、

【疏】

齊謂齊整之也、刑謂刑罰也、故郭象云、刑者興法辟、以割物者也、

齊トハ之ヲ齊ヘ_ト整ルヲ謂フ、刑トハ刑罰ヲ謂フ、故ニ郭象カ云ク、刑トハ法_ト辟ヲ興シテ、以テ物ヲ割ク者ナリ、

【注】

馬融曰、齊整之、以刑罰也、

馬融カ曰ク、之ヲ齊トハ整ルニ、刑罰ヲ以テスルソ、

【經】

民免而無恥、

民まめ免めレントシテ恥は無シ、

【疏】

免猶脱也、恥恥辱也、爲政、若以法制、導民、以刑罰、齊民則、民畏威、苟且三萬方巧避、求於免脫罪辟、而不復知避恥、故無恥也、故郭象云、制有常則可矯、法辟興則可避、可避則、違情而苟免、可矯則、去性而從制、從制外正、而心内未服、人懷苟免則、無恥於物、其於化不亦薄乎、故曰、民免而無恥也、

免ハ脱ノ猶シ、恥トハ恥辱ナリ、政ヲ爲ルニ、若シ法一制ヲ以テ、民ヲ導キ、刑罰ヲ以テ、民ヲ齊ル則ハ、民畏レフ威ル、苟クモイヤシ(苟)且ニシテ萬方二巧ニ避テ、罪辟ニ免脱センコトヲ求テ、復タ恥ヲ避コトヲ知ラ不ス、故ニ恥無シ、故ニ郭象カ云ク、制常有ル則ハ矯ル可シ、法一辟興ル則ハ避ク可シ、避ク可キ則ハ、情ニ違シテ苟モ免

ル、矯ル可キ則ハ、性ヲ去テ制ニ從フ、制ニ從トキハ外正シテ、心ノ内未タ服セ未、人苟モ免レントコトヲ懷ク則ハ、物ニ恥無シ、其レ化ニ於テ亦タ薄カラ不ヤ、故ニ

曰ク、民免レントシテ恥無シト、

【注】

孔安國曰、苟免罪也、

孔安國カ曰ク、苟モ罪ニ免ルルソ、

【經】

導之以德、

之ヲ導クニ德ヲ以シ、

【疏】

此章、擧勝者也、謂誘引民、以道德之事也、郭象云、德者、得其性者也、

此ノ章ニハ、勝レル者ヲ擧ク、民ヲ誘引スルニ、道德ノ事ヲ以テスルコトヲ謂フ、郭象カ云ク、徳トハ、其ノ

性ヲ得ル者ナリ、

【注】

苞氏曰、徳謂道徳也、

苞氏カ曰ク、徳トハ道「徳ヲ謂ソ、

【疏】

亦得合郭象解也、

亦郭象カ解ニ合フコトヲ得、

【經】

齊之以禮、

之ヲ齊ルニ禮ヲ以スルトキハ、

【疏】

以禮齊整之也、郭象云、禮者體其情也、

禮ヲ以テ之ヲ齊ヘ「整ルナリ、郭象カ云ク、禮トハ其ノ情ヲ體スルソ、

【經】

有恥且格、

恥有テ且ツ「格シ、

【注】

格正也、

格ハ正、

【疏】

既導徳、齊禮、故民服從、而知愧恥、皆歸於正也、郭象云、情有所恥、而性有所本、得其性則、本至、體其情則、知恥、知恥則、無刑而自齊、本至則、無制而自正、是以導之以徳、齊之以禮、有恥且格、沈居士云、夫立政以制物、物則矯以從之、用刑、以齊物、物則巧以避之、矯則、迹從而心不化、巧避則、苟免而情不恥、由失其自然之性也、若導之以徳、使物各得其性則、皆用心、不矯其眞、各體其情則、皆知恥而自正也、

既ニ導クニ「徳ヲモテシ、齊ルニ「禮ヲモテス、故ニ民服從シテ、愧「恥ヲ知テ、皆正ニ歸ス、郭象カ云ク、情恥ル

- 所有テ、而シテ性本ツク所有リ、其ノ性ヲ得ル則ハ、本
 至ル、其ノ情ヲ體スル則ハ、恥ヲ知ル、恥ヲ知ル則ハ、
 刑無ケレトモ 自 齊ヲリ、本 至ル則ハ、制無ケレトモ
 自 正シ、是ヲ以テ之ヲ導ニ德ヲ以テシ、之ヲ齊ルニ
 禮ヲ以スルトキハ、恥有テ且ツ格シ、沈居士カ云ク、夫
 レ政ヲ立ルニ物ヲ制スルヲ以スルトキハ、物 則チ矯リ
 ヲ以テ之ニ從フ、刑ヲ用テ、以テ物ヲ 齊 トキハ、物
 則チ巧ニ以テ之ヲ避ク、矯ル則ハ、迹 從テ心化セ不
 巧ニ避ル則ハ、苟モ 免テ情ニ恥チ不、其ノ自 然ノ性ヲ
 失フニ由ル、若シ之ヲ導ニ德ヲ以ス、物ヲ使テ 各 其ノ性
 ヲ得セ使ムル則ハ、皆心ヲ用ルコト、其ノ 眞ヲ矯ラ不
 各 其ノ情ヲ體スル則ハ、皆恥ヲ知テ 自 正シ、
- (一) 「云」、武内本作「曰」。
 (二) 「割」下、武内本有「制」字。
 (三) 「萬」、武内本作「百」。
 (四) 「章」、武内本作「即」。
 (五) 「云」、武内本作「曰」。
 (六) 「云」、武内本作「曰」。
 (七) 「格」下、武内本有「(加自反)」(小字雙行)。
 (八) 「云」、武内本作「曰」。
 (九) 「迹」、武内本作「跡」。

【經】
 子曰、吾十有五而志、

子ノ曰ク、吾十有五ニシテ學ニ志ス、

【疏】

此章、明孔子隱聖同凡、學有時節、自少迄老、皆所以勸物
 也、志者、在心之謂也、孔子言、我年十五、志學在心也、
 十五是成童之歲、識慮堅明、故始此年、而志學也、

此ノ章ニハ、孔子聖ヲ隱シテ凡ニ同コトヲ明ス、學ニ時
 節有リ、少自り老ニ迄フ、皆物ヲ勸ムル所以ナリ、志ト
 ハ、心ニ在ルノ謂ナリ、孔子ノ言ク、我カ年十五ニシ
 テ、學ニ志スコト心ニ在リキ、十五ハ是レ成童ノ歲、
 識慮堅明ナリ、故ニ此ノ年ヲ始テ、學ニ志ス、

【經】

三十而立、

三十二シテ立ツ、

【疏】

立謂所學經業成立也、古人、三年明一經、從十五至三十、是又十五年、故通五經之業、而以成立也、

立トハ學フ所ノ經業ノ成リ立ヲ謂フ、古ノ人ハ、三ノ年ニシテ一經ヲ明ニス、十五從リ三十二至ルトキハ、是レ又十五年ナリ、故ニ五經ノ業ニ通シテ、而シテ以テ成シ立ツ、

【注】

有所成立也、

成シ立ツル所有ソ、

【疏】

凡注、無姓名者、皆是何平叔語也、

凡ソ注ニ、姓名無キハ、皆是何平叔力語ナリ、

【經】

四十而不惑、

四十二シテ惑マヒハ不ス、

【疏】

惑疑惑也、業成後已十年、故無所惑也、故孫綽云、四十強而仕、業通十年經明、行修、德成、茂於身、訓治邦家、以之莅政、可以無疑惑也、

惑ハ疑惑ナリ、業成テ後已二十年、故ニ惑フ所無シ、故ニ孫綽カ云ク、四十二シテ強ニシテ仕フ、業通シテ十一年ニシテ經ニ明カニ、行修マリ、徳成ルコト、身ニ茂ナリ、訓治邦家ニ治シ、之ヲ以テ政ニ莅ムトキハ、疑惑無カル可シ、

【注】

孔安國曰、不疑惑也、

孔安國カ曰ク、疑ヒ惑ハ不ルソ、

【經】

五十而知天命、

五十二シテ天ノ命ヲ知ル、

【疏】

天命、謂窮通之分也、謂天爲命者、言、人懷天氣而生、得此窮通、皆由天所命也、天本無言、而云有所命者、假之言也、人年未五十則、猶有橫企無厓、及至五十、始衰則、自審已分之可否也、故王弼云、天命廢興有期、知道終不行也、孫綽云、大易之數五十、天地萬物之理究矣、以知命之年通致命之道、窮學盡數、可以得之、不必皆生而知之也、此勉學之至言也、熊埋云、既了人事之成敗、遂推天命之期運、不以可否繫其治、不以窮通、易其志也、

天人命トハ、窮ト通ノ分ヲ謂ソ、天ヲ謂テ天命ト爲ルコトハ、言ハ、人ハ天ノ氣ヲ懷テ生マル、此ノ窮通ヲ得ル、皆天命スル所ニ由ル、天ハ本言無シ、而ルヲ命スル所有ト云フハ、之ヲ假テ言ナリ、人ノ年未タ五十ナラ未ル則ハ、猶ヲ横ニ企ツルコト厓無キコト有リ、五十二至ルニ及テ、始テ衰ル則ハ、自己カ分ノ可否ヲ審ニス、故ニ王弼カ云ク、天命ノ廢興ハ期有リ、道ノ終ニ行ハレ不ルコトヲ知ル、孫綽カ云ク、大易ノ數五十、天地萬物ノ理究マル、命ヲ知ルノ年ヲ以テ命ニ致ルノ道ニ通ス、學ヲ窮メ數ヲ盡シテ、之ヲ得可シ、必皆一生ニシテ之ヲ知ルニ不、此レハ學ヲ勉ルノ至言ナリ、熊埋カ云ク、既ニ人事ノ成敗ヲ了テ、遂ニ天命ノ

期運ヲ推シテ、可一否ヲ以其ノ一治ニ繫ケ不、窮通ヲ以、其ノ志ヲ易ヘ不、

【注】

孔安國曰、知天命之終始也、

孔安國カ曰ク、天命ノ終始ヲ知ル、

【疏】

終始、即是分限所在也、

終リ始トハ、即チ是レ分限ノ在ル所ナリ、

【經】

六十而耳順、

六十二シテ耳順フ、

【疏】

順、謂不逆也、人年六十、識知廣博、凡厥萬事、不待悉順觀見、但聞其言、即解微旨、是所聞不逆於耳、故曰耳順也、故王弼云、耳順、言心識在聞前也、孫綽云、耳順者、

廢聽之理也、朗然^(二二)玄悟、不復役而後得、所謂、不識不知
從帝之則也、李充云、耳順者、聽先王之法言、則知先王之
德行、從帝之則、莫逆於心、心與耳相從、故曰耳順、

順トハ、逆^{さか}ハ不^きルヲ謂フ、人ノ年^{とし}六^{じゅう}十^{じゅう}ニシテ、識^し知^ち廣^く
博^{たつ}ナリ、凡^{おほ}ソ厥^つレ萬^ま事^じ、悉^{こしごとく}ニ^し順^{したかひ}テ觀^み見^みヲ待^{まち}タ不^す、
但^{ただ}ニ其^{その}ノ言^{ことば}ヲ聞^きテ、即^{すなは}チ微^{こほ}旨^{しめ}ヲ解^とス、是^{こゝ}レ聞^きク所^{ところ}耳^{のみ}ニ逆^{さか}
ハ不^す、故^{ゆゑ}ニ耳^{みみ}順^{したが}フト曰^いフ、故^{ゆゑ}ニ王^{わう}弼^{びつ}カ云^いク、耳^{みみ}順^{したが}ト
ハ、言^{ことば}ハ心^{こゝろ}ノ識^しルコト聞^きク前^{まへ}ニ在^あリ、孫^{そん}綽^{てつ}カ云^いク、耳^{みみ}順^{したが}
トハ、聽^きク廢^やスルノ理^{こと}ナリ、朗^{らう}然^{ぜん}トシテ玄^{げん}悟^ぶシテ、復^{また}タ
役^{やく}シテ而^{して}シテ、後^{のち}ニ得^え不^す、謂^いハ所^{ゆゑ}ル、識^し不^し知^ら不^すシテ帝^{てい}ノ
則^{のり}ニ從^{したが}フ、李^り充^{ちゆう}カ云^いク、耳^{みみ}順^{したが}トハ、先^{まづ}王^{わう}ノ法^{はう}ヲ言^いフ聽^きテ、
則^{すなは}チ先^{まづ}王^{わう}ノ德^{とく}ヲ行^いフ知^ちテ、帝^{てい}ノ則^{のり}ニ從^{したが}フ、心^{こゝろ}ニ逆^{さか}フトコト莫^な
シ、心^{こゝろ}ト耳^{みみ}與^あ相^あ比^ひ、從^{したが}フ、故^{ゆゑ}ニ耳^{みみ}順^{したが}ト曰^いフ、

【注】

鄭玄曰、耳順、聞其言、而知其微旨、

鄭玄カ曰ク、耳順トハ、其ノ言ヲ聞テ、其ノ微旨ヲ知
ルソ、

【經】

七十、而從心所欲、不踰矩、

七十二シテ、心ノ欲スル所ニ從ヘトモ、矩ヲ踰ヘ不^す、

【疏】

從猶放也、踰越也、矩法也、年至七十、習與性成、猶蓬生
麻中、不扶自直、故雖復放縱心意、而不踰越於法度也、所
以不謂八十者、孔子唯壽七十三也、說此語之時、當在七
十後也、李充云、聖人微妙玄通、深不可識、所以接世軌
物者、曷嘗不誘之以形器乎、黜獨化之迹、同盈虛之質、
勉夫童蒙、而志乎學、學十五載、功可與立、自志學、迄
于縱心、善始令終、貴不踰法、示之易行、而約之以禮、
爲教之例、其在茲矣、

從ハ放（放）ノ猶シ、踰ハ越、矩ハ法、年七十二至
テ、習^{なまひ}テ性^{かういふ}與^と成^{なり}ル、蓬^{よのつから}ノ麻^{オナ}中^{ちゆう}ニ生^なシテ、扶^{たす}ケ不^しレトモ
自^{みづか}直^{ちゆう}キカ猶^{なほ}シ、故^{ゆゑ}ニ復^{また}心^{こゝろ}意^いヲ放^{はな}シ縱^{しゆう}ニスト雖^{いへども}、而^{しかれ}
トモ法^{はう}ニ度^たニ踰^こ越^えセ不^ス、八^{はち}十^{じゅう}ヲ謂^いハ不^しル所以^{ゆゑ}ハ、孔子唯
夕^た壽^{じゆう}七^{しち}十^{じゅう}三^{さん}ナリ、此^{こゝ}ノ語^ごヲ說^{せつ}クノ時^{とき}ハ、當^{まさ}ニ七^{しち}十^{じゅう}ノ後^{のち}
ニ在^あヘシ、李^り充^{ちゆう}カ云^いク、聖^{せい}人^{にん}ハ微^み妙^{めう}玄^{げん}通^{つう}ニシテ、深^{ふか}シ

テ識ル可^レラ不^ス、世ニ接^マハリ物ニ軌^ノタル所^リ以^テハ、曷^ナソ^レ嘗^カテ
之ヲ誘^ミクニ形^ノ器ヲ以^テセ不^シンヤ、獨^リ化^シノ迹^ヲ黜^ケ、
盈^ニ虚^ノ質^ニ同^シフシテ、夫^ノ童蒙^ヲ勉^メシメテ、而^シテ
學^ニ志^ヲサシム、學^{コト}十^一載^ニシテ、功^與ニ立^ツ可^ク
シ、學^ニ志^ス自^リ、心ヲ縱^ニスルニ迄^ヲマテ、始^メ善^ク
クシ終^ヲ令^クシテ、法ヲ踰^ヘ不^{コト}トヲ貴^フ、之^ニ示^スニ
行^ヒ易^キヲモテシ、之ヲ約^カニスルニ禮^ヲ以^テス、教^ヲ
ヘヲ爲^スノ例、其^レ茲^ニ在^ルルカ、

【注】

馬融曰、矩法也、從心所欲、無非法者、

馬融カ曰ク、矩ハ法、心ノ欲スル所ニ從ヘトモ、非^レ法無^ソ、

- (一) 「也」下、武内本有「矣」字。
- (二) 「徳成、茂於身」、武内本作「徳茂成於身」。
- (三) 「不」、武内本無此字。
- (四) 「懷」、武内本作「稟」。
- (五) 「云」、武内本作「曰」。
- (六) 「云」、武内本作「曰」。
- (七) 「云」、武内本作「曰」。

(八) 「治」上、武内本有「理」字。

(九) 「知」、武内本作「智」。

(一〇) 「待」、武内本作「得」。

(一一) 「云」、武内本作「曰」。

(一二) 「玄」上、武内本有「自」字。

(一三) 「旨」下、武内本有「也」字。

(一四) 「謂」、武内本作「説」。

(一五) 「云」、武内本作「曰」。

(一六) 「迹」、武内本作「跡」。

(一七) 「自」上、武内本有「爰」字。

(一八) 「縱」、武内本作「從」。

【經】

子孟懿子問孝、

子孟懿子孝ヲ問フ、

【疏】

子孟懿子、魯大夫也、問孝、問於孔子爲孝之法也、

孟懿子ハ、魯ノ大夫ナリ、孝ヲ問フトハ、孔子ニ孝ヲ爲ル
ノ法ヲ問フ、

【注】

孔安國曰、魯大夫仲孫何忌也、

孔安國カ曰ク、魯ノ大夫仲孫何忌ナリ、

【疏】

仲孫是氏也、何忌是名也、然曰孟懿子、而不云仲孫者、魯有三卿、至八釋自釋也、

仲孫ハ是レ氏ナリ、何忌ハ是レ名ナリ、然シテ(然ルニ)孟懿子ト曰テ、仲孫ト云ハ不レルコトハ、魯二三一卿有リ、八一併ニ至テ自レ釋ス、

【注】

懿諡也、

懿ハ一諡ソ、

【疏】

諡者、明行之迹也、生時、有百行之不同、死後至葬、隨其生時德行之迹也、而爲名稱、猶如經緯天地曰文、撥定禍亂曰武、之屬也、

諡トハ、行ノ跡ヲ明ス、生ケル時ニ、百一行ノ同カラ不レル有リ、死シテ後ニ葬ルニ至テハ、其ノ生ケル時ノ徳一行ノ迹ニ隨テ、而シテ名一稱ヲ爲ス、猶シ天一地ヲ經一緯スルヲ文曰ヒ、禍一亂ヲ撥イレ定ムルヲ武ト曰フノ、屬ノ如シ、

【經】

子曰、無違、

子ノ曰ク、違レコト無レシ、

【疏】

孔子答也、言行孝者、每事、須從無所違逆也、

孔子ノ答ナリ、言ハ孝ヲ行フコトハ、事每ニ、須ク從フヘシ。違レ逆スルコト所無レシ、

【經】

樊遲御、

樊遲御レタリ、

【疏】
樊遲孔子弟子樊須也、字子遲、御御車也、謂樊遲時爲孔子御車也、

樊遲ハ孔子ノ弟子樊須ス、字ハ子遲、御ハ御車ナリ、謂ル樊遲時ニ孔子ノ御車ヲ爲リ、

【經】
子告之曰、孟孫問孝於我、我對曰無違、

子告ツテ曰ク、孟孫孝ヲ我ニ問フ、我對ヘテ曰フツ違コト無レ、

【疏】
孟孫即懿子也、孔子前答懿子之問云、無違、恐懿子不解、而他日樊遲爲孔子御、孔子欲使樊遲爲孟孫解無違之旨、故語樊遲云、孟孫問孝於我、我對曰、無違也、

孟孫ハ即チ懿子ナリ、孔子前ニ懿子カ問ニ答テ云ク、違フコト無レト、懿子カ解セ不ランコトヲ恐ル、而シテ他日ニ樊遲孔子ノ御爲リ、孔子樊遲ヲ使テ孟孫カ爲ニ違フコト無レトイフノ旨ヲ解セ使メマク欲、故ニ樊遲ニ語

テ云ク、孟孫孝ヲ我ニ問フ、我對ヘテ曰フツ、違コト無レト、

【注】
鄭玄曰、孟孫不曉無違之意、將問於樊遲故告之也、樊遲弟子樊須也、

鄭玄カ曰ク、孟孫違コト無キノ意ヲ曉ラ不、將ニ樊遲ニ問ハント將。故ニ之ニ告ク、樊遲ハ弟子樊須ス、

【經】
樊遲曰、何謂也、

樊遲カ曰ク、何ト謂フコトソヤ、

【疏】
樊遲亦不曉無違之旨、故反問之、何謂也、

樊遲モ亦違コト無ノ旨ヲ曉ラ不、故ニ反テ問フ、何ト謂フコトソヤ、

【經】

子曰、生、事之以禮、死、葬之以禮、祭之以禮、

子ノ曰ク、生ケルトキハ、之ニ事ルニ禮ヲ以テス、死スルトキハ、之ヲ葬ルニ禮ヲ以テス、祭ルトキハ禮ヲ以テス、

【疏】

向樊遲釋無違旨也、孟孫三家、僭濫違禮、故孔子以每事須禮、爲答也、此三事、爲人子之大禮、故特舉之也、故衛瓘云、三家僭侈、皆不以禮也、故以禮、答之也、或問曰、孔子何不即告孟孫、乃還告樊遲耶、答曰、欲勵於孟孫、言其人不足委曲即亦示也、所以獨告樊遲者、舊說云、樊遲與孟孫親狎、必問之也、一曰、孟孫問時樊遲在側、孔子知孟孫不曉、後必問樊遲、故後遲御時、而告遲也、

樊遲ニ向テ遲フコト無レトイフノ旨ヲ釋ス、孟孫ハニ三家ナリ、僭濫ニシテ禮ニ違ス、故ニ孔子事毎ニ禮ヲ須フルヲ以テ、答ト爲、此ノ三事ハ、人ノ子爲ルノ大禮ナリ、故ニ特ニ之ヲ擧ク、故ニ衛瓘カ云ク、三家僭侈(修)ニシテ、皆禮ヲ以セ不、故ニ禮ヲ以、之ニ答フ、或ヒト問テ曰ク、孔子何ソ即孟孫ニ告ケ不シテ、乃チ還

テ樊遲ニ告ルヤ、答テ曰ク、孟孫ヲ勵マサント欲ス、言ハ其ノ人委曲ニ(委曲ニシテ)即チ亦タ示スニ足ラ不、獨リ樊遲ニ告ル所以ハ、舊說ニ云ク、樊遲孟孫與親狎(狎)ス、必ス之ニ問ハン、一ニ曰ク、孟孫問フ時ニ樊遲側ニ在リ、孔子孟孫曉ラ不シテ、後ニ必ス樊遲ニ問シコトヲ知レリ、故ニ後遲御タル時ニシテ、遲ニ告ク、

- (一) 「迹」、武内本作「跡」。
- (二) 「迹」、武内本作「跡」。
- (三) 「也」、武内本無此字。
- (四) 「御」下、武内本有「車」字。
- (五) 「云」、武内本作「曰」。
- (六) 「曰」、武内本作「云」。

【經】

孟武伯問孝、

孟武伯孝ヲ問フ、

【疏】孟武伯懿子之子也、亦問孔子行孝之法也、

孟武伯ハ懿子カ子ナリ、亦タ孔子ニ孝ヲ行フノ法ヲ問フ、

【經】子曰、父母、唯其疾之憂、

子ノ曰ク、父^{のち}母ニハ、唯^ひタ^ひ其^の疾^をノ憂^ふヲノミセシメヨ、

【疏】答也、其人子也、言人子、欲常敬慎自居不爲非法橫使父母憂也、若己身有疾、唯此一條非人所及、可測尊者憂耳、唯其疾之憂也、

答ナリ、其レトハ人ノ子ニ其レソ、言ハ人ノ子ハ、常ニ敬慎シテ自^{ミツカ}居シテ非^な法ヲ爲シテ横ニ父^よ母ヲ使テ憂^{うれ}ヘ使メ不^さラマク欲ス、若シ己カ身ニ疾有^あラハ、唯^たタ此ノ一^シ條ハ人ノ及^あラズ非、尊者ノ憂^{うれ}ヲ測^はカ^ル可^きキ耳、唯^たタ其^の疾^をノ憂^ふヲノミセシメヨ、

【注】馬融曰、武伯懿子之子、仲孫儀也、武諡也、言孝子不妄爲非、唯有疾病、然後、使父母之憂耳也、

馬融カ曰ク、武伯ハ懿子カ子、仲孫儀ソ、武ハ諡、言ハ孝子ハ妄ニ非^スヲ爲^ス不、唯^た疾^を病有^あルトキニシテ、然^ちシテ後ニ、父^{のち}母ヲ使^シテ憂^ふヘ使^スル耳、

- (一) 「子」下、武内本有「也」字。
- (二) 「也」、武内本無此字。

【經】子游問孝、

子游孝ヲ問フ、

【疏】亦問行孝法也、

亦孝ヲ行フノ法ヲ問フ、

【注】

孔安國曰、子游弟子也、^(一) 姓言、名偃也、

孔安國カ曰ク、子游ハ弟子、姓ハ言、名ハ偃、

【經】

子曰、今之孝者、是謂能養、

子ノ曰ク、今ノ孝ハ、是レ能ク「養」フヲ謂フ、

【疏】

答也、今之、謂當孔子時也、夫孝爲體、以敬爲先、以養爲後、而當時皆多不孝、縱或一人、有唯知進於飲食、不知行敬、故云、今之孝者、是謂能養也、^(二)

答ナリ、今トハ、孔子ノ時ニ當ルヲ謂フ、夫レ孝ノ體爲ルコト、敬ヲ以テ先ト爲、養ヲ以テ後ト爲、而ルヲ當時皆不孝多シ、縱ヒ或ハ一人、唯タ飲食ヲ進ムルコトヲ知有ルモ、敬ヲ行フコトヲ知ラ不、故ニ云ク、今ノ孝ハ、是レ能ク「養」フヲ謂フト、

【經】

至於犬馬、皆能有養、

犬馬ニ至ルマテ、皆「能」ク養フコト有リ、

【疏】

此、舉能養無敬、非孝之例也、犬能爲人守禦、馬能爲人、負重載人、皆是能養、而不能行敬者、故云、至於犬馬、皆能有養也、^(三)

此レハ、養ヲ能クスレトモ敬無キトキハ、孝ニ非ルノ例ヲ舉ク、犬ハ能ク人ノ爲ニ守リ「禦」キ、馬ハ能ク人ノ爲ニ、重キヲ負ヒ人ヲ載ス、皆是レ能ク養テ、敬ヲ行フコト能ハ不ル者ナリ、故ニ云ク、犬馬ニ至ルマテ、皆「能」ク養フコト有リト、

【經】

不敬、何以別乎、

敬セ不シハ、何ヲ以テカ別カンヤ、

【疏】

言、犬馬者、亦養人、但不知爲敬耳、人若、但知養、而不敬則、與犬馬、何以爲殊別乎、

言ハ、犬一馬ハ、亦タ人ヲ養ヘトモ、但ニ敬ヲ爲スコトヲ知ラ不_レル耳、人若シ、但ニ養_{コト}ヲ知テ、敬セ不_レル則ハ、犬一馬與、何ヲ以_テカ殊_レ別ヲ爲シヤ、

【注】

荀氏曰、犬以守禦、馬以代勞、能養人者也、

荀氏カ曰ク、犬ハ守リ禦クヲ以シ、馬ハ勞ニ代ワルヲ以テ、能ク人ヲ養フ者ナリ、

【疏】

唯不知敬、與人爲別耳、

唯_ニ敬ヲ知ラ不_レコト、人與_ト別ナリト爲ル耳、

【注】

一曰、人之所養、乃能至於犬馬、

一ニ曰ク、人ノ養フ所、乃シ能ク犬一馬ニ至ル、

【疏】

此釋與前異也、言人所養、乃至養於犬馬也、

此ノ釋ハ前與_ト異ナリ、言ハ人ノ養フ所、乃シ犬一馬ヲ養フニ至ル、

【注】

不敬則、無以別、

敬セ不_レシハ、以テ別_ツコト無_クケン、

【疏】

養犬馬則、不須敬、若養親、而不敬則、與養犬馬、不殊別也、

犬一馬ヲ養フ則ハ、敬ヲ須_イ不_ス、若シ親ヲ養テ、敬セ不_レル則ハ、犬一馬ヲ養フ與、殊_レ別セ不_ス、

【注】

孟子曰、養而不愛、豕畜之也、

孟子ニ曰ク、養テ愛セ不ルハ、豕^{イノコ}畜^カフナリ、

【疏】

引孟子語、證後通也、言人畜養豕、但以食^四之、而不愛重之也、

孟子ノ語ヲ引テ、後ノ通ヲ證ス、言ハ人豕ヲ畜^{イノコ}養^{キク}スルニ(畜^カイ養フ)、但食^{タシ}ヲ以テスレトモ、之レヲ愛^カ重^{キク}セ不^ス、

【注】

愛而、不敬、獸畜之也、

愛シテ、敬セ不ルハ、獸^{ケモノ}畜^カフナリ、

【疏】

又言、人養珍禽奇獸、亦愛重之、而不恭敬之也、

又^マタ言^{イハ}ク、人珍^{イハ}禽奇^{イハ}獸^{イハ}ヲ養^{ヤシ}テ、亦^モ之^ノレヲ愛^カ重^{キク}スレトモ、而^{シテ}トモ之^ノレヲ恭^{イハ}敬^{イハ}セ不^ス、

(一) 「也」、武内本無此字。

(二) 「也」、武内本無此字。

(三) 「於」、武内本無此字。

(四) 「食」、武内本作「養」字。

【經】

子貢問孝、

子貢^コ問^カフ、

【疏】

亦問行孝法也、

亦孝ヲ行フノ法ヲ問フ、

【經】

子曰、色難、

子^ノ曰^ク、色^ノ難^シ、

【疏】

答也、色、謂父母顏色也、言爲孝之道、必須承奉父母顏色、此事爲難、故曰色難也、故顏延之云、夫氣色和則、情志通、善養親之志者、必先和其色、故曰難也、

答ナリ、色トハ、父ノ母ノ顔色ヲ謂フ、言ハ孝爲ルノ道、
必ス須ク父ノ母ノ顔色ヲ承ケ奉ク須シ、此ノ事難シト
爲、故ニ曰ク色難シト、故ニ顏延之カ云ク、夫レ氣色
和スル則ハ、情志通ス、善ク親ノ志ヲ養フ者ハ、必ス先
ツ其ノ色ヲ和ス、故ニ難ト曰フ、

【注】

苞氏曰、色難、謂承望父母顏色、乃爲難也、

苞氏カ曰ク、色難シトハ、父ノ母ノ顔色ニ承ケ望ムヲ、
乃シ難シト爲ト謂フ、

【經】

有事、弟子服其勞、

事有ルトキハ、弟子其ノ勞ニ服ク、

【疏】

此以下、是易、而非孝子之事也、有事、謂役使之事也、弟
子、謂爲人子弟者也、子弟服、謂執持也、勞勞苦也、言家
中有役使之事、而弟子自執持、不憚於勞苦也、

此レヨリ以下ハ、是レ易シテ、孝子ノ事ニ非、事有ト
ハ、役使ノ事ヲ謂フ、弟子トハ、人ノ子弟ヲ爲ル者ヲ謂
フ、子弟服スルトハ、執持スルヲ謂フ、勞ハ勞苦ナリ、
言ハ家中ニ役使ノ事有ルトキハ、弟子自執持シテ、
勞苦ヲ憚ラ不、

【經】

有酒食、先生饌、

酒食有ルトキハ、先生饌ス、

【疏】

先生、謂父兄也、饌猶飲食也、言若有酒食則、弟子不敢飲
食、必以、供飲食於父母也、

先生トハ、父兄ヲ謂フ、饌ハ飲食ノ猶シ、言ハ若シ酒
食有ル則ハ、弟子敢テ飲食セ不、必以テ、飲食ヲ
父ノ母ニ供ス、

【注】

馬融曰、先生、謂父兄也、饌飲食也、

馬融カ曰ク、先_一生トハ、父_一兄ヲ謂フ、饌ハ飲_一食_一ソ、

【疏】

然、禮唯呼師爲先生、謂資爲弟子、此言弟子、以對先生則、似非子弟對父兄也、而注必謂先生、爲父兄者、其有二意焉、一則、既云問孝、孝是事親之目、二則、既釋先生、爲父兄、欲寄在三事同、師親情等等、

然ルニ、禮ニ唯夕師ヲ呼テ先_一生ト爲、資ヲ謂テ弟_一子ト爲、此二弟_一子ヲ言テ、先_一生ニ對スル則ハ、子_一弟ヲ父_一兄ニ對スルニ非ルニ似、而ルヲ注ニ必_一先_一生ヲ謂テ、父_一兄ト爲ルコトハ、其レニ_一意有リ、一ニハ則チ、既ニ孝ヲ問フト云フ、孝ハ是レ親ニ_一事ルノ目ナリ、二ニハ則チ、既ニ先_一生ヲ釋シテ、父_一兄ト爲ルコトハ、三ニ在テ事_一同シ、師_一親ノ情等シキコトヲ寄ント欲、

【經】

曾是以、爲孝乎、

曾_{ナシ}（曾_{ムカシ}）（曾_チ）是レヲ以テ、孝ト爲レ乎、

【疏】

曾猶嘗也、言爲人子弟、先勞後食、此乃是人子、人弟之常事、最易事耳、誰嘗謂此孝乎、言非孝也、故江熙稱、或曰、勞役居前、酒食處後、人子之常事、未足稱孝也、

曾_{ムカシ}（曾_チ）ハ嘗ノ猶シ、言ハ人ノ子_一弟ト爲、勞_一先_一シ食_一ヲ後ニス、此レ乃チ是レ人ノ子、人ノ弟ノ常ノ事ナリ、最モ事_{コト}易キ耳、誰カ嘗テ（嘗）此ヲ謂テ孝トセンヤ、言ハ孝ニ非、故ニ江熙カ稱ク、或ヒトノ曰ク、勞役ハ前ニ居リ、酒_一食_一ハ後ニ處ルコトハ、人ノ子ノ常ノ事ナリ、孝ト稱スルニ足未ト、

【注】

馬融曰、孔子噓子夏曰、服勞先食、汝謂此爲孝乎、未足爲孝也、承順父母顏色、乃是爲孝耳也、

馬融カ曰ク、孔子子夏ニ噓シテ曰ク、勞_ニ服_キ食_ヲ先_{ニス}ル、汝_ニ此_ヲ謂_テ孝_ト爲_ル乎、孝_ト爲_ルニ足未_ト、父_一母ノ顔_一色_一ニ承_ケ順_フヲ、乃_シ是_レ孝_ト爲_ル耳、

【疏】

此四人、問孝是同、而夫子答異者、或隨疾與藥、或寄人弘

教、也、懿子武伯、皆明其人有失、故隨其失而答之、子游子夏、是寄二子、以相明教也、故王弼云、問同而答異者、或攻其短、或矯其時失、或成其志、或說其行、又沈皓云、夫應教紛紜、常係汲引、經營流世、每存急疾、今世萬途、難以同對、互舉一事、以訓來問、來問之訓、縱橫異轍則、孝道之廣、亦以明矣、

此ノ四人、孝ヲ問コト是レ同シ、而ルニ夫一子ノ答異ナルコトハ、或ハ疾ニ隨テ藥ヲ與ヘ、或ハ人ニ寄セテ教ヲ弘ム、懿子武伯ハ、皆其ノ人失有ルコトヲ明ス、故ニ其ノ失ニ隨テ之ニ答フ、子游子夏ハ、是レ二子ニ寄セテ、以テ教ヲ相イ明ス、故ニ王弼カ云ク、問同シテ答異ナルコトハ、或ハ其ノ短ヲ攻メ、或ハ其ノ時ノ失ヲ矯シ、或ハ其ノ志ヲ成シ、或ハ其ノ行ヲ説ク、又沈皓カ云ク、夫レ教ニ應スルコト紛紜タリ、常ニ汲引ニ係ク、流世ヲ經營シテ、毎ニ急疾ヲ存ス、今ノ世萬途ナリ、以テ同ク對ヘ難シ、互ニ一事ヲ舉テ、以テ來問ヲ訓ス、來問ノ訓、縱横ニシテ轍ヲ異ニスル則ハ、孝道ノ廣キコト、亦以明ケシ、

- (一) 「貢」、武内本作「夏」字。
- (二) 「事」下、武内本有「也」字。

- (三) 「事」、武内本作「處」。
- (四) 「孝」上、武内本有「爲」字。
- (五) 「相」、武内本無此字。
- (六) 「云」、武内本作「曰」。
- (七) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

子曰、吾與回言、終日不違、如愚、
子ノ曰ク、吾回與言コト、終日ニ違ハ不、愚ナルカ如シ、

【疏】

此章、美顔淵之德也、回者顔淵名也、愚者、不達之稱也、自形器以上、名之爲無、聖人所體也、自形器以還、名之爲有、賢人所體也、今孔子終日所言、即入於形器、故顔子聞而即解、無所諮問、故不起發我道、故言、終日不違也、一往觀回、終日默識不問、殊似於愚魯、故云如愚也、

此ノ章ニハ、顔淵カ德ヲ美ム、回ハ顔淵カ名ナリ、愚、不達ノ稱ナリ、形器自リ以上、之ヲ名ツケテ無ト爲、聖人ノ體スル所ナリ、形器自リ以還、之ヲ名ケテ有ト

爲、賢一人ノ體スル所ナリ、今孔子終日ニ言フ所、即形器ニ入ル、故ニ顔子聞テ即チ解テ、諮(諮)問スル所無シ、故ニ我カ道ヲ起シ發セ不、故ニ言ク、終日ニ違ハ不ト、一往回ヲ觀ルニ、終日ニ(終日ニ)默識シテ問ハ不、殊ニ愚魯ニ似タリ、故ニ愚ナルカ如シト云フ、

【注】

孔安國曰、回弟子也、姓顔、名回、字子淵、魯人也、不違者、無所怪問於孔子之言、默而識之、如愚者也、

孔安國カ曰ク、回ハ弟子、姓ハ顔、名ハ回、字ハ子淵、魯人ナリ、違ハ不トハ、孔子ノ言ヲ怪シミ、問フ所無キノ、默シテ之ヲ識ル、愚ナルカ如シ、

【疏】

諸弟子不解、故時或諮問、而顔回默識、故不問、不問、如愚者之不能問也、故繆播云、將言形器、形器顔生所體、莫逆於心、故若愚也、

諸弟子ハ解ラ不、故ニ時ニ或ハ諮問ス、顔回ハ默識ス、故ニ問ハ不、問ハ不ルコトハ、愚者ノ問フコト能ハ不ルカ如シ、故ニ繆播カ云ク、將ニ形器ヲ言フ、形器ハ

顔生カ體スル所ナリ、心ニ逆フコト莫シ、故ニ愚ナルカ若シ、

【經】

退而省其私、亦足以發、回也不愚也、

退テ其ノ私ヲ省ミルニ、亦タ以テ發スルニ足レリ、回愚ナラ不、

【疏】

退、謂回聽受已竟、退還其私房時也、省視也、其私、謂顏私與諸朋友、談論也、發發明義理也、言回就人衆講說、見回不問、如似愚人、今觀回退還私房、與諸子、覆述前義、亦足發明義理之大體、故方知回之不愚也、

退トハ、回聽受スルコト已ニ竟テ、其ノ私ノ房ニ退キ還ル時ヲ謂フ、省ハ視、其ノ私トハ、顔カ私ニ諸朋友與、談論スルヲ謂フ、發ハ義理ヲ發明スルナリ、言ハ回人衆ニ就テ講說ス、回カ問ハ不ルヲ見レハ、愚人ノ如シ、今回私ノ房ニ退キ還テ、諸子與、前ノ義ヲ覆述スルヲ觀レハ、亦義理ノ大體ヲ發明スルニ足レリ、故ニ方ニ回カ愚ナラ不ルヲ知ル、

【注】

孔安國曰、察其退還、與二三子、說釋道義、發明大體、知其不愚也、

孔安國カ曰ク、其ノ退キ還テ、二三子與、道義ヲ説キ釋クヲ察スルニ、大體ヲ發明ス、其ノ愚ナラ不ルコトヲ知ル、

【疏】

熊埋云、退察與二三子、私論、亦足以發明聖奧、振起風訓也、回之似愚、而豈愚哉、既以美顔、又曉衆人未達者也、

熊埋カ云ク、退テ二三子與、私ニ論スルヲ察スルニ、亦以テ聖奧ヲ發明シテ、風訓ヲ振起スルニ足レリ、回愚ニ似テ、豈愚ナランヤ、既以顔ヲ美メテ、又衆人未達ノ者ヲ曉ス、

- (一) 「子」、武内本無此字。
- (二) 「云」、武内本作「曰」。
- (三) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

子曰視其所以、

子ノ曰ク其ノ以ユルヲ所ヲ視、

【疏】

此章、明觀知於人之法也、以用也、其其彼人也、若欲知彼人行、當先視其即日所行用之事也、

此ノ章ニハ、人ヲ觀知スルノ法ヲ明ス、以ハ用、其レトハ彼ノ人ニ其レソ、若シ彼ノ人ノ行ヲ知ラント欲セハ、當ニ先ツ即日行ヒ用ル所ノ事ヲ視ル當シ、

【注】

以用也、言視其所行用也、

以ハ用、言ハ其ノ行ヒ用フル所ヲ視ル、

【經】

觀其所由、

由フル所ヲ觀、

【疏】又次、觀彼從來所經歷處之故事也、

又次ニ、彼ノ從_レ來_レ經_レ歷_レスル所ノ處ノ故_レ事ヲ觀ル、

【注】由_レ經_レ也、言_レ觀其所_レ經_レ從_レ也、

由_レハ經_レ、言_レハ其ノ經_レ從_レフ所ヲ觀ル、

【經】察其所_レ安、

其ノ安_レン_レスル所ヲ察_レスルトキハ、

【疏】察、謂_レ心懷_レ忖_レ測_レ之_レ也、安_レ謂_レ意氣_レ歸_レ向_レ之_レ也、言_レ、雖_レ或_レ外_レ迹_レ有_レ所_レ避_レ、而_レ不_レ得_レ行_レ用_レ、而_レ心_レ中_レ猶_レ趣_レ向_レ安_レ定_レ、見_レ於_レ形_レ者_レ、當_レ審_レ察_レ、以_レ知_レ之_レ也、然_レ在_レ用_レ言_レ視_レ、由_レ言_レ觀_レ、安_レ言_レ察_レ者_レ、各_レ有_レ以_レ也、視_レ直_レ視_レ也、觀_レ廣_レ瞻_レ也、察_レ沈_レ吟_レ用_レ心_レ、忖_レ度_レ之_レ也、即_レ日_レ所_レ用_レ、易_レ見_レ、故_レ云_レ視_レ、而_レ從_レ來_レ經_レ歷_レ處_レ、此_レ爲_レ難_レ、故_レ言_レ觀_レ、情_レ性_レ所_レ安_レ、最_レ爲_レ深_レ隱_レ、故_レ云_レ察_レ也、

察_レストハ、心_レ懷_レニ_レ之_レレヲ_レ忖_レリ_レ測_レルヲ_レ謂_レフ、安_レストハ意_レ氣_レノ_レ歸_レ向_レスルヲ_レ謂_レフ、言_レハ、或_レハ外_レ迹_レ避_レクル所_レ有_レテ、行_レヒ_レ用_レルコトヲ_レ得_レ不_レト_レ雖_レ、而_レト_レモ心_レ中_レ猶_レヲ_レ趣_レ向_レ安_レ定_レスルコト、形_レニ_レ見_レルル者_レナリ、當_レニ_レ審_レニ_レ察_レシテ、以_レテ_レ之_レヲ_レ知_レル當_レシ、然_レルニ_レ用_レルニ_レ在_レテハ_レ視_レト_レ言_レヒ、由_レニ_レハ_レ觀_レト_レ言_レヒ、安_レニ_レハ_レ察_レト_レ言_レフコトハ、各_レ以_レ有_レリ、視_レハ_レ直_レニ_レ視_レナリ、觀_レハ_レ廣_レク_レ瞻_レルナリ、察_レハ_レ沈_レ吟_レシテ_レ心_レヲ_レ用_レテ、之_レレヲ_レ忖_レリ_レ度_レルナリ、即_レ日_レニ_レ用_レル所_レハ、見_レ易_レシ、故_レニ_レ視_レト_レ云_レフ、而_レシテ_レ從_レ來_レ經_レ歷_レスル處_レハ、此_レ難_レシト_レ爲_レ、故_レニ_レ觀_レト_レ言_レフ、情_レ性_レノ_レ安_レスル所_レハ、最_レモ_レ深_レ隱_レナリト_レ爲_レ、故_レニ_レ察_レト_レ云_レフ、

【經】人_レヲ_レ度_レ哉、人_レヲ_レ度_レ哉、

人_レヲ_レ度_レサメ_レ哉、人_レヲ_レ度_レサメ_レ哉、

【疏】焉_レ安_レ也、度_レ匿_レ也、言_レ用上_レ三_レ法_レ、以_レ觀_レ驗_レ彼_レ人_レ之_レ德_レ行_レ則_レ、在_レ理_レ必_レ盡_レ、故_レ彼_レ人_レ、安_レ得_レ藏_レ匿_レ其_レ情_レ耶、再_レ言_レ之_レ者_レ、深_レ明_レ人_レ情_レ不_レ可_レ隱_レ也、故_レ江_レ熙_レ云_レ、言_レ人_レ誠_レ難_レ知_レ、以_レ三_レ者_レ取_レ之_レ、近_レ可_レ識_レ也、

焉ハ安ナリ、瘦ハ匿ナリ、言ハ上ノ三法ヲ用テ、彼ノ人ノ德ヲ行ヲ觀驗スル則ハ、理必ス盡クスニ在リ、故ニ彼ノ人ノ、安ソ其ノ情ヲ藏シ、匿スコトヲ得ンヤ、再ヒ之ヲ言フコトハ、深ク人ノ情ノ隱ス可^ヘ不^レコトヲ明ス、故ニ江熙カ云ク、言ハ人誠ニ知リ難シ、三ノ者ヲ以テ之ヲ取ラハ、識ル可キニ近シ、

【注】

孔安國曰、瘦匿也、言觀人之終始、安有所匿其情也、

孔安國カ曰ク、瘦ハ匿、言ハ人ノ終リ始ヲ觀ルトキハ、安ソ其ノ情ヲ匿ス所有ラン、

- (一) 「又」上、武内本有「由者經歷也」五字。
- (二) 「形」、武内本作「貌」。
- (三) 「此」下、武内本有「即」字。
- (四) 「耶」、武内本作「邪」。
- (五) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

子曰、温故而知新、可以爲師矣、

子曰ク、故キヲ温ネ新シキヲ知ルヲハ、以テ師ト爲可シ、

【疏】

此章、明爲師之難也、温温燁也、故謂所學已得之事也、所學已得者、則温燁之、不使忘失、此是月無忘其所能也、新、謂即時所學新得者也、知新、謂日知其所亡也、若學能、日知所亡、月無忘所能、此乃可爲人師也、孫綽云、滯故則、不能明新、希新則、存故不篤、常人情也、唯心平秉一者、守故彌温、造新必通、斯可以爲師者也、

此ノ章ニハ、師爲ルコトノ難コトヲ明ス、温ハ温燁燁(燁)ナリ、故トハ學テ已ニ得ル所ノ事ヲ謂フ、學テ已ニ得ル所ノ者、之ヲ温燁シテ、忘^レ失^セ使^ス不^レ、此レハ是レ月ニ其ノ能クスル所ヲ忘ルルコト無キナリ、新トハ、即時ニ學フ所新ニ得ル者ヲ謂フ、新シキヲ知ルトハ、日ニ其ノ亡キ所ヲ知ルヲ謂フ、若シ學テ能ク、日ニ亡キ所ヲ知り、月ニ能クスル所ヲ忘ルルコト無キハ、此レ乃チ人ノ師爲ル可キナリ、孫綽カ云ク、故ニ滯ル則ハ、新ニ明ナルコト能ハ不^レ、新ヲ希フ則ハ、故ヲ存スルコト篤カラ不^レルハ、常ノ人ノ情ナリ、唯タ心平シク一ヲ秉ル者ハ、故ヲ守ルコト彌^レ温ネ、新ニ造ルコト必

ス通ス、斯レ師ト爲可キ者ナリ、

【注】

温尋也、尋繹故者、又知新者、可以爲師也、

温ハ尋、故キ者ヲ尋繹シテ、又新シキ者ヲ知ル、
師ト爲可シ、

【疏】

温是、尋繹之義、亦是、燂煖之義也、

温ハ是レ、尋繹ノ義、亦是レ、燂煖ノ義ナリ、

(一) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

子曰、君子不器、

子ノ曰ク、君一子ハ器ナラ不、

【疏】

此章、明君子之人、不係守一業也、器者給用之物也、猶如

舟可汎於海、不可登山、車可陸行、不可濟海、君子當才業
周普、不得如器之守一也、故熊埋云、器以名、可繫其用、
賢以才可濟其業、業無常分、故不守一名、用有定施、故舟
車殊功也、

此ノ章ニハ、君一子ノ人ノ、一業ヲ係ケ守ラ不ルコトヲ
明ス、器ハ用ニ給スル物ナリ、猶シ舟ノ海ニ汎フ可クシ
テ、山ニ登ル可ラ不、車ノ陸一行ス可クシテ、海ヲ濟ル可
ラ不ルカ如シ、君一子ハ才業ニ當ルコト周普ナリ、器ノ
一ヲ守ルカ如クナルコトヲ得不、故ニ熊埋カ云ク、器ハ名
ヲ以、其ノ用ニ繫ク可シ、賢ハ才ヲ以其ノ業ヲ濟ス可シ、
業常ノ分無シ、故ニ一ノ名ヲ守ラ不、用定リ施スコト有
リ、故ニ舟一車功ヲ殊ニス、

【注】

苞氏曰、器者、各周其用、至於君子、無所不施也、

苞氏カ曰ク、器ハ、各其ノ用ニ周シ、君一子ニ至テハ、
施サ不トイフ所無シ、

(一) 「可」、武内本無此字。

(二) 「云」、武内本作「曰」。

(三) 「不」下、武内本有「可」字。

【經】

子貢問君子、

子貢君_レ子ヲ問フ、

【疏】

問、施何德行、而可謂爲君子乎、

問フ、何ノ德_レ行ヲ施_ハテカ、謂テ君子ト爲可シト、

【經】

子曰、先行其言、而後從之、

子ノ曰ク、先ツ其ノ言_ヲ行テ、而シテ後ニ之レニ從フ、

【疏】

答云、君子、先有其言、而後必行、行以副所言、是行從言也、若言而不行則、爲辭費、君子所恥也、

答テ云ク、君_レ子ハ、先ツ其ノ言_ヲ有リテ、而シテ後ニ

必ス_レ行フ、行ヲ_レ以テ言フ所ニ副フ(所ヲ副ク)、是レ行言ニ從フナリ、若シ言テ行ハ_ル則ハ、辭ノ費ト爲、君_レ子恥ツル所ナリ、

【注】

孔安國曰、疾小人多言、而行之不周也、

孔安國カ曰ク、小人ノ多_ク言ニシテ、行ノ周カラ_ルコトヲ疾ム、

【疏】

又一通云、君子之言、必爲物楷、故凡有言、皆令後人、從而法之也、故王朗云、鄙意以爲、立言之謂也、傳云、大上有立德、其次立言、明君子之道、言必可則、令後世、準而從之、故曰而後從之、

又ター_レ通ニ云ク、君_レ子ノ言、必_ニ物ノ楷_ヲ爲リ、故ニ凡ソ言フコト有ルトキハ、皆後_レ人ヲ令テ、從テ之レニ法_ラ令ムト、故ニ王朗カ云ク、鄙_レ意ニ以_テ爲_ラク、言ヲ立ルノ謂_ハ乎、傳ニ云ク、大_レ上ハ德ヲ立ツルコト有リ、其ノ次ハ言ヲ立ツト、明ケシ君_レ子ノ道、言ハ_レ必ス則_ル可クシテ、

後一世ヲ令、準^{シテ}而^{シテ}之ニ從ハ令、故ニ曰ク而シテ後ニ之レニ從フト、

- (一) 「何」上、武内本有「於」字。
- (二) 「乎」、武内本作「也」。
- (三) 「云」、武内本作「曰」。
- (四) 「云」、武内本作「曰」。
- (五) 「也」、武内本作「乎」。
- (六) 「大」、武内本作「太」。

【經】

子曰、君子、周而不比、

子ノ曰ク、君子ハ、周シテ比セ^不、

【疏】

此章、明君子行與小人異也、周忠信也、比阿黨也、君子、常以忠信爲心、而無相阿黨也、

此ノ章ニハ、君子ノ行ト小人與異ナルコトヲ明ス、周忠信ナリ、比ハ阿黨ナリ、君子ハ、常ニ忠信ヲ以テ心ト爲^ス、而シテ相ヒ阿黨スルコト無シ、

【注】

孔安國曰、忠信爲周、阿黨爲比也、

孔安國カ曰ク、忠信ヲ周ト爲^シ、阿黨ヲ比ト爲^ス、

【經】

小人、比而不周、

小人ハ、比シテ周セ^不、

【疏】

與君子反也、小人、唯更相阿黨、而並不忠信也、然周是傳遍之法、故謂爲忠信、比是親狎之名、故謂爲阿黨耳、若互而言、周名亦有惡、比名亦有善者、故春秋云、是謂比周、言其爲惡周遍天下也、易卦有比、比則是輔、論語云、君子義與比、比則是親、雖非廣稱、文亦非惡、今此文、既言周以對比、故以爲惡耳、孫綽云、理備故稱周、無私故不比也、

君子與反^トス、小人ハ、唯ニ更ニ相ヒ阿黨シテ、並ニ忠信アラ不、然シテ(然ルニ)周ハ是レ傳遍ノ法ナリ、故ニ謂テ忠信ト爲、比ハ是レ親狎^{ナル}(狎)ノ名ナリ、故ニ

謂テ阿^レ黨ト爲ル耳、若シ互^ニヘテ言トキハ、周ノ名ニモ亦
惡^ク有リ、比^レノ名ニモ亦善^ク有リ、故ニ春秋ニ云ク、是レ此ノ
周ヲ謂^フソ、言ハ其レ惡ヲ爲コト天^ト下^トニ周^ト遍^スス、易ノ卦
ニ比有リ、比ハ則チ是レ輔ナリ、論語ニ云、君子ハ義ト與
ニ比ス、比ハ則チ是レ親ナリ、廣^ク稱^クニ非スト雖モ、文^亦
惡^クニ非、今此ノ文ニ、既ニ周ヲ言テ比ニ對ス、故ニ惡ト
爲ル耳、孫綽カ云ク、理^備ル故ニ周ト稱ス、私無シ。故
ニ比セ不、

【經】

子曰、學而、不思則罔、

子ノ曰ク、學テ、思ハ不ル則ハ罔ナリ、

【疏】

此章、教學法也、夫學問之法、既得其文、又宜精思其義、
若唯學舊文、而不思義則、臨用行之時、罔罔然、無所知
也、

此ノ章ニハ、學ノ法ヲ教フ、夫レ學問ノ法、既ニ其ノ文
ヲ得テ、又宜ク其ノ義ヲ精^ク思^フス宜シ、若唯^モ舊^ク文^ヲ學
テ、義ヲ思ハ不ル則ハ、用^イ行^フノ時ニ臨^テ、罔罔然ト

シテ、知ル所無シ、

【注】

荀氏曰、學而、不尋思其義理則、罔然無所得也、

荀氏カ曰ク、學テ、其ノ義^理ヲ尋^ム思ハ不ル則ハ、罔^然
トシテ得^ル所無シ、

【疏】

又一通云、罔誣罔也、言既不精思、至於行用、乖僻、是誣
罔聖人之道也、

又一通ニ云、罔ハ誣^ハ罔ナリ、言ハ既ニ精^ク思ハ不^ン
ハ、行^ヒ用^ルニ至^テ、乖^ク僻^ス(乖^ハ僻^ム)、是レ聖^人
ノ道ヲ誣^ハ罔スルナリ、

【經】

思而、不學則殆、

思^テ、學^ヒ不^ル則^ハ殆^ル(殆^シ)、

【疏】

又若、不廣學舊文、而唯專意、獨思則、精神疲殆也、於所業、無功也、

又若シ、廣ク舊一文ヲ學ハ不シテ、唯夕意ヲ專ニシテ、獨リ思フ則ハ、精神疲一殆ナリ、業トスル所ニ於テ、功無し、

【注】

不學、而思終卒不得、使人精神、疲殆也、

學ハ不シテ、思フトキハ終ニ一卒ニ得^{ツイ}不^ス、人ノ精一神ヲ使^{シテ}、疲^{ツカ}レ^{あやう}殆カラ使ム、

【經】

子曰、攻乎異端、斯害也已矣、

子ノ曰ク、異一端ヲ攻ムルハ、斯レ害ナラク已、

【疏】

此章、禁人雜學諸子百家之書也、攻治也、古人謂學爲治、故書史、載人專經學問者、皆云治其書、治其經也、異端、

謂雜書也、言人若不學六籍正典、而雜學于書史百家、此則爲害之深、故云、攻乎異端、斯害也已矣、斯害也已矣者、爲害之深也、

此ノ章ニハ、人ノ諸一子百家ノ書ヲ雜一學スルコトヲ禁ス、攻ハ治ナリ、古一人學ヲ謂テ治ト爲、故ニ書史ニ、人ノ經ヲ專ラシ學一問スル者ヲ載セテ、皆其ノ書ヲ治メ、其ノ一經ヲ治ルト云フ、異一端トハ、雜一書ヲ謂フ、言ハ人若シ六一籍ノ正一典ヲ學ハ不シテ、書一史百一家ヲ雜一學セハ、此レ則チ害ヲ爲スコトノ深キナリ、故ニ云ク、異端ヲ攻ルハ、斯レ害ナラク已、斯レ害ナラク已トハ、害ヲ爲スコトノ深ナリ、

【注】

攻治也、善道有統、故殊途、而同歸、

攻ハ治ナリ、善一道統有リ、故ニ途ヲ殊ニシテ、歸ヲ同フシ、

【疏】

善道、即五經正典也、有統、統本也、謂皆以善道、爲本也、殊途、謂詩書禮樂、爲教也途、不同也、同歸、謂雖所

明各異、同歸於善道也、

善道トハ、即チ五ノ經正ノ典ナリ、統有トハ、統ハ本ナリ、皆善道ヲ以テ、本ト爲ルヲ謂フ、塗ヲ殊ニス、詩書禮樂ヲ謂フ、教ヲ爲スノ途、同カラ不、歸ヲ同ストハ、謂ル明ス所各異ナリト雖モ、而トモ同ク善道ニ歸ス、

【注】

異端不同歸者、

異端ハ歸ヲ同セ不、

【疏】

諸子百家、並是虚妄、其理不善、無益教化、故是不同歸也、

諸子百家、並二是レ虚妄ナリ、其ノ理不善ニシテ、教化ニ益無、故二是レ歸ヲ同セ不ルナリ、

- (一) 「道」下、武内本有「者」字。
- (二) 「塗」、武内本作「途」。
- (三) 「也」、武内本作「之」。

- (四) 「異」下、武内本有「端」字。
- (五) 「者」下、武内本有「也」字。

【經】

子曰由、

子ノ曰ク由ハ、

【疏】

此章、抑子路兼人也、由子路名也、子路有兼人之性、好以不知爲知也、孔子將欲教之、故先呼其名也、

此ノ章ニハ、子路カ人ヲ兼ヌルコトヲ抑フ、由ハ子路カ名ナリ、子路人ヲ兼ヌルノ性有リ、好テ知ラ不ルヲ以テ知レリト爲、孔子將ニ之レヲ教ヘント欲、故ニ先ツ其ノ名ヲ呼フ、

【經】

誨汝知之乎、

汝ニ知レランコトヲ誨ヘンカ、

【疏】

誨教也、孔子呼子路名云、我欲教汝、知之文章乎、

【經】
是知也、

誨ハ教ナリ、孔子子路カ名ヲ呼テ云ク、我汝ニ、知レル
ノ文章ヲ教エント欲ス、

是レ知レルナリ、

【注】

孔安國曰、由弟子也、姓仲名由字子路也、

【疏】

孔安國カ曰ク、由ハ弟子、姓ハ仲名ハ由字ハ子路、

若不知、云知、此則是無知之人耳、若實知、而云知、此乃
是有知之人也、又一通云、孔子呼子路名云、由我從來、教
化於汝、汝知我教、汝以不乎、汝若知我教、則云知、若不
知、則云不知、能如此者、是有知之人也、

【經】

知之爲知、不知之、爲不知、

知レランヲハ知レリト爲ヨ、知レラ不ルヲハ、知レラ不ト
爲ヨ、

【疏】

汝若、心有所不知、則當云不知、不可妄云知之也、

若シ知レラ不ルヲ、知レリト云ハハ、此レ則チ是レ知レル
コト無キノ人耳、若シ実ニ知テ、知レリト云ハハ、此レ乃
チ是レ知レルコト有ルノ人ナリ、又一通ニ云ク、孔子子
路カ名ヲ呼テ云ク、由我從來、汝ヲ教化ス、汝我カ
教ヲ知ルヤ、汝以不乎、汝若シ我教ヲ知ラハ、知
ト云ヘ、若シ知レラ不ランヲハ、知レラ不ト云ヘ、能ク此
ノ如クナル者ハ、是レ有知ノ人ナリ、

汝なんぢ若シ、心ニ知ラ不ル所有ラハ、當ニ知レラ不ト云フ

當、妄ニ知レリト云フ可ラ不、

(一) 「章」、武内本作「事」。

(二) 「也」、武内本無此字。

(三) 「知」下、武内本有「之」字。

(四) 「乃」、武内本作「則」。

【經】

子張學干祿、

子張祿ヲ干モトメンコトヲ學フ、

【疏】

干求也、祿祿位也、弟子子張就孔子學求祿位之術也、

干ハ求ナリ、祿ハ祿位ナリ、弟子ノ子張孔子ニ就テ祿位ヲ求ムルノ述ヲ學フ、

【注】

鄭玄曰、子張弟子也、三姓顓孫、名師、字子張也、干求也、祿祿位也、

鄭玄カ曰ク、子張ハ弟子、姓ハ顓孫、名ハ師、字ハ子張、干ハ求ナリ、祿ハ祿位ナリ、

【經】

子曰、多聞闕疑、

子ノ曰ノたまはク、多ク聞テ疑シキヲ闕かキ、

【疏】

答求祿術也、疑疑惑之事也、言人居世間、必多有所聞、所聞之事、必有疑者、有解者、解者則必録之、若疑者、則廢闕而莫存録、故云、多聞闕疑、

祿ヲ求ルノ術ヲ答フ、疑ハ疑惑ノ事ナリ、言ハ人世間ニ居テ、必ス多ク聞ク所有リ、聞ク所ノ事、コト必疑ハシキ者有リ、解スル者有リ、解スル者ヲハ必ス之ヲ録ス、若シ疑シキ者ヲハ、廢闕シテ存録スルコト莫シ、故ニ云ク、多ク聞テ疑ヲ闕かクト、

【經】

慎言其餘、

慎テ其ノ餘ヲ言フトキハ、

【疏】

其餘、謂所心解、不疑者也、已闕廢可疑者、而所餘不疑者、雖存録在心、亦何必中理、故又宜口慎言之也、

其ノ餘トハ、心ノ解スル所トコロ、疑ハシカラ不ル者ヲ謂フ、
已ニ疑フ可者ヘキヲ闕カキ廢シテ、餘ル所ノ疑ハシカラ不ル者、
存モト録シテ、心ニ在ト雖モ、亦何ソ必ス理ニ中アタラン、故ニ又
宜ク口ニ慎テ之ヲ言フ宜ヒ、

【經】

則寡尤、

尤アヤマテ
(尤チラ) 寡シ、
スくな

【疏】

寡少也、尤過也、既闕可疑、又慎言所不疑、能如此者、則
生平之言、少有過失也、

寡ハ少ナリ、尤ハ過ナリ、既ニ疑フ可ヘキヲ闕カキテ、又慎テ疑ハ
シカラ不ル所ヲ言フ、能ク此ノ如キ者ハ、生ヒ平ノ言コト、過
失有ルコト少シ、

【注】

苞氏曰、尤過也、疑則、闕之、其餘不疑、猶慎言之則、少
過也、

苞氏カ曰ク、尤ハ過ナリ、疑ハシキヲハ、闕テ、其ノ餘ノ
疑ハシカラ不ルヲモ、猶ヲ慎テ之ヲ言フ則ハ、過アヤマテ少シ、

【經】

多見、闕殆、

多ク見テ、殆アヤムキヲ闕カキテ、

【疏】

殆危也、言人若眼多所見、闕廢其危殆者、不存録之也、

殆ハ危ナリ、言ハ人若シ眼ニ多ク見ル所、其ノ危殆ナル
者ヲ闕カキ廢シテ、之ヲ存モト録セ不ルナリ、

【經】

慎行其餘、

慎テ其ノ餘ヲ行フトキハ、

【疏】

其餘、謂自所録、非危殆之事也、雖已廢危殆者、而所餘不
殆者、亦何必並申其理、故又宜慎行之也、

其ノ餘トハ、自録スル所、危殆ノ事ニ非ルヲ謂フ、已ニ危殆ナル者ヲ廢スト雖モ、而トモ餘ル所ノ殆カラ不ル者モ、亦何ソ必シモ並ニ其ノ理ニ中ラン、故ニ又宜ク慎テ之ヲ行フ宜シ、

【經】
則寡悔、

悔ヒ寡シ、

【疏】

悔恨也、既闕於危殆者、又慎行所不殆、能如此者、則平生所行、少悔恨也、

悔ハ恨ナリ、既ニ危殆ノ者ヲ闕テ、又慎テ殆カラ不ル所ヲ行フ、能ク此ノ如キ者ハ、平生行フ所、悔恨少シ、

【注】

苞氏曰、殆危也、所見危者、闕而不行則、少悔也、

苞氏カ曰ク、殆ハ危、見ル所ノ危キ者ヲハ、闕テ行ハ不ル則ハ、悔イ少シ、

【經】

言寡尤、行寡悔、祿在其中矣、

言尤寡ク、行悔イ寡トキハ、祿其ノ中ニ在リ、

【疏】

其餘、若能言少過失、行少悔恨則、祿位自至、故云、祿在其中也、故范寧云、發言少過、履行少悔、雖不以要祿、乃致祿之道也、仲尼何以、不使都無尤悔、而言寡尤乎、有顏回、猶不二過、蘧伯玉亦未能寡其過、自非聖人、何能無之、子張若能寡尤悔、便爲得祿者也、

其ノ餘、若シ能ク言過失少ク、行悔恨少キ則ハ、祿位自至ル、故ニ云ク、祿ハ其ノ中ニ在リト、故ニ范寧カ云ク、言ヲ發スルコト過チ少ク、行ヲ履ムコト悔ヒ少トキハ、以テ祿ヲ要メ不ト雖モ、乃シ祿ヲ致スノ道ナリ、仲尼何ヲ以カ、都テ尤悔無カラ使不シテ、尤寡シト言フヤ、顏回ニ有ルモ、猶ヲ二タヒ過チ不、蘧伯玉モ亦未タ其ノ過寡キコト能ハ未、聖人ニ非ス自リンハ、何ソ能ク之レ無シ、子張若シ能ク尤悔寡キトキハ、便チ祿ヲ得ル者爲ラン、

【注】

鄭玄曰、言行如此、雖不得祿、得祿之道也、

鄭玄カ曰ク、言「行此ノ如キンハ、祿ヲ得不ト雖モ、祿ヲ得ルノ道ナリ、

【疏】

言、當無道之世、德行如此、雖不得祿、若忽值有道之君、則必見用、故云、得祿之道也、

言ハ、道無ノ世ニ當テ、德行此ノ如シハ、祿ヲ得不ト雖、若シ忽ニ有^レ道ノ君ニ値ハハ、必ス用イ見^ラレン、故ニ云ク、祿ヲ得ルノ道ナリト、

(一) 「求」、武内本作「干」。

(二) 「也」、武内本無此字。

(三) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

哀公問曰、何爲則、民服也、

哀公問テ曰ク、何^レ爲^レハ、民^レ服セン、

【疏】

哀公失德、民不服從、而公患之、故問孔子、求民服之法也、

哀公德ヲ失シテ、民服^レ從セ不、而シテ公之ヲ患フ、故ニ孔子ニ問テ、民服スルノ法ヲ求ム、

【注】

荀氏曰、哀公魯君之諡也、

荀氏カ曰ク、哀公ハ魯ノ君ノ諡ソ、

【經】

孔子對曰、舉直、錯諸枉則、民服、

孔子對ヘテ曰ク、直キヲ舉^ギテ、枉^レレルヲ錯^ク則ハ、民服ス、

【疏】

答哀公民服之法也、凡稱子曰、則是弟子所記、若稱孔子、則當時人、非弟子所記、後爲弟子所撰、仍舊不復改易、故依先呼孔子也、直謂正直之人也、錯置也、枉邪委曲佞之人

也、言若舉正直之人、爲官位、爲廢置邪佞之人則、民服若德也、亦由哀公廢直用枉故也、故范寧云、哀公捨賢任佞、故仲尼發乎此言、欲使舉賢以服民也、

哀公二民^{タカ}服スルノ法ヲ答フ、凡ソ子^ト曰ト稱スルハ、則チ是レ弟^ト子ノ記スル所ナリ、若シ孔子ト稱スルハ、則チ當^ト時ノ人ナリ、弟^ト子ノ記スル所ニ非ス、後ニ弟^ト子ノ撰スル所爲リ、舊ニ仍テ復改^ト易セ不、故ニ先^ト二依テ孔子ト呼フ、直トハ正^ト直ノ人ヲ謂フ、錯ハ置ナリ、枉トハ邪^ト委曲^ト佞ノ人ナリ、言ハ若シ正^ト直ノ人ヲ舉テ、官^ト位ト爲、邪^ト佞ノ人ヲ廢^ト置スルコトヲ爲ス則ハ、民君ノ^ト德ニ服ス、亦哀公直キヲ廢シ枉レルヲ用ルニ由ル故ナリ、故ニ范寧カ云ク、哀公賢ヲ捨^テ佞^ニ任ス、故ニ仲尼此ノ^ト言ヲ發シテ、賢ヲ舉テ民ヲ服セ使メマク^欲、

【注】

荀氏曰、錯置也、舉用正直之人、廢置邪枉之人則、民服其上^也、

荀氏カ曰ク、錯^ハ置、正^ト直ノ人ヲ舉ケ^テ用テ、邪^ト枉ノ人ヲ廢^テ置スル則ハ、民其ノ^ト上ニ服ス、

【經】
舉枉、錯諸直則、民不服、

枉^ハレ^ルヲ舉テ、直キヲ錯^ク則ハ、民服セ不、

【疏】

此舉哀公之政、如此故、民不服也、江熙曰、哀公當千載之運、而聖賢滿國、舉而用之、魯其王矣、而唯好耳目之悅、群邪秉政、民心厭弃、既而苦之、乃有此問也、

此レハ哀公ノ政ノ、此ノ如クナル故ニ、民服セ不ルコトヲ舉ク、江熙カ曰ク、哀公千^ト載ノ運ニ當テ、聖賢國ニ滿ツ、舉テ之ヲ用ヒハ、魯其レ王タラン、而ルニ唯^ト夕^ト耳^ト目^トノ悦ヲ好テ、群^ト邪^ト政ヲ秉ル、民ノ心厭^キ弃^ツ、既ニシテ之ヲ苦テ、乃シ此ノ問有リ、

(一) 「也」、武内本作「矣」。

【經】

季康子問、使民敬忠、以勸如之何、

季康子問ハク、民ヲ使^シテ敬^シ忠^スアツテ、以^テ勸^マ使^スメンコ

ト如^イ之^カ何^シ、

【疏】

魯臣也、其既無道、僭濫、故民不敬不忠、不相勸獎、所以問孔子、求學使民、行敬及忠及勸三事也、故云、如之何、

魯ノ臣ナリ、其レ既ニ無道ニシテ、潜^イ濫ナリ、故ニ民不敬不忠ニシテ、相ヒ勸^スミ^ス、獎^スマ^ス不^ス、所^コ以^ノニ孔子ニ問テ、學テ民ヲ使^シテ、敬及ヒ忠及勸ノ三事ヲ行ハ使メンコトヲ求ム、故ニ云ク、如^イ之^カ何^シト、

【注】

孔安國曰、魯卿大夫季孫肥也、康諡也、

孔安國カ曰ク、魯ノ卿大夫季孫肥ソ、康ハ諡ナリ、

【經】

子曰、臨民之以莊、則民敬、

子ノ曰^ク、民ニ臨ムニ^イ莊^シ、ヲ以テスルトキハ、民敬アリ、

【疏】

答使爲三事之術也、民從上化、如草從風也、臨、謂以高視下也、莊嚴也、言君居上、臨下、若自能嚴整則、下民皆爲、敬其上也、

三事ヲ爲サ使^ナムルノ術ヲ答フ、民ノ上ノ化ニ從フコト、草ノ風ニ從フカ如シ、臨トハ、高ヲ以テ下キヲ視ルソ、莊ハ嚴、言ハ君上ニ居テ、下ヲ臨ムコト、若シ自^ミ能ク嚴^カ整ナル則ハ、下^ミ民皆爲ニ、其ノ上ヲ敬ス、

【注】

荀氏曰、莊嚴也、君臨民、以嚴則、民敬其上也、

荀氏カ曰ク、莊ハ嚴、君民ニ臨ムニ、嚴^イヲ以テスル則ハ、民其ノ上ヲ敬ス、

【經】

孝慈則忠、

孝慈アル則ハ忠アリ、

【疏】

又言、君若、上孝父母、下慈民人則、民皆盡竭忠心、以奉其上也、故江熙云、言民法上而行也、上孝慈則、民亦孝慈、孝於其親、乃能忠於君、求忠臣、必於孝子之門也、

又言ハ、君若シ、上父一母ニ孝アリ、下民一人ニ慈アル則ハ、民皆盡クニ忠、心ヲ竭シテ、其ノ上ヲ奉ク、故ニ江熙カ云ク、言ハ民ハ上ニ法テ行フ、上孝慈アル則ハ、民亦孝慈アリテ、其ノ親ニ孝アリテ、乃シ能ク君ニ忠アリ、忠臣ヲ求ムルトキハ、必ス孝子ノ門ニ於テス、

【注】

荀氏曰、君能、上孝於親、下慈於民則、民忠矣、

荀氏カ曰ク、君能ク、上親ニ孝アリ、下民ニ慈アル則ハ、民忠アリ、

【經】

舉善而、教不能則、民勸、

善ヲ舉テ、不能ヲ教フル則ハ、民勸ム、

【疏】

又言、若民中、有善者則、舉而祿位之、若民中、未能善者、則教令使能、若能如此則、民競、爲勸慕之行也、

又言ク、若シ民ノ中ニ、善者有ル則ハ、舉テ之ニ祿位ス、若シ民ノ中ニ、善ニ能ハ未者ヲハ、則チ教ヘ令ヘテ能クセ使ム、若シ能ク此ノ如ナル則ハ、民競テ、勸慕ノ行ヲ爲ス、

【注】

荀氏曰、舉用善人、而教不能者則、民勸之也、

荀氏カ曰ク、善人ヲ舉ケ用テ、不能者ヲ教ル則ハ、民勸ム、

(一) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

或謂孔子曰、子奚不爲政、

或ヒト孔子ニ謂テ曰ク、子奚ソ政ヲ爲不、

【疏】

或者、或有一人、不記其姓名也、奚何也、政謂居官南面也、或人見孔子栖遑、故問孔子曰、何不爲政、處官位乎、

或ヒトトハ、或ル一人有テ、其ノ姓ノ名ヲ記セ不、奚ハ何ナリ、政トハ謂ヘラク官ニ居テ南ニ面スト（政トハ官ニ居テ南ニ面スト謂ヘリ）、或ル一人孔子ノ栖遑タルヲ見ル、故ニ孔子ニ問テ曰ク、何ソ政ヲ爲シテ、官ニ位ニ處ラ不ル、

【注】

荀氏曰、或人以爲、居位乃是爲政也、

荀氏カ曰ク、或ル人以爲ヘラク、位ニ居ルノミ。乃シ是レ政ヲ爲ルト（或ル人、位ニ居ルノミ。乃シ是レ政ヲ爲ルト以爲ヘリ）、

【經】

子曰、書云、孝于惟孝、友于兄弟、施於有政、是亦爲政也、

子ノ曰ク、書ニ云ヘラク、惟レ孝ニ孝アリ、兄ノ弟ニ友アリ、政有ルニ施フ（施ス）、是レ亦タ政ヲ爲ルナリ、

【疏】

此以上、並尚書言也、引書以答或人也、然此語、亦與尚書微異、而義可一也、善父母、曰孝、善兄弟、爲友、于於也、惟孝謂惟令盡於孝也、施行也、言人子在闈門、當極孝於父母、而極友於兄弟、若行此二事、有政、即亦是爲政也、

此ノ以上ハ、並ニ尚書ノ言ナリ、書ヲ引テ以テ或ル一人ニ答フ、然レトモ此ノ語、亦尚書與微シ異ニシテ、義一ナル可シ、父ノ母ニ善キヲ、孝ト曰ヒ、兄ノ弟ニ善キヲ、友ト爲、于ハ於ナリ、惟レ孝ハ惟レ孝ヲ盡サ令ムルヲ謂フ、施行ナリ、言ハ人ノ子ハ闈門ニ在テ、當ニ孝ヲ父ノ母ニ極メ、友ヲ兄ノ弟ニ極ム當シ、若シ此ノ二ノ事ヲ行テ、政有ルハ、即亦タ是レ政ヲ爲ルナリ、

【經】

奚其爲爲政、

奚ソ其レ政ヲ爲ルシモ爲ルナラン、

【疏】

此是、孔子正答於或人也、言施行孝友、有政、家家皆正

則、邦國自然得正、亦又何用爲官位、乃是爲政乎、故范寧云、夫所謂政者、以孝友、爲政耳、行孝友則、是爲政、復何者爲政乎、引周書、所以明政、或人貴官位、而不存孝道、故孔子言乎此也、

此ハ是レ、孔子正ク或ル人ニ答フ、言ハ孝友ヲ施イ行テ、政有テ、家皆正シキ則ハ、邦國自_レ然ニ正キコトヲ得、亦タ又何ソ官位ト爲、乃シ是レ政ヲ爲ルコトヲ用シヤ、故ニ范寧カ云ク、夫レ謂ハ所ル政者、孝友ヲ以テ、政ヲ爲ル耳、孝友ヲ行フ則ハ、是レ政ヲ爲ルナリ、復タ何者ヲカ政ト爲ン乎、周書ヲ引テ、政ヲ明ス所以ナリ、或ル人ハ官位ヲ貴テ、孝道ヲ存セ不、故ニ孔子此レヲ言フ、

【注】
苞氏曰、孝于惟孝者、美孝之辭也、

苞氏カ曰ク、孝_一于_一惟_一孝_一ハ、孝_二美_一キ辭ソ、

【疏】
惟令極行於孝、故云、美孝之辭也、

惟レ行ヲ孝ニ極メ令ム、故ニ云ク、孝ニ美_一キ辭ナリ、

【注】
友于兄弟、善於兄弟也、

友_一于_一兄_一弟_一ハ、兄_一弟_一ニ善キソ、

【疏】
然、友于兄弟、是善於兄弟則、孝于惟孝、是善於父母也、父母、既云孝于惟孝則、兄弟、亦宜云友于惟友也、所以互見之也、

然ルニ、友_一于_一兄_一弟_一ハ、是レ兄_一弟_一ニ善キ則ハ、孝_一于_一惟_一孝_一ハ、是レ父_一母_一ニ善ナリ、父_一母_一ニ、既ニ孝_一于_一惟_一孝_一ト云フ則ハ、兄_一弟_一ニシ、亦宜ク友_一于_一惟_一友_一ト云フ宜シ、互ヘテ之レヲ見_一ス所以ナリ、

【注】
施行也、所行有政道、即是與爲政同耳也、

施ハ行ナリ、行フ所政道有ルハ、即チ是レ政ヲ爲ル與同シキ耳、

【疏】

行孝友、有政道、即與爲政同、更何所別復爲政乎、

孝友ヲ行テ、政道有ルトキハ、即チ政ヲ爲ルト與同シ、
更ニ何ソ別ニ復タ政ヲ爲ル所ナラン、

(一) 「云」、武内本作「曰」。

(二) 「周」、武内本作「尚」。

(三) 「政」下、武内本有「也」字。

【經】

子曰、人而無信、不知其可也、

子ノ曰ク、人トシテ信無キトキハ、其ノ可ナルコトヲ知ラ
不、

【疏】

此章、明人不可失信也、言人若無信、雖有他才、終爲不
可、故云、不知其可也、

此ノ章ニハ、人ノ信ヲ失ス可ラ不ルコトヲ明ス、言ハ人
若シ信無シハ、他才有利ト雖モ、終ニ不可ナリト爲、故

ニ云ク、其ノ可ナルコトヲ知ラ不ト、

【注】

孔安國曰、言人而無信、其餘終無可也、

孔安國カ曰ク、言ハ人トシテ信無キトキハ、其ノ餘ハ終
ニ可ナルコト無シ、

【疏】

其餘、謂他才伎也、

其ノ餘トハ、他ノ才伎ヲ謂フ、

【經】

大車無輓、小車無軌、其何以行之哉、

大車輓無ク、小車軌無クンハ、其レ何ヲ以テカ行カン
哉、

【疏】

此爲無信、設譬也、言人以信、得立、如大小之車、由於輓
軌、以得行也、若車無輓軌則、何以得行哉、如人而無信

則、何以得立哉、故江熙稱彦叔曰、車待輓軌、而行、猶人須信以立也、

此レ信無^スノ爲ニ、譬ヲ設ク、言ハ人ハ信ヲ以、立^ルスルコトヲ得、大^ニ小^ノ車ノ、輓^ニ軌^ニ由テ、行クコトヲ得ルカ如シ、若シ車ニ輓^ニ軌^ニ無キ則ハ、何ヲ以テカ行クコトヲ得ンヤ、如シ^モ人トシテ信無キ則ハ、何ヲ以テカ立^ルスルコトヲ得ンヤ、故ニ江熙彦叔ヲ稱シテ曰ク、車ハ輓^ニ軌^ニヲ待テ、行ク、人ハ信ヲ須^テチテ以テ立^ルスルカ猶シ、

【注】

苞氏曰、大車牛車、

苞氏カ曰ク、大^ニ車^ハ牛^ノ車、

【疏】

牛能引重、故曰大車也、

牛ハ能ク重キヲ引ク、故ニ大^ニ車^ト曰フ、

【注】

輓者、輓端横木、以縛柅者也、

輓ハ、輓ノ^{ハシ}端^ニ二木ヲ横^ニテ、以テ柅ヲ縛^ケタル者ナリ、

【疏】

端頭也、古作牛車、二轅、不異即時車、但轅頭安柅、與今異也、即時車柅、用曲木、駕於牛脰、仍縛柅兩頭、著兩轅、古時則、先取一横木、縛著兩轅頭、又別取曲木、爲柅、縛著横木、以駕牛脰也、即時、一馬牽也、車柅、猶如此也、

端ハ頭、古ニハ牛^ノ車ヲ作ル、二^ノ轅アリ、即^シ時^ノ車ニ異ナラ不、但ニ轅ノ^{ハシ}頭^ニ二柅ヲ安^フ、今與異ナリ、即^シ時^ノ車ノ柅ハ、曲^ニ木ヲ用テ、牛ノ脰^ニ二駕ス、仍テ柅ノ^{ハシ}頭^ニ車縛テ、兩^ノ轅ニ著ク、古^ノ時^ノハ則チ、先ツ一ツノ横^ニ木ヲ取テ、兩^ノ轅ノ^{ハシ}頭^ニ縛イ^テ著テ、又別ニ曲^ニ木ヲ取テ、柅ヲ爲^テ、横^ニ木ヲ縛イ^テ著テ、以テ牛ノ^{ハシ}脰^ニ二駕ス、即^シ時ハ、一^ノ馬ノ牽クナリ、車ノ柅ハ、猶シ此ノ如シ、

【注】

小車、駟馬車也、

小^ノ車ハ、駟^ノ馬^ノ車、

【疏】

馬所載輕、故曰小車也、四馬共牽一車、即今龍旂車、是也、

馬ニ載スル所ハ輕シ、故ニ小車ト曰フ、四馬共ニ一車ヲ牽ク、即今ハ龍旂車、是レナリ、

【注】

軌者、轅端、上曲、以拘衡者也、

軌ハ、轅ノ端ニ、上曲テ、以テ衡ヲ拘ヘタル者ナリ、

【疏】

衡横也、四馬之車、唯中央有一轅、轅頭曲向上、此拘駐於横、名此曲者、爲軌也、所以頭拘此横者、轅駕四馬、故先横一木於轅頭、而縛軛著此横、此横既、爲四馬所牽、恐其不堅、故特置曲軛裏、使牽之不脱也、猶即時龍旂轅端、爲龍置横在龍頸上曲處、鄭玄曰、軛穿轅端、著之、軌因轅端、著之也、

衡ハ横ナリ、四馬ノ車ハ、唯タ中央ニ一ノ轅有リ、轅ノ頭曲テ上ニ向テ、此レ横ヲ拘ヘ駐ム、此ノ曲レル者ヲ

名テ、軌ト爲、頭ニ此ノ横ヲ拘ル所以ハ、轅ニ四馬ヲ駕ス、故ニ先ツ一木ヲ轅ノ頭ニ横フ、軛ヲ縛テ此ノ横ニ著ク、此ノ横既ニ、四馬ノ牽ク所ト爲ス、其ノ堅カラ不ランコトヲ恐ル、故ニ特ニ曲軛ヲ裏ニ置キテ、之ヲ牽テ脱セ不ラ使ム、即時ノ龍旂ハ轅ノ端ニ、龍ヲ爲テ横ヲ置ク。龍ノ頸ノ上ニ曲タル處ニ在クカ猶シ、鄭玄カ曰ク、軛ハ轅ノ端ヲ穿テ、之ヲ著ク、軌ハ轅ノ端ニ因テ、之ヲ著ク、

- (一) 「於」、武内本無此字。
- (二) 「何」上、武内本有「車」字。
- (三) 「也」、武内本無此字。
- (四) 「以」、武内本無此字。
- (五) 「牽」、武内本作「載」。
- (六) 「裏」上、武内本有「軌」字。
- (七) 「旂」下、武内本有「車」字。
- (八) 「頸」、武内本作「頭」。
- (九) 「處」下、武内本有「也」字。
- (一〇) 「也」、武内本無此字。

【經】

子張問、十世可知也、

子ノ張問ハク、十一世知ヌ可シヤ、

【疏】

十世、謂十代也、子張見五帝三王、文質變易、世代不同、故問孔子、從今以後、方來之事、假設十代之法、可得逆知、以否乎、

十一世トハ、十一代ヲ謂フ、子張五帝三王、文質變易、世代同ヲ不ルヲ見ル、故ニ孔子問フ、今從リ以後、方來ノ事、假設十代ノ法、得テ逆メ知ル可シヤ、以テ否ヤ、

【注】

孔安國曰、文質禮變也、

孔安國カ曰ク、文質禮變ソ、

【疏】

禮變、即制度改易也、

禮變トハ、即チ制度ノ改易ナリ、

【經】

子曰、殷因於夏禮、所損益可知也、

子ノ曰ク、殷ハ夏ノ禮ニ因ル、損益スル所知ヌ可シ、

【疏】

孔子舉前三代、禮法相因、及所損益、以爲後代、可知之證也、言殷代夏、立而因用夏禮、及損益夏禮、事事可得而知也、

孔子前ノ三代ノ、禮法ノ相イ因リ、及ヒ損益スル所ヲ舉テ、以テ後代ノ、知ヌ可キノ證ト爲、言ハ殷ハ夏ニ代テ、立テ夏ノ禮ニ因リ用フ、及ヒ夏ノ禮ヲ損益ス、事ノ事得テ知ヌ可、

【經】

周因於殷禮、所損益、可知也、

周ハ殷ノ禮ニ因ル、損益スル所、知ヌ可シ、

【疏】

又周代殷立、亦有因殷禮、及有所損益者、亦事事可知也、

又夕周ハ殷ニ代^{かはり}テ立^{たち}テ、亦夕殷ノ禮ニ因ルコト有リ、及ヒ損益スル所ノ者^{モノ}有リ、亦事^{コト}事知ヌ可シ、

【注】

馬融曰、所因、謂三綱五常也、

馬融カ曰ク、因ル所トハ、三綱五常ヲ謂フ、

【疏】

此是、周所因於殷、殷所因於夏之事也、三綱、謂夫婦、父子、君臣也、三事、爲人性之綱領、故云三綱也、五常、謂仁、義、禮、智、信、也、就五行、而論則、木爲仁、火爲禮、金爲義、水爲信、土爲智、人稟此五常、而生則、備有仁、義、禮、智、信、之性也、人有博愛之德、謂之仁、有嚴斷之德、爲義、有明辨尊卑、敬讓之德、爲禮、有言不虛妄之德、爲信、有照了之德、爲智、此五者、是人性之恒、不可暫捨、故謂五常也、雖復時移、世易、事歷今古、而三綱五常之道、不可變革、故世世相因、百代仍襲也、

此レハ是レ、周ノ殷ノ因ル所、殷ノ夏ニ因ル所ノ事ナリ、三綱トハ、夫婦、父子、君臣ヲ謂フ、三事ハ、人性ノ綱領爲リ、故二三綱ト云フ、五常トハ、仁義(仁、

義)、禮、智、信、ヲ謂フ、五行ニ就テ、論スル則ハ、木ヲハ仁ト爲、火ヲハ禮ト爲、金ヲハ義ト爲、水ヲハ信ト爲、土ヲハ智ト爲、人ハ此ノ五常ヲ稟ケテ、而シテ生ルル則ハ、備ニ仁、義、禮、智、信、ノ性有リ、人博愛ノ徳有ル、之ヲ仁ト謂ヒ、嚴斷ノ徳有ルヲ、義ト爲、尊卑ヲ明辨シ、敬讓ノ徳有ルヲ、禮ト爲、言虛妄ナラ不^{コト}ルノ徳有ルヲ、信ト爲、照了ノ徳有ルヲ、智ト爲、此ノ五ノ者ハ、是レ人ノ性ノ恒ナリ、暫クモ捨ツ可ラ不、故ニ五常ト謂フ、復時^{ツネ}移リ、世易^カハリ、事今^{コト}古ヲ歴ト雖モ、而トモ三綱五常ノ道ハ、變革(革)ス可ラ不、故ニ世世相^{アラタム}ヒ^ヨ因リ、百代仍^ヨ襲ル、

【注】

所損益謂文質三統也、

損益スル所トハ文質三統ヲ謂フ、

【疏】

夫文質、再而復、正朔三而改、質文再而復者、若一代之君、以質爲教者則、次代之君、必以文教也、以文之、後君則、復質、質之後君則、復文、環循無窮、有興必有廢、廢興更遷、故有損益也、正朔三而改者、三代而一周也、夫人

君爲政、所尚不同、必各有所統、統則有三也、案大傳云、王者始起、改正朔、易服色、夫正朔有三本、亦有三統、明王者受命、各統一正也、朔者蘇也、革也、言萬物革更於是、故統焉、又禮三正記云、正朔、三而改、文質、再而復、尚書大傳云、夏以孟春、爲正、殷以季冬爲正、周以仲冬、爲正、又曰、夏以十三月、爲正、色尚黑、以平且爲朔、殷以十二月、爲正、色尚白、以鷄鳴爲朔、周以十一月、爲正、色尚赤、以夜半、爲朔也、白虎通云、王者受命、必改正朔者、明易姓、示不相襲、明受之於天、不受之於人、所以變易民心、革其耳目、以化、又云、十三月之時、萬物始達浮甲、而出皆黑、人得加功力、故夏爲人正、色尚黑也、十二月之時、萬物始牙而、白、白者陰氣、故殷爲地正、色尚白也、十一月之時、陽氣始養根核、故黃泉之下、萬物皆赤、赤者盛陽之氣也、故周爲天正色尚赤也、又云、天道左施、改正右行者、非改天道、但改日月耳、日月右行、故改正右行、日尊於月、不言正日、而言正月、積日成月、物隨月而變、拋物爲正也、天質地文、周反天統何、質文再改、正朔三易、三微質文正不相因、故正不隨質文也、三統之義如此、然舊問云、夏用建寅爲正、物初出、色黑、故尚黑、今就草木初生、皆青、而云黑何也、舊通云、物初出、乃青、遠望則黑、人功貴廣遠故也、且一日之中、天有青時、故取其黑也、又舊問、三正爲正、是三王、爲上

代、已有舊通、有二家、一云、正在三代、三代時相統、故須變革相示也、又一家云、自從有書籍、而有三正也、伏羲爲人統、神農爲地統、黃帝爲天統、少昊猶天統、言是、黃帝之子、故不改統也、顓頊爲人統、帝嚳爲地統、帝堯是爲嚳子亦爲地統、帝舜爲天統、夏爲人統、殷爲地統、周爲天統、三正相承、若連環也、今依後釋所以必從人爲始者、三才須人、乃成、是故從人爲始也、而禮家、從夏爲始者、夏是三王始、故舉之也、又不用建卯、建辰、爲正者于時、萬物不齊、莫適所統也、

夫レ文一質ハ、再(再)ニシテ復ス、正朔ハ三ニシテ改マル、質一文ハ再ニシテ復トハ、若シ一代ノ君、質ヲ以テ爲者ハ、則ハ、次ノ代ノ君ハ、必ス文ヲ以テ教フ、文ヲ以テスルノ、後ノ君ハ、質ニ復ス、質ノ後ノ君ハ、文ニ復ス、環一循シテ窮マルコト無シ、興ルコト有ルトキハ必ス廢スルコト有リ、廢一興更ニ遷ル、故ニ損一益有リ、正朔ハ三ニシテ改ルトハ、三代ニシテ一ヒ周ル、夫レ人君ノ政ヲ爲ルコト、尚フ所同ラ不、必一各統フ所^{あり}有、統スルコト則チ三有リ、大傳ヲ案スルニ云ク、王者始メテ起ルトキハ、正朔ヲ改メ、服一色ヲ易フ、夫レ正朔ニ一本有リ、亦三統有リ、王者ノ命ヲ受ルトキハ、各一正ヲ統コトヲ明ス、朔ハ蘇ナリ、革ナリ、言ハ萬物

是ニ革マリ更ル、故ニ焉ヲ統フ、又禮ノ三正記ニ云ク、正朔ハ、三ニシテ改リ、文質ハ、再ニシテ復ス、尚書ノ大傳ニ云ク、夏ニハ孟春ヲ以テ、正ト爲シ、殷ニハ季冬ヲ以テ正ト爲シ、周ニハ仲冬ヲ以テ、正ト爲シ、又曰ク、夏ニハ十一月ヲ以テ、正ト爲シ、色ヲハ黒ヲ尚フ、平旦ヲ以テ朔ト爲シ、殷ニハ十二月ヲ以テ、正ト爲シ、色ハ白ヲ尚フ、鶏鳴ヲ以テ朔ト爲シ、周ニハ十一月ヲ以テ、正ト爲シ、色ハ赤ヲ尚フ、夜半ヲ以テ、朔ト爲シ、白虎通ニ云ク、王者命ヲ受ルトキニ、必ス正朔ヲ改ムルコトハ、明ニ姓ヲ易ヘテ、相ヒ襲ラ不コトヲ示ス、之ヲ天ニ受テ、之レヲ人ニ受不コトヲ明ス、民ノ心ヲ變易シテ、其ノ耳目ヲ革メテ、以テ化スル所以ナリ、又云ク、十三月ノ時ニ、萬物始メテ浮甲ヲ達シテ、出ツ、皆黒シ、人功力ヲ加ルコトヲ得、故ニ夏ニハ人正ト爲シ、色ハ黒ヲ尚フ、十二月ノ時ニ、萬物始テ牙シテ、白シ、白キ者ハ陰ノ氣ナリ、故ニ殷ニハ地正ト爲シ、色ハ白ヲ尚フ、十一月ノ時ニ、陽氣始テ根核ヲ養フ、故ニ黄泉ノ下、萬物皆赤シ、赤キ者ハ盛陽ノ氣ナリ、故ニ周ニハ天正ト爲シ、色ハ赤ヲ尚フ、又云ク、天道ハ左行ス、正ヲ改テ右行スルコトハ、天ヲ改ムルニ非、但ニ日月ヲ改ムル耳、日月ハ右行ス、故ニ正ヲ改メテ右行ス、日ハ月ヨリモ尊シ、正ト曰言ハ不シテ、正月ヲ言フコトハ、日ヲ積テ月ヲ成ス、

物月ニ隨テ變ス、物ニ執テ正ト爲シ、天ハ質ニ地ハ文ナリ、周ハ天ニ統ニ反スルコトハ何ソヤ、質ハ文ハ再ニシテ改マリ、正朔ハ三ニシテ易ハル、三ニ質ハ文微シ、正ニ相ヒ因ラ不、故ニ正ハ質ハ文ニ隨ハ不、三統ノ義此ノ如シ、然シテ（然ルニ）舊問ニ云ク、夏ニハ建寅ヲ用テ正ト爲シ、物初メテ出ツ、色黒シ、故ニ黒ヲ尚フ、今草木ノ初メテ生スルニ就トキハ、皆青シ、而ルヲ黒ト云フハ何ソヤ、舊通ニ云ク、物初メテ出ツ、乃チ青シ、遠望スル則ハ黒シ、人功ハ廣遠ナルコトヲ貴フ故ナリ、且タ一日ノ中、天青時有り、故ニ其ノ黒ニ取ル、又舊問ニ、三正ヲ正ト爲ルコトハ、是レ三王ヨリトヤセン、上代ヨリトヤ爲シ、已舊通有り、二家有リ、一ニ云ク、正ハ三代ニ有り、三代ノ時ニ相ヒ統フ、故ニ須ク變革シテ相示ス須シ、又一一家ニ云ク、書籍ヨリテ自從、而モ三正有り、伏羲ヲ人統ト爲シ、神農ヲ地統ト爲シ、黃帝ヲ天統ト爲シ、少昊ハ天統ノ猶シ、言ハ是レ、黃帝ノ子ナリ、故ニ統ヲ改メ不、顓頊人統ト爲シ、帝嚳ヲ地統ト爲シ、帝堯ハ是レ嚳ノ子爲リ、亦タ地統ト爲シ、帝舜ヲ天統ト爲シ、夏人統ト爲シ、殷ハ地統ト爲シ、周ヲ天統ト爲シ、三正相イ承テ、連環スルカ若シ、今ハ後ノ釋ニ依ル、必人ニ從リ始ト爲ル所以ハ、三才ハ人ヲ須チテ、乃シ成ル、是レ故ニ人ニ從テ始ト爲シ、而ルヲ禮一家ニ、夏ニ從リ始ト爲

ルコトハ、夏ハ是レ三王ノ始ナリ、故ニ之ヲ擧ク、又建卯、建辰ヲ用テ、正ト爲不ルコトハ、時于、萬物齊カラ不、統フ所ニ適フコト莫シ、

【經】

其或繼周者、雖百世、亦可知也、

其レ周ニ繼ク者或ラハ、百世ト雖モ、亦知ヌ可シ、

【疏】

既因變有常、故從今已後、假令、或有繼周而王者、王者相承、至於百世、亦可逆知也、言或者爾時周猶在、不敢指斥百代、故云其或也、

既ニ因變常有リ、故ニ今從リ已後、假令、或ハ周二繼テ王者タル有テ、王者相承テ、百世ニ至ルトモ、亦逆メ知ヌ可シ、或ト言コトハ爾ノ時周猶ヲ在リ、敢テ百代ヲ指シ斥サ不、故ニ其レ或ト云フ、

【注】

馬融曰、物類相招、

馬融カ曰ク、物類相ヒ招ク、

【疏】

謂三綱五常、各以類相招、因而不變者也、

三綱五常ヲ謂フ、各類ヲ以相ヒ招ク、因而變セ不ル者ナリ、

【注】

勢數相生、

勢數相ヒ生ル、

【疏】

謂文質、三統、及五行、相次、各有勢數也、如大昊木德、神農火德、黃帝土德、少昊金德、顓頊水德、周而復始、其勢運、相變生也、

謂ル文質、三統、及ヒ五行、相ヒ次テ、各勢數有リ、大昊ハ木德、神農ハ火德、黃帝ハ土德、少昊ハ金德、顓頊ハ水德ノ如シ、周ツテ復タ始マル、其レ勢運シテ、相イ變シ生ル、

【注】其變有常、故可豫知也、

其ノ變常有リ、故ニ豫^{アラカシ}メ^ル知^ル可^シ、

【疏】

豫逆也、有因有變、各有其常、以此而推、故百世可逆知也、

豫ハ逆ナリ、因^レ有^リ變^レ有^リ、各其ノ常^{ツネ}有^リ、此ヲ以^テ推^ス、故ニ百^ニ世^モ逆^メ知^ル可^シ、

(一) 「否」、武内本作「不」。

(二) 「浮」、武内本作「孚」。

(三) 「牙」、武内本作「芽」。

(四) 「施」、武内本作「旋」。

(五) 「月」下、武内本有「者」字。

(六) 「問」下、武内本有「云」字。

(七) 「帝堯是爲嚳子」、武内本作「帝堯爲是嚳子」。

(八) 「者」、武内本作「王」。

(九) 「百」、武内本作「有」。

【經】子曰、非其鬼、而祭之、諂也、

子ノ曰ク、其ノ鬼^ニ非^{シテ}、祭^ルハ、諂^ヘルナリ、

【疏】

諂、橫求、鬼神、聰明正直、不歆非禮、人若非已祖考、而祭之、是爲諂求福也、

諂トハ、横^{ヨシ}ニ求^ムルナリ、鬼^ノ神^ハ、聰^明正^直ニシテ、非^レ禮^ヲ歆^ケ不^レ、人^ノ若^シ己^ノ祖^ノ考^ニ非^{シテ}、之^ヲ祭^ルハ、是^レ諂^テ福^ヲ求^ムト爲^ス、

【注】

鄭玄曰、人神曰鬼、非其祖考、而祭之、是諂以、求福者也、

鄭玄カ曰ク、人^ノ神^ヲ鬼^ト曰^フ、其ノ祖^ノ考^ニ非^{シテ}、祭^ルハ、是^レ諂^テ、福^ヲ求^ムル者^{ナリ}、

【經】

見義不爲、無勇也、

義ヲ見テ爲不ルハ、勇無キナリ、

【疏】

義、謂所宜爲也、見所宜爲之事、而不爲、是無勇敢也、

義トハ、宜ク爲宜キ所ヲ謂フ、宜ク爲宜キ所ノ事ヲ見テ、
爲不ルハ、是レ勇ノ敢無ナリ、

【注】

孔安國曰、義者、所宜爲也、而不能爲、是無勇也、

孔安國カ曰ク、義ハ、宜ク爲宜キ所ナリ、而ルヲ爲ルコト
能ハ不ルハ、是レ勇無キナリ、

(一) 「福」下、武内本有「者」字。

論語卷第一

(一) 「論語卷第一」、武内本作「論語義疏第一」。

(二) 「一」下、武内本有「經一千四百七十字／註一千
五百十三字」十六字（小字雙行）。

（為政篇担当 齋藤建太）